

平成八年度

学生便覧

平成六年度以前入学者用

K
ANDA

UNIVERSITY OF

INTERNATIONAL

STUDIES

神田外語大学

XIV 平成8年度開講科目概要説明（講義概要）

1. 一般教育科目等

1) 人 文

歴	史	A	はり 針	がや 谷	ひろし 寛	4 単 位
						1 ～ 4 年
						通 年

「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、ヨーロッパ近代社会とその思想の諸問題を検討する。

<前期>

前提としてボリス市民社会像、中世都市市民社会像を見た後、近代的国家形成の問題からカントの社会理論までを扱う予定。

<後期>

前期で扱った内容をふまえながら、カントからヘーゲルへの社会理論の変化をとおして、フランス革命、産業革命期以後の社会の問題を検討する。

試 験：定期試験もしくはレポートによって成績を評価する。

歴	史	B	やま 山	りょう 領	けん 健	じ 二	4 単 位
							1 ～ 4 年
							通 年

<前期>

日本近・現代史概説

今日の諸問題の起点として20世紀初頭を中心に日本の歴史を概説する、日本の近・現代史の講義である。
政治・社会・経済・文化など、さまざまな角度から今日の問題を考える手がかりを発見して行きたい。

テキストは聴講の手引きおよびレポートの課題図書として利用する。

<後期>

戦時期日本史概説

半世紀を隔てて、そろそろ忘却されようとしている戦時期（1931～1945年）を中心に日本の歴史を考察し、近代日本の歴史全体を再考するための手がかりとしたい。

試 験：前期は定期試験により、後期はレポートにより成績評価をする。

テキスト名：授業の中で指示する。

歴	史	C	かつら 桂	よし 芳	き 樹	4 単 位
						1 ～ 4 年
						通 年

パリの歴史と文化

パリ発祥の地サン・ルイ島、シテ島から始まって、ポーブール、チュイルリー、サンジェルマン・デ・ブレ、カルティエ・ラタン、植物園地区。リュクサンブール公園、モンパルナス、廃兵院、ジャイヨー宮、シャン・ゼリゼーなど、セヌ川を中心として左岸・右岸を螺旋状に辿って、パリ24区の歴史と文化を探索する。

試 験：定期試験もしくはレポートによって成績を評価する。

テキスト名：『地球・街角ガイドパリ』同朋舎出版

歴	史	D	かつら 桂	よし 芳	き 樹	4 単 位
						1 ～ 4 年
						通 年

ローマの歴史と文化

カピトリウム、フォルム・ロマーヌム、パラティヌムなどの古代都市、中世の教会や巡礼路、ルネサンスからバロック、ロココに至る宮殿、離宮、別荘、庭園などの建築群、18・19世紀の交・新古典主義時代に永遠の都を訪れた知的旅行者のメッカ・スペイン広場、映画「甘い生活」に見られる現代風俗の最先端ヴィア・ヴェネトなど、ローマは古くて新しく、その奥深さは測り知れない。地域順に話を進める。

試 験：授業中に取り上げた歴史と文化についてのテーマからいくつかを選んで、各自の言葉で要約し、記述してもらう。

テキスト名：『地球・街角ガイド ④ ローマ』同朋会出版

歴	史	E	さい 齋	とう 藤	とおる 融	4 単 位
						1 ～ 4 年
						通 年

＜前期＞

日本の前近代、特に中世から近世にかけての歴史を概観し、日本史に対する理解を深めることを目的とする。主として鎌倉・室町時代を扱う。

＜後期＞

前期に継続し、江戸時代を扱う。

試 験：前期は論述試験と夏季のレポート。後期は論述試験を予定している。出席の悪い場合は厳しい評価もあり得る。

テキスト名：竹内 誠ほか編『教養の日本史』東京大学出版会

歴	史	F	さい 齋	とう 藤	とおる 融	4 単 位
						1 ～ 4 年
						通 年

＜前期＞

古代日本における国家の形成は、古代中国にて発達した律令法典を体系的に受容し、独自の律令を制定することによって行われた。その様相を東アジア世界の中に位置付けつつ、概観してみたい。時期は7世紀半ば～10世紀を主として扱う。

＜後期＞

前期に継続して、時期は9世紀以降を扱う。

試 験：前期は論述と夏季のレポートを予定している。後期は論述試験。平常点もある程度考慮する。

テキスト名：笹山 晴生著『日本古代史講義』東京大学出版会

哲	学	A	ふる 古	た 田	ぎょう 暁	4 単 位
						1 ～ 4 年
						通 年

＜前期＞

アメリカの社会学者ダニエル・ベルは、情報社会から知識社会への移行を、世界の社会動向として予測している。知識社会は理論知を軸として形成される。この理論知とは、勘とか経験ではない、法則的、統一的、論理的知識である。それこそがギリシャ古典時代の哲学で、そのうちには現在の自然科学も含まれていた。そこで古代ギリシャ以来の哲学を、「存在」「神」「知」「人間」に焦点をあてて学びたい。

古代、中世について講読をする。

＜後期＞

近世、現代について講読をする。

テキスト名：『哲学のエボック』辻村、佐藤、小熊、神子上編 ミネルヴァ書房

哲	学	B	ひ 樋	かさ 笠	かつ 勝	し 士	4 単 位
							1 ～ 4 年
							通 年

《哲学概論》

＜前期＞

西洋哲学の主要問題について概説する。人間の心のあり方、世界や共同体のあり方、そしてこれらを「問う」という営みなどについて、西洋哲学史上の主な理論を参照しながら哲学者たちと問題を共有してゆきたいと思う。人数によってはゼミ形式にし、活発なディスカッションをしたり、また現代的問題なども扱うことを予定している。

＜後期＞

前期の内容をふまえて、受講者の問題提起に即して、より具体的かつ現在のな問題について論じてゆきたい。

試 験：未定

参 考 書：シュヴェーグラー著『西洋哲学史（上）』岩波文庫

哲 学 C	ひ 樋 かき 笠 かつ 勝 し 士	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

《哲学とは何か》

＜前期＞

我々の日常生活の中では様々の「問題」が生じている。この「問題」は、我々が「問題提起する」ことから生ずる。従って、我々の「問題意識」のあり方が日常生活を決定づけていると言ってよい。では、我々の「問題意識」はどのようにして成立してくるのか。これを考えてみたい。

哲学は机上の空論ではない。日常生活にどれ程根ざしているかを知ってもらいたいと思う。

＜後期＞

前期の内容をふまえて、出来れば個々の理論を参照しつつ「問題の共有」をめざしてゆきたいと思う。

試 験：未定

倫 理 学 A	く 窪 た こう めい 窪 田 高 明	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

倫理学は人間の生き方を考える学問である。しかし、学問は個々の人間の個々の問題に対して、「このように行為しなさい」という答えを示すわけではない。だが、人間の生き方に無効な研究であれば、倫理学は単なる知的遊戯になってしまう。倫理の学は、この問題を踏まえて展開されなければならない。倫理学の問いの特徴を考えながら、現実の問題とのかかわりの中で倫理学的思考を学ぶようにしたい。

＜後期＞

現代の倫理思想の重要な文献の読解をとおして、現代の倫理学の問いを学ぶことにする。取り上げる文献は、現在のところミシェル・フーコー『性の歴史』を予定している。

試 験：前後期とも試験の予定。

テキスト名：未定

倫 理 学 B ・ C	み やけ まさ ずみ 三 宅 正 純	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

倫理学は、異邦や過去の人々の思想にふれることによって、現在のわれわれの生き方、振る舞い方を振り返り、考えるという営みである。本講義はこうした営みを、様々なテーマをとりあげながら、行なっていくものである。予定しているテーマは、「自然」「恋」「身内と他人」などである。

＜後期＞

前期に引きつづき、「アイデンティティ」「感覚」などをテーマに、講義を行なう。

試 験：前期、後期それぞれの終了時に、レポートないし試験を実施する。

テキスト名：『空間の日本文化』、オギュスタン・ベルク、ちくま学芸文庫

宗 教 学	や うち よし あき 矢 内 義 顯	4 単 位
		1 ～ 4 年
		※ 前 期

宗教学の学問的位置、成立、諸分野について述べ、ついで宗教一般の体質、諸特性および文化、社会、人間の生活における機能について考えたのち、個別の歴史的宗教のあり方を考える。

試 験：試験を行う。

テキスト名：未定

※今年度は週に2回授業が行なわれる。いずれか一方だけを履修するということとはできないので、注意すること。

文 学 A ・ B	いけ 池 だ 田 こう 弘 いち 一	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

同一の素材を扱った古典と現代作品とを比較しつつ読み味わい、日本文学の特質を考えることを目的とし、「古事記」の神話群から“大国主神”にかかわる話を、“須佐能男命・須世理毘売”のくだりを中心に切りあげ、芥川龍之介の「素戔鳴尊」と読みくらべて芥川作品の特質を吟味する。作品の朗読、説明を求める。また、出欠席・遅刻など受講姿勢についても厳しく対処し、5回の欠席を重ねた者には単位を認めない。

<後期>

“俊寛”をテーマとして古典と現代作品を読みくらべて日本文学の特質を考える。すなわち、「平家物語」に語られる“俊寛”から始めて、謡曲の“俊寛”、浄瑠璃「平家女護島」の“俊寛”を読み、続いて倉田百三・菊池寛・芥川龍之介・吉川英治など近代作家の“俊寛”と比較研究する。前期と同様に朗読・説明を求め、出欠席・遅刻を厳しくみ、5回の欠席を重ねた者には単位を認めない。

試 験：前期・後期末に提出する研究作品の評価に出席点・平常点を加味して総合評価する。

テキスト名：『日本文学、古典と近代』桜楓社

文 学 C	なが 長 せ 瀬 おさむ 治	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

日本最古の文献である『古事記』は、神話・歴史・伝説等、日本文学、日本国語の源泉を伝えた、民族の古典なのである。国際化の叫ばれる今こそ、語学を専攻とする諸君と共に原文で読んで、語学、文学の面から攻究したいと思う。

この最古の難解な古典を、一つの外国文学の作品とも思って、困難を克服しながら、むしろ古人が、語部の語りに傾聴して打ち興じたように、私どももまた感銘を体験したい。

<後期>

前期は神代巻を中心に読むので、難しかったと思うが、幸いそこで修得した古典の読解力を活用して、引き続き神代巻の神々の説話から中巻・下巻の、語部たちが心血を注いで謡って語り、私どもの遠い父祖が心躍らせた哀歓を追体験して、語学・文学の楽しみを、享受したいと思う。講義に参加して、その醍醐味を共に謳歌してみませんか。そして人間に共通した哀歓を識って、思いやりの温かな、人間味を持った人を目ざしましょう。

試 験：半期末ごとのレポートまたは筆記による試験成績と、平常点（出席重視）とを併せて評価する。

テキスト名：武田 祐吉・中村 啓信校注『古事記（角川文庫）上巻』角川書店 ￥680

文 学 D	なが 長瀬 おさむ 治	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

日本文学の伝統は律文学によって継承されてきた。その源泉は『万葉集』である。20巻4500余首の国民的大歌集である。全部の履修は望めない。そこで巻一・二だけを、当面の対象として講読する。この二つの巻々は宮中の大歌所に伝えられたわが国の最も伝統的なもので2巻併せて勅撰和歌集的な様相を呈している。従ってこの部分を学習すれば、万葉集全体の縮図をかいま見ることになる。その中でも特に優れた歌を厳選して読もう。

<後期>

前期間10回余の講読によって得た語学力と文学への理解鑑賞力を踏まえて、さらに高度の理解と鑑賞を深めたい。難解ではあるが万葉集は外国語ではない。私どもの遠い父祖たちの日常語であったもので、現代語の祖語である。ただ後期に初めて万葉を学ぶ人たちには、当初は難しいであろうが、努力して他の人たちに伍して、文学享受の喜びを知っていただきたい。苦しみが大きいほど、そこから得る楽しみは大きく深いはずです。

試 験：半期ごとの筆記またはレポート試験の成績と、平常点（出席重視）とを併せて評価する。

テキスト名：桜井 満・並木 宏衛校注『万葉集 巻一・二』新典社刊 ￥1133

文 学 E ・ F	うち 内田 だ しゅん 俊 一	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

ドイツ文化とユダヤ系知識人の関わりをテーマとして講義する。ナチスによるホロコースト（ユダヤ人皆殺し）の惨劇を経た現代から振り返ると、奇異に聞こえるかもしれないが、ドイツほどユダヤ系知識人の活躍した国はほかになかった。むしろドイツの近代文化そのものが、当初からユダヤ的知性との関わりの中で形作られていったという一面を持っている。前期はドイツ精神史へのユダヤ系知識人の登場から、詩人ハインリヒ・ハイネまでを扱う。

<後期>

ドイツ文化に占めるユダヤ系知識人の比重がいかに大きかったかは、マルクス、フロイト、アインシュタインという3つの名前を挙げるだけでも知れよう。後期はカール・マルクスから、ユダヤ的知性のドイツ文化への寄与が頂点に達したとも言える世紀転換期のウイーン、ワイマール時代のドイツを経て、ルーマニアに生まれ、親兄弟を殺した敵の言語であるはずのドイツ語で詩を書き続け、パリで自殺したパウル・ツェランまでを扱う。

試 験：前期は期末の試験、後期はレポートの結果で評価する。

テキスト名：なし

参考文献については随時指示するが、さしあたり以下のものを挙げておく。

山口 昌男『本の神話学』中公文庫

アイザック・ドイッチャー『非ユダヤ的ユダヤ人』岩波新書

文 学 G ・ H	いの井 うえ上 まさ正 あつ篤	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

「愛」、「死」、「実存」をキーワードに、内外の小説の名作を鑑賞する。小説の細やかな読み込みと、人生を文学的・哲学的に深く考察することを体得されたい。

<後期>

前期と同じ主旨にのっとり、別の小説を扱っていく。

試 験：レポートを課す。詳細は掲示する。

テキスト名：前期 カ フ カ 『変身』岩波文庫
夏目 漱石 『こころ』岩波文庫
後期 カ ミ ュ 『異邦人』新潮文庫
夏目 漱石 『それから』岩波文庫

美 術 A ・ B	よし吉 むら村 とし稔 こ子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

日本彫刻史（上）
飛鳥、奈良時代の仏像彫刻の代表的作品をとりあげ、関連する諸問題について講義する。スライド等使用。

<後期>

日本彫刻史（下）
平安・鎌倉時代の仏像彫刻の代表的作品をとりあげ、関連する諸問題について講義する。スライド等使用。

試 験：前期、後期とも定期試験。適宜レポート提出を課する。

参 考 書：水野 敬三郎『岩波ジュニア新書89 奈良・京都の古寺めぐり』岩波書店

美 術 C ・ D	よし むら とし こ 吉 村 稔 子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

日本美術史概説（上）

飛鳥から平安時代に至る仏教美術を中心に概説する。各時代の建築・彫刻・絵画の代表的作品を鑑賞しつつ講義をすすめる。スライド等使用。

<後期>

日本美術史概説（下）

鎌倉から江戸時代に至る世俗美術を中心に概説する。各時代の建築・絵画・工芸の代表的作品を鑑賞しつつ講義をすすめる。スライド等使用。

試 験：前期、後期とも定期試験。適宜レポート提出を課する。

参 考 書：『[カラー版] 日本美術史』美術出版社

言 語 学 入 門 A	かな おか ひで ろう 金 岡 秀 郎	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

ことばとは何か。大学では外国語の学習に追われ、ことば一般の問題を考える機会は少ない。しかし、言語学の知識のない外国語学習は一面的理解に過ぎない。本講座では、言語学の基本的な考え方を学び、ことばに対する視点を豊かなものにしたい。同時に、ことばと精神・文化・社会とのかかわりも考察したい。学生の積極的な出席が望まれる。

<後期>

前期の進捗状況に鑑み、講義を続行する。

試 験：前期最終授業で筆記試験実施。後期はレポート提出（課題は授業で指示する）。

テキスト名：田中 春美他著『言語学のすすめ』大修館書店

金岡 秀郎著『モンゴルは面白い』トラベルジャーナル

言語学入門 B	かな 金	おか 岡	ひで 秀	ろう 郎	4 単 位
					1 ～ 4 年
					通 年

<前期>

言語とは何かを考えると、われわれは母語と部分的な外国語の知識のみを基準とする。本講では、言語学の基本的な考え方を学び、さらにアジアの諸言語の特色を概説しつつ、言語とは何かを考察したい。言語が現象界をどのように捉えるかを考えるのも、本講の目的の一つである。学生の積極的な出席が望まれる。

<後期>

前期の進捗状況に鑑み、講義を続行する。

試 験：前期最終授業で筆記試験実施。後期はレポート提出（課題は授業で指示する）。

テキスト名：田中 春美他著『言語学のすすめ』大修館書店
金岡 秀郎著『モンゴルは面白い』トラベルジャーナル

言語学入門 C	ふじ 藤	た 田	とも 知	こ 子	4 単 位
					1 ～ 4 年
					通 年

<前期>

外国語を学ぶ私たちはつねに新しい、知識の吸収と実践を行っています。それと並行して、言語はどんな仕組みをもち、どう機能しているのか考えてみることも大切です。外国語を学び自らのものにしようとしている私たちにとって、それは言語についての新しい視点を与えてくれるかもしれません。扱う主な項目は次の通りです。1) 世界の言語 2) 言語の分類 3) 歴史・比較言語学 4) 動物のコミュニケーション 5) 言語の機能 6) 記号としての言語 7) 言語の音声、音声学と音韻論

「入門」なので1－2年次での履修をお勧めします。

<後期>

前期と同じ方針で授業を行います。言語学の分野である形態論、統辞論、意味論、語用論における問題の組み立て方と観察の仕方を、具体的な言語事実の分析を通して学びます。その問題が自分が知っている言語ではどうなっているのか常に考えていただきたいと思います。履修者数の関係で、授業は講義形式になりますが、学生の方々の参加を期待します。

試 験：学期末に筆記試験を行ないます。

テキスト名：必要に応じてプリント配付

言語学入門 D・E	さかい 堺	かず 和	お 男	4 単 位
				1 ～ 4 年
				通 年

<前期>

「言語研究史」

科学としての言語学は19世紀に成立したが、その背後には言語についての多様で広範な思索と探究とが積み重なっている。そのような言語研究の歴史の中から科学的な言語学の成立につながるいくつかの契機をとりあげ現代言語学の中心課題を明らかにする。

目次：古代インド、古代ギリシア、古代ローマ、中世ヨーロッパ、ルネサンス、近代ヨーロッパ、19世紀、20世紀。

<後期>

「言語・歴史・文化」

現代言語学の中心課題のいくつかについて、文化の1形態としての言語を特に史的变化という動的な側面からとらえることによって論じてみる。

目次：文学論・文字学、史的言語学、印欧語比較文法、言語類型論、言語と文化。

試 験：前期は定期試験、後期はレポートによって評価をする予定。

テキスト名：参考文献等は随時指示する。

言語学入門 F	いずみ 泉	くに 邦	ひさ 寿	4 単 位
				1 ～ 4 年
				通 年

<前期>

人間の認知、コミュニケーション活動の重要な能力としての言語をどのようにとらえていくかを考え、その理解の方法としての言語学を、身近な言語現象を取り上げながら説明する。自ら問題を発見し、データをもとにして説明していく（理論を考えていく）態度を身につけてもらいたい。参考文献は適宜指示していく。

言葉とは何か、言語のバラエティー、言語学の考え方、音韻、形態、統語が中心となろう。

<後期>

意味、語用を中心とし、隣接領域を含めて認知、文化、社会との関わりをも考えることにしたい。

試 験：各期末に1回試験を行う。途中で何らかの報告を出してもらう可能性もある。

身体運動文化論 A	とみ 富 まつ 松 きょう 京 いち 一	2 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

近代スポーツの象徴のひとつとしてオリンピックがあげられる。本講義は100年を向えようとする近代オリンピックの各開催を歴史的経過の中から概観しスポーツとは何かということを考えてみたい。

試 験：出席状況、課題のできばえ、レポート等で評価する。

身体運動文化論 B	とみ 富 まつ 松 きょう 京 いち 一	2 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

“運動技術は文化になりうるか？”

今日、私たちとスポーツの関係は非常に密接である。それはスポーツが私たちの生活に深く入り込んでい
るからであろう。換言すればスポーツは文化性の高い活動ということになろう。本講義はスポーツを成立さ
せる構成要素としての技術を中心に用具、ルール等を歴史的経過の中から概観しテーゼの解答にせまりたい
と思う。

試 験：出席状況、課題のできばえ、レポート等で評価する。

言 語 哲 学	樋 笠 勝 士	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

なぜ言語は哲学的問題となるのか。そして、「言語哲学」とは何か。このような点を先ずおさえておきたいと思う。

言語は人間の生から切り離せないものである。従って、言語について問うことは人間の生について問うことになる。これを、起源、効用、価値、機能など様々の観点から考えてゆきたい。

＜後期＞

言語記号論を論ずる。古典古代の記号論から、近・現代の記号論までを史的に概説する。目次は以下のものを予定している。

1. 古典的記号論
2. 現代の記号論
3. コミュニケーションと解釈学

試 験：未定

歴 史 学 演 習	はり 針 がや 谷 ひろし 寛	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

共通のテキストに関し、分担して報告してもらい、討論を中心にして進める。テキストは未定であるが、できれば古典的なものを、と考えている。履修者の状況によっては、特殊なテーマの諸文献になることもありうる。

試 験：平常の学習とレポートによって成績を評価する。

哲 学 演 習	ひ 樋 　 か さ 笠 　 か つ 勝 　 し 士	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

プラトンの『国家』を読む。人間の心のあり方、社会（共同体）のあり方、そして知を愛求する営みなど様々の観点から自由に問題提起してゆきたい。受講者としては、「哲学」の講義を聴講したことがあり、毎回積極的にディスカッションに参加し、テキストを細かく読みとろうとする者であることを期待する。

試 験：未定

テキスト名：プラトン『国家』上・下 岩波文庫
 （英訳などのプリントも使用する予定）

文 学 演 習	し が な み 志 賀 浪 　 ゆ う こ 優 子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

森鷗外は明治21年9月、4年に及ぶドイツ留学を終えて帰国するなり、ドイツ留学記念三部作と呼ばれる「舞姫」、「うたかたの記」、「文づかひ」を次々に発表した。この三部作と「独逸日記」をテキストに、ドイツ体験がどのように文学作品に昇華されたかを調べる。

試 験：定期的にレポートを発表し、一年の終わりにはそれを論文にまとめて提出する。

テキスト名：『舞姫』『うたかたの記』『文づかひ』『独逸日記』、その他参考資料は授業中に指示する。

比較スポーツ文化論演習	とみ 富	まつ 松	きょう 京	いち 一	4 単 位
					1 ～ 4 年
					通 年

今日、スポーツは文化、社会指標として重要なキーワードと考えられる。比較スポーツは二つ以上の社会、地域、国家等のスポーツの類似点や相違点を比較分析するものであると考えられる。

<前期>

比較分析の方法を用いた文献を読み方法論のスタイルを理解するとともに文化としてのスポーツの認識、理解を深める。

<後期>

比較分析の方法論とスタイルを考慮しつつ各自でテーマを設定しレポートを作成する。さらに、レポートをもとにその成果の発表と質疑応答の時間を設定し相互に内容理解を深める。

試 験：出席状況、課題のできばえ、レポートで総合的に評価する。

2) 社 会

社 会 学 A	やま ぎし み ほ 山 岸 美 穂	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

社会学の課題は、人間、社会、日常生活を深く理解することにある。この講義では、社会学の基本的なものの見方、考え方を学習しながら、具体的な日常生活の理解を目指したい。住まうこと、食事をする事、服を着ること、働くこと、祈ること、遊ぶこと、誕生から死まで、人生のさまざまな場面をクローズ・アップしながら、さまざまな人々との出会いと交わりのなかで、人生を旅することの意味を考察したい。

<後期>

現代はいかなる時代なのか。私たちの日常生活は、時代の移り変わりのなかでどのように変貌しているのか。現代の時代様相、人間の存在様相を理解するために、多角的に〈日常的世界〉へのアプローチを試みる。文学、写真、絵画、音楽などにも注目しながら、人間、社会、日常生活を理解するための視野を拡げていきたい。日常生活の舞台で人々が展開するドラマから、社会の仕組みを読み解き、これからの時代の人間の生き方を考察する。

試 験：前期、後期とも試験を行なう。

テキスト名：『日常生活の社会学』山岸 健著、NHK ブックス309、昭和53年

参 考 文 献：『社会学史の展開』山岸 健・船津 衛編著、北樹出版、平成 5 年

社 会 学 B	やま ぎし み ほ 山 岸 美 穂	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

社会学の課題は、人間、社会、日常生活を理解することにある。ここでは、人々の〈時間〉、〈空間〉体験に注目しながら、具体的に人間理解、社会理解、日常生活の理解を試みたい。人々の出会いと交わり、文化、コミュニケーションを主要なパースペクティブとして、人間の生活体験を読み解いていく。人生を旅することの意味を、時間、空間体験を手がかりに考察し、さまざまな人々が共に生きることの意義を考察したい。

<後期>

都市とは何か。さまざまな人々が出会い、交わる都市は、私たちの日常生活の舞台であり、人々の世界体験に、大きな変容をもたらすメディアでもある。ここでは、変貌する都市、東京を中心に、日本や諸外国の都市を考察しながら、人々の時間、空間体験を探究する。写真、絵画、音楽などに注目しながら、日々の平凡な出来事を多角的に考察したい。変わりつつある時代を理解する手がかりが、都市における人々の体験に見出されるのだ。

試 験：前期、後期とも試験を行なう。

テキスト名：『家族/看護/医療の社会学 ―人生を旅する人びと―』山岸 健編著 SANWA CO.,Ltd.
平成 7 年

社 会 学 C ・ D	あん どう きく お 安 藤 喜久雄	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

社会の基礎的単位としての人間の行為の分析から始める。次いで、人間の行為を規制する規範、価値をはじめ、対人関係、コミュニケーション、社会化など社会学の基本的概念の検討を通じて現代社会と個人とのかわりを考える。授業ではできるだけ具体的事実 に即して説明する。

＜後期＞

社会学の対象である家族、地域、組織、社会構造などについて、これまでの研究成果をふまえて説明する。これらの説明を通じて社会的理解を深めるように努める。それとともに、上記の各分野において、現在、何が問題であるかを明らかにし、現代社会に対する理解を深めるように心掛けるつもりである。

試 験：期末に試験を行い、出席点と合わせて成績評価とする。

テキスト名：安藤 喜久雄・児玉 幹夫編著『社会学概論』学文社

法 学 A	あお やま はる き 青 山 治 城	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

現代は、国内社会も国際社会も非常に大きな変動期に入っている。したがって、これら国家内外の社会を秩序づけてきたヨーロッパ起源の近代法原則の再考が求められている。本講では、できるだけ具体的な問題に即しつつ主に国家・憲法の基本原理を中心に考えていきたい。

＜後期＞

前期に引き続き、近代の民法、刑法の諸原理を現代社会に即して考え直す。所有権はどのようにして正当化されるのか、約束はなぜ守らなければならないのか、犯罪とは不道德な行為とどう違うのか、等々身近な問題を取りあげながら現代社会における正当な法秩序とはどういうものか、を考えていきたい。

試 験：前・後期それぞれレポート、論述試験を各1回課す予定。

テキスト名：広岡 隆『法と社会』ミネルヴァ書房

法 学 B	もり 森	した 下	し 史	ろう 郎	4 単 位
					1 ～ 4 年
					通 年

<前期>

法の発展、法と裁判、裁判の基準、法の解釈といった法学の原理的な面と憲法の典型的な人権問題の検討を中心に講義を進める予定。

<後期>

犯罪と刑罰、家族、契約の自由、損害賠償、生存と環境保護といったテーマに即して、重要判例を紹介しながら講義を進めていきたい。

試 験：年2回の定期テストによる評価

テキスト名：『法学入門』 末川 博編 有斐閣双書

政 治 学 A	いけ 池	や 谷	とも 知	あき 明	4 単 位
					1 ～ 4 年
					通 年

<前期>

現代デモクラシーの展開を現実政治の中で考察していく。議会、政党、選挙、圧力団体などについて、主に日本の事例を取り上げながら検討するが、適宜欧米の事例との比較も行う。この作業を通じ、わが国のデモクラシーの特質や問題点を明らかにし、変化しつつある現代日本政治を考える基礎をつくっていくことを目標とする。

<後期>

現代政治はデモクラシーを前提とし、また、今日では、ほとんどすべての国、市民がデモクラシーを肯定的に受け入れていると言ってよい。しかし、これは、歴史的には、20世紀以降の新しい現象である。それでは、デモクラシーはどのように展開し、また現代どのように変化しつつあるのか、そもそもデモクラシーとは何か、これらのことをいっしょに考えてみたい。

試 験：前期末、後期末に各1回ずつ試験を行う。また任意のレポートを何回か課す予定。

テキスト名：教科書はとくに指定しない。参考文献は適宜指示する。

政 治 学 B	いけやともあき 池谷知明	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

現代デモクラシーの展開を現実政治の中で考察していく。議会、政党、選挙、圧力団体などについて、主に日本の事例を取り上げながら検討するが、適宜欧米の事例との比較も行う。この作業を通じ、わが国のデモクラシーの特質や問題点を明らかにし、変化しつつある現代日本政治を考える基礎をつくっていくことを目標とする。

＜後期＞

一般にデモクラシーは英米的なデモクラシーとして理解されるが、大陸ヨーロッパの国では、それとは異なる形でデモクラシーが展開してきた。大陸ヨーロッパのいくつかの国（イタリア、オランダ、ベルギー等）を例にしながら、これらの国で展開されてきた政治について考察し、それが英米的なモデルとどのように異なるか、また現代デモクラシーの進展の上でどのような意味をもっているかについていっしょに考えてみたい。

試 験：前期末、後期末に各1回ずつ試験を行う。また任意のレポートを何回か課す予定。

テキスト名：教科書はとくに指定しない。参考文献は適宜指示する。

経 済 学 A ・ B	ながおてるや 長尾昭哉	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

経済学という学問のなりたち、学び方、主要な学説の基本内容など。
現実の日本経済、国際経済について、データを通じて学ぶにはどうすればよいか。

試 験：期間中に実施する。

テキスト名：長尾著『やさしい経済学の本』同文館

心 理 学 A ・ B ・ C	や べ ふ み え 矢 部 富美枝	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

人間を一種の情報処理システムと見なす認知心理学の観点から、主として環境から受け取った情報の処理、即ち環境の認知の過程について概観する予定である。(定員60名)

試 験：定期試験（年2回）

テキスト名：大山 正（編）『実験心理学』東京大学出版会

心 理 学 D ・ E	や べ ふ み え 矢 部 富美枝	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

社会心理学入門であるが、本年度は不特定多数の人々によって作り出される社会心理学的な諸現象、即ち集合現象を中心に概観する予定である。

試 験：定期試験（年2回）

テキスト名：大橋 正夫、佐々木 薫（編）『社会心理学を学ぶ』有斐閣

心 理 学 F	た はら しゅん じ 田 原 俊 司	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

発達心理学入門

本講義は子どもの精神発達及び発達障害に対する対応の二側面から子どもの発達について検討することを目的とするものである。前期は精神発達の概論及び発達遅滞・障害における対応をカウンセリングを中心に検討する。

<後期>

発達心理学

前期の知見を深めることを目的とし、精神発達の中で特に言語発達、Theory of Mindなどのトピックをとり上げることとする。

試 験：レポート試験を実施の予定である。

テキスト名：『いじめ相談室―ベテラン教師からのメッセージ』田原 俊司（編著）1991、八千代出版
『現代教育への視座』1993、八千代出版
『研究領域 言語』1994、横山 正幸（編著）北大路書房

教 育 学 A ・ B	あずま とし のり 東 敏 徳	2 単 位
		1 ～ 4 年
		前期・後期

教育ほど人の一生の中で重要なことは数少ない。その意味で私たちは教育について、学校教育を含めて、より広い範囲で考えなくてはならない。本講義ではまず、人が成長していく中で教育の果たす役割について考える。それはとりもなおさず、「教育とは何か」という問いにつながる。この問いは歴史上多くの人々により答えられてきた。その足跡を辿ることで教育に関わる本質的な知識を獲得することができる。また、授業では教育に関する身近なトピックを取り上げ討議することで、上の問いを考えていく。なお教職課程履修者はこの科目を履修しておくことが望ましい。

試 験：評価は授業中のレポート、テスト、および平常の授業の出欠席の状況などを勘案して行う。

テキスト名：教室で指定する。

文化人類学 A ・ B	み　　むら　　しげ　　たか 三田村　成　孝	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

近代文化人類学は、機能主義者として知られるA. R. Radcliffe-BrownとB. K. Malinowskiに始まるといわれる。二人は共に自身で現地語を修得して現地調査を行い、資料を収集して民族誌を作成し、そこから理論を展開した。前期の講義では、この二人の展開した理論を解説しながら、それ以前の理論との関係についても見てゆく。また彼らの理論展開の基礎となった民族誌（Radcliffe-BrownのAndaman諸島、MalinowskiのTrobriand諸島）についても触れてゆきたい。

<後期>

後期は日本を例にとって講義を進めてゆく。現在の文化人類学では、無文字社会だけでなく、文明社会も含めた様々な社会を対象として調査研究が行われている。勿論日本社会についても、そうした調査研究による多くの成果が出されており、その中でも文化人類学の一部門と見なされる（日本）民俗学の集めた資料は膨大なものとなっている。今年はそうした中から、年中行事や人生儀礼など日本人の信仰と深く関わるものを取り上げてみたい。

試 験：定期試験の結果で評価する。

テキスト名：なし。参考文献については講義の中で紹介する。

文化人類学 C ・ D	あ　　べ　　つかさ 安　倍　　宰	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

社会組織論、社会構造論の立場から、文化人類学の基本を講義する。主なテーマは家族、親族、年齢、地縁、身体、世界観、都市などを予定している。皆さんとは異なった価値観を持った人々が、どの様に「我々」集団を実現するのかを多くの事例を通じて考えてみたい。

<後期>

前期の講義を受けて、後期では「彼ら」集団を文化人類学的に考察してみよう。「我々」が存在する以上、同時に「彼ら」が存在する。「我々」は「彼ら」をどのように認識しているのだろうか。交換理論、都市人類学などの“現代的”な問題設定の中から、異なる価値観が接触する様を、数多くの事例を通じて簡潔に講じていきたい。

試 験：期末に試験を行う。“一発”に不安のある方は“保険”として各自レポートを受け付ける。強制はしない。

テキスト名：蒲正他編『文化人類学を学ぶ』有斐閣選書
 その他参考書は講義中に指示する。

憲 法 A ・ B ・ C	あお やま はる き 青 山 治 城	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

憲法はこれまで一般の人々には遠い存在のように思われてきたが、近年、宗教や民主主義、地方自治のあり方などをめぐって、憲法が話題になることが増えてきた。こうした問題に正しく対処するためにも、憲法の理解は欠かせない。前期では主に、民主主義と人権の理念を中心に近代憲法原理の意義と限界を明らかにしていきたい。

<後期>

憲法は国家の基本法といわれるが、現代ではその「国家」の枠組が崩れつつある。国際関係の中で「国家主権」の一部譲渡、「地方分権」の立場からする権限委譲などがその現われである。後期では、立法、司法、行政という国家作用については、日本国憲法に見られる問題点を検討していきたい。

試 験：前・後期各1回試験を行う。

テキスト名：浦田 賢治編『憲法の精神：きみたちはどう生きるか』日本評論社

憲 法 D	もり した し ろう 森 下 史 郎	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

この講義は、近代憲法の原理、人権体系、幸福追求権、法の下での平等といった憲法の総論的な面を中心に、重要判例を紹介しながら、検討していく予定。

<後期>

主として、社会権、国家賠償法、違憲審査制、象徴天皇制、平和主義といった人権論、憲法保障に深く関わる制度の問題を重点的に検討する予定。

試 験：年2回の定期テストによる評価

テキスト名：『法学・憲法』森下他 敬文堂

憲 法 E ・ F	いい だ みのる 飯 田 稔	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

憲法は、一国の基礎構造を定める法であって、国家機関の組織および権限、相互関係、国家と国民との関係等を規律している。講義では主として日本国憲法を取り上げるが、とりわけ前期の対象は統治機構論である。わが憲法の採用する主権原理や権力分立制、平和主義等について、単なる憲法典の条規の解説にとどまることなく、政治部門や裁判所による運用にも注目しつつ検討することにしたい。

<後期>

人権論を講義する。人権保障は、近代憲法の目的ともいうべき重要な基本原理の一つであるから、まず、その基礎理論について詳しい検討を行なう。その上で、わが憲法がいかなる権利を保障しているのか、またそれはどのように運用されているのかを、判例の展開をも視野に入れながら具体的に明らかにしたい。

試 験：前期・後期とも、それぞれ一度の試験を行なう。

テキスト名：古野 豊秋編『スタンダード憲法』尚学社
六法（小さなものでよい）

経 営 学 A	お がわ まさ ひろ 小 川 正 博	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

わが国企業の経営の実態と課題を通じて、現代企業行動論をやさしく学ぶ。国際化や情報化それに社会の成熟化のなかで、わが国企業は経営の変革にせまられている。企業活動のしくみを理解した上で、企業がどのような課題に直面しているのかをマクロ的に、また主要産業ごとに解明する。企業経営に求められている諸条件を理解する。身近な実際例を活用して講義を進める。

<後期>

21世紀に向けて再び躍力を発揮するための経営のあり方を学ぶ。新しい生産システム、販売システム、組織運営、グローバル化時代の経営、情報化時代の経営などを理解する。

試 験：期末に試験を行う予定。

テキスト名：プリントを配付する。講義のなかでテキストを指定する。

経 営 学 B	お 小 川 正 博 がわ まさ ひろ	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

企業のしくみや行動をやさしく学ぶ経営学入門。社会や経済のなかで重要な役割を果たしている企業を、経営学の理論で理解する。企業形態、産業構造、戦略などの視点から、前期は企業行動を学ぶ。身近な題材を活用して、予備知識がなくとも企業行動が理解できるように進める。

<後期>

前期に続いて、身近な題材と経営理論を活用して、企業の行動を学ぶ。後期は組織や情報、日本的経営などを理解する。

試 験：期末に試験を行う予定。

テキスト名：プリントを配付する。講義のなかでテキストを指定する。

統 計 学 I A ・ B	しば はら のぶ ゆき 芝 原 信 幸	2 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

数字の氾濫する現代において、情報の玉手箱としての統計数値を紐解く一つの手法として、「統計学」は、将来どのような仕事にたずさわる人にとっても必要不可欠なものであろう。本講義においては、データ解析にパソコンを用い統計データの記述に関しての基本事項をマスターしていくことを主眼とする。本講義受講に際し、数学的予備知識、及びパソコンの予備知識は一切必要としない。

試 験：定期試験と2回程度のフロッピー提出、及び、平常点（出席点をかなり重視する）により総合評価する。

テキスト名：特定のテキストは用いない。

統計学ⅡA・B	しば 芝	はら 原	のぶ 信	ゆき 幸	2単位
					1～4年
					後期

表計算ソフト（LOTUS1-2-3またはEXCEL）を用い相関分析、回帰分析を中心に講義を進めていきたい。

試験：定期試験と2回程度のフロッピー提出、及び、平常点（出席点をかなり重視する）により総合評価する。

テキスト名：特定のテキストは用いない。

3) 自 然

生 物 学 A	てら だ み な こ 寺 田 美奈子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

我々は地球という宇宙の中でも稀にみる程の生命にとって好条件にめぐまれた環境に生まれてきた。しかし近年この地球環境のバランスが人間活動によってくずれてきていることが明らかになってきた。この講義では、生物と環境のかかわりあいについて、講義にビデオ教材と小さな観察や実習をまじえて授業をすすめる。

- ・環境と生物の生活との関係。
- ・地球の自然環境と様々な生物の生活。

<後期>

- ・生態系概念
- ・その構造と機能。
- ・地球環境問題の概説（大気・水質・土壌・森林など）

試 験：前・後期各1回試験を行う。

テキスト名：特に定めない。

生 物 学 B	てら だ み な こ 寺 田 美奈子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

生物学Aとはほぼ同様の内容で、観察と実習を中心に授業をすすめる。生物と環境とのかかわりに関する基礎的な解説を中心とする。

- ・生物と環境とのかかわりあい。
- ・地球上の様々な環境とそこに生息する生物。
- ・人間活動と環境。

<後期>

観察と実験を中心として授業をすすめる。

- ・キャンパス付近の植物分布。
- ・キャンパス内の樹木の大気汚染の被害。
- ・キャンパス内に降る雨は酸性か？
- ・キャンパス周辺の川や池の水質の汚染度。

試 験：毎回レポートを提出してもらう。

テキスト名：特に定めない

生 物 学 C	てら だ み な こ 寺 田 美奈子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

現在人類は地球上で空前の繁栄をほこっている生物といえるであろうが、これは生命誕生以来35億年の生物進化の過程でヒトが言語というコミュニケーション手段を獲得したことに多くを負っていることと無関係では無いであろう。本講は動物の進化の過程をコミュニケーションという観点からながめ、講義を中心に動物の行動に関するビデオテープを見ることによって話をすすめる。本年度は比較的高等な脊椎動物から話をはじめ近年研究の進んだ霊長類（サルの仲間）からヒトへの進化過程について紹介し、考察する。

- ・生物のコミュニケーション概説 ・生物の進化と社会構造 ・神経系、感覚器の生理学
- ・本能と学習

<後期>

具体的な生物のコミュニケーションのあり方を紹介しつつ講義をすすめる。本年度は特に霊長類（サルの仲間）からヒトへの進化の過程に焦点を当てて、NHK人間大学のビデオシリーズを教材にして、ヒトがいかに言語というコミュニケーション手段を獲得したかについて、考察する。

試 験：前期・後期に試験を行う。

テキスト名：特に定めない。

化 学	やま もと おさむ 山 本 修	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

衣食住は勿論のこと、我々を取り囲む全ての環境において多くの新素材が使用されており、化学の発達に伴って我々の環境も刻々と変化している。本講では特に、生活に密着した素材と化学現象を取り上げ、今後我々が現代社会に生活していく上で必要な化学知識を、原理的な観点から身につけてゆくようにしたい。

化学における一般的基礎、および衣食住のうち、食の化学、特に生物が関与する物質の化学について取上げることにする。

<後期>

我々の衣食住のうち、衣と住とに関係する材料、特に合成材料の化学、およびそれらとエネルギー問題、環境問題との関り合いについて述べる。

試 験：前期、後期とも定期試験を行なう。

自然科学概論 A ・ B	なかねみちよ 中根美知代	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

1995年、私達は国内では阪神・淡路大震災、オウム真理教事件、海外ではフランス・中国の核実験再開等の出来事に直面した。そこでは報道に際して、マグニチュード・活断層・サリン・DNA・核融合等の科学的用語がしばしば用いられた。この講義では、こうした報道を正確に理解し適切な判断を下すために必要な自然科学の知識を整理統合し、理解を深めていく。

<後期>

上記の事件からもわかるように、私達は科学とは無関係、とはいいい難くなった。しかも自然科学の範囲にとどまらず、さまざまな視点からこれを検討する必要があるが出てきた。この講義では、科学における真理とは何か、科学と宗教との関係、科学者の社会的責任、科学と政治、といった問題も論じていく。

試 験：出席を重視し、平常点（講義中に行なう小テストを含む）で評価。

テキスト名：特になし

自然科学概論 C ・ D	とくもとことよ 徳元琴代	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

自然科学は、とかく難しい法則の暗記や計算ばかりの学問として敬遠されがちであるが、我々の多くは、宇宙や生命そして物質の不思議さに夢中になった経験をもっているはずである。科学・技術の時代と称せられている現代、とりわけ自然科学の本質を的確に認識することが必要とされているといえよう。地球や人類の誕生から自然科学が成立する近代までの歩みを人類の歴史のなかでとらえ、自然科学への新たな視点を提示する。

<後期>

近代から現代までの自然科学の歩みを人間社会のなかで分析しながら、今日的課題への解決の糸口としての。近代以降の自然科学の飛躍的發展は、我々の生活に豊かさをもたらしてきた一方で、科学兵器、環境問題など、負の遺産をも生み出している。21世紀をまもなくむかえる現在、自然科学は地球の存在さえ左右しかねないものとなっており、さらに遺伝子研究や脳死等我々につきつけられている問題はかぎりない。

試 験：数回のレポート提出によって評価する。

テキスト名：『科学技術史概論』山崎 正勝編著 ムイスリ出版

情 報 処 理 A	やま 山	もと 本	おさむ 修	4 単 位
				1 ～ 4 年
				通 年

<前期>

現在コンピュータは我々の日常生活の中に入り込んでいるが、多くの人々にとってコンピュータはいわゆるブラックボックスでしかない場合が多い。本講ではBASIC文法を修得しつつ情報処理一般についての基礎を概説し、それを理解した後に、アプリケーション・ソフトを利用して、身近な問題にコンピュータを活用する方法を修得する。

BASICの基礎的な文法を修得する。

<後期>

代表的な表計算ソフトであるLotus1-2-3について概説し、実習を行う。

試 験：前期、後期とも定期試験を行う。

テキスト名：前期『パソコンとBASIC』培風館

後期『簡易言語入門ロータス1・2・3』一橋出版

情 報 処 理 B	やま 山	もと 本	おさむ 修	4 単 位
				1 ～ 4 年
				通 年

<前期>

現在コンピュータは我々の日常生活の中に入り込んでいるが、多くの人々にとってコンピュータはいわゆるブラックボックスでしかない場合が多い。本講ではBASIC文法を修得しつつ情報処理一般についての基礎を概説し、それを理解した後に、アプリケーション・ソフトを利用して、身近な問題にコンピュータを活用する方法を修得する。

BASICの基礎的な文法を修得する。

<後期>

代表的な表計算ソフトであるLotus1-2-3について概説し、実習を行う。

試 験：前期、後期とも定期試験を行う。

テキスト名：前期『パソコンとBASIC』培風館

後期『簡易言語入門ロータス1・2・3』一橋出版

情 報 処 理 C	やまもと おさむ 山 本 修	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

現在コンピュータは我々の日常生活の中に入り込んでいるが、多くの人々にとってコンピュータはいわゆるブラックボックスでしかない場合が多い。本講ではBASIC文法を修得しつつ情報処理一般についての基礎を概説し、コンピュータの世界のアーキテクチャについて包括的に理解できるようにしたい。

BASICの基礎的な文法を修得する。

<後期>

主としてグラフィックス、ファイル処理等について実習を行う。

試 験：前期：定期試験を行う。

後期：定期試験を行う。グラフィックスの課題を出す。

テキスト名：『教養のコンピュータサイエンス、MS-DOS& BASIC編』丸善

情 報 処 理 D ・ E	よこかわ ひさえ 横 川 ひさえ	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

現代社会では、コンピュータを用いた情報処理は不可欠の技能であり、パソコンも日常生活に必要な道具となってきた。ワープロ（一太郎）と表計算（Lotus1-2-3）のアプリケーションソフトを使用した文書処理を概説する。

<後期>

簡単なプログラム作成を通して、コンピュータによる処理の性質を理解することをめざす。前期履修者に限る。

試 験：定期試験を行う。評価は平常の課題提出とその内容及び出席を加味する。

テキスト名：授業時プリントを配付する。

情 報 処 理 F ・ G	ひ 日	おき 置	さき 咲	お 夫	4 単 位
					1 ～ 4 年
					通 年

<前期>

市場の国際化とパソコンによる情報処理の普及によって理系、文系を問わず企業に歓迎される大卒者の一般的能力は語学力とコンピュータを活用する能力であると言われております。このような現状をふまえ、本講では、パソコンの起動方法からスタートし、アプリケーションソフトウェアの操作要領、BASIC言語によるプログラム作成の基本的事項を学習します。

<後期>

本講では、前期で修得したプログラム作成の基本的事項をふまえ、実務的なプログラムをBASIC言語で作成します。

試 験：定期試験の結果で評価します。

テキスト名：『PC-9801 & FM16β対応、BASIC活用テキスト』米山、三木著 オーム社

健 康 科 学 論 A ・ B	よこ 横	ぜき 関	とし 利	こ 子	2 単 位
					1 ～ 4 年
					前期・後期

日常の健康づくりの1つの目標は、生理的機能を高めることにある。この一手段として運動が取り上げられ、最近では成人病予防・回復にその効果が報告されている。健康科学論ではまず、運動に伴うエネルギー代謝、筋系、および呼吸循環器系機能の変化と各機能に対する運動の効果について講義する。それを基礎として、健康づくりのための、①トレーニングの原則、②各種運動の特性、③個人あるいは各種疾患に応じた運動プログラムの作成についての講義を行う。

試 験：出席状況、定期試験により評価する。

テキスト名：作成した資料を配付。

環 境 科 学 演 習	てら だ み な こ 寺 田 美奈子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

現在起こっている様々な地球環境問題についての、出来得る限りの正確でかつ最新の情報を理解するための基礎的な文献（英文）を講読する。

<後期>

個人又は小グループで地球環境問題に関する研究テーマを選び、テーマ毎に文献調査、テーマによっては実地調査又は実験を行い、最終的にはレポートにまとめ、さらに発表を行う。

研究テーマ例：水質汚染、大気汚染、土壌汚染、森林破壊、ゴミ問題など。

試 験：前期、後期ともレポートとする。

テキスト名：『*The Biosphere* (A Scientific American Book)、*Environmental Science* (Turk et al, Saunders Golden Series in Environmental Studies) 国連資料等の中から抜粋してコピーする。

情 報 処 理 演 習	やま もと おさむ 山 本 修	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

一応プログラミング技法を修得した学生でも、それぞれ実際どう生かすかに当惑している人が多いように思われる。本講においてはこのような人々を対象に実際のデータ処理等に関する易しい問題を取り上げ、コンピュータと実社会とのつながりについての理解を深めるようにしたい。プログラム言語としては現在主流をなしつつあるC言語を用いる。本講を受講できる学生は本学において「情報処理」を履修した学生か、またはそれと同等の学力を有するものとする。

試 験：前期：定期試験を行う。

後期：レポート提出

テキスト名：『初めての人のC言語入門』西東社

4) 外国語

英 語 I ・ II	4単位・4単位	
	1・2年	
	通 年	

First and Second Year English for non-English majors

Non-English majors, i. e. those students majoring in Chinese, Korean, or Spanish, may choose to take English during their first and second years at Kanda University of International Studies. The students have two 90-minute classes of English per week. One of these classes focuses on reading/writing while the other emphasizes speaking/listening.

At KUIS the emphasis in our language classes is on communication. Therefore, in the reading/writing classes we discourage the “read and traslate approach” to language teaching. The students will be given as many opportunities as possible to use English in the classroom, for example by summarizing and discussing the topics in the textbook. Similarly, in the speaking/listening section the emphasis is on using the spoken language for communication in the classroom.

中 国 語 I	かわむら ルー ツェン 川村・盧・農 ジュン たか はし 荀・高橋・邢	4 単 位
		2 年
		通 年

生きた教材を通して、中国語を「耳」で聞いてわかり、「口」から正しい音を発せられるように、できるだけ発音の習得につとめ、このうえに基礎的な語彙、文法、表現などを学習してゆく。

試 験：前期末と後期末に筆記試験を行うほか、中間に適時小テストを実施する。

テキスト名：相原 茂『中国語へのパスポート』朝日出版社（川村）
 他は開講初日に教室にて指示する。

中 国 語 II	ドゥアン ウェイ 段 威 シン シン 邢 秀 敏 シュウ	4 単 位
		3 年
		通 年

初年度の学習を基礎に、講読、会話、テレビ・スキットを通して、中国の文化、風俗、習慣の理解を深めるとともに、中国語の「聴」、「説」、「読」、「写」の能力をいっそう高めてゆきたい。

試 験：前期と後期の末のほか、中間に適時小テストを行なう。

テキスト名：『北京カタログ』朝日出版社（段）
 他は開講初日に教室にて指示する。

ス ペ イ ン 語 I		4 単 位
		2 年
		通 年

＜前期＞

初級用の文法と訳読を兼ねた教科書を使用して、スペイン語の基礎能力を身につけることを目的とする。基礎単語と基礎文法の習得によって、日常的な表現ができるようになることが一応の目安である。外国人の先生の授業では、発音と表現に慣れ親しむことが重要であり、積極的な応答が求められるので注意すること。

＜後期＞

後期も前期に同じ。

試 験：前期・後期の二回、各々の先生が個別的に試験を行なう。

テキスト名：未定

ス ペ イ ン 語 II		4 単 位
		3 年
		通 年

＜前期＞

スペイン語Ⅰを履修した学生を対象とする中級クラスで、スペイン語の総合的な力をさらに充実させ、表現力と文法知識の拡大を目指す。

＜後期＞

後期も前期に同じ。

試 験：前期・後期の二回、各々の先生が個別的に試験を実施する。

テキスト名：未定

韓 国 語 I	と 土 ナ 羅	さ 佐 ソ ン	まさ 昌 樹 ス カ 聖 淑	4 単 位
				2 年
				通 年

＜前期＞

韓国語と日本語は良く似ていると言われます。確かに、皆さんが英語で苦しんだ語順には、もう苦しまないでしょう。そして韓国で使われる漢字語が日本と同様なので、うれしくなる時もあるでしょう。このような類似点も多いのですが、相違する点も少なくありません。おそらく、当初、韓国語の発音や文法などに、とまどうでしょう。しかし、韓国語を学ぶうちに、発音の美しさや文法体系の見事さに感動するにちがいません。韓国語の面白さを知ること、隣国である韓国に対する理解が深まることを期待します。

なお、韓国の風土・自然のみならず歴史や文化などにも関心を向けて下されば、もっと韓国語を面白く学べるでしょう。

＜後期＞

前期を継続し、韓国語の基礎を修得することを目指す。

テキスト名：未定

韓 国 語 II	はま 濱 と 土 なか 中 さ 佐 まさ 昌 のぼる 昇 き 樹	4 単 位
		3 年
		通 年

<前期>

一年目の授業の続きとして発音と文法の仕上げを行なう。

<後期>

前期の授業をふまえて、主として読解力の向上をめざす。

試 験：期末試験を行なう。

テキスト名：プリントを使用する。

フ ラ ン ス 語 I	ふじ た と も こ いずみ と し あ き 藤田知子・泉 利明 せん ば じ ゅ ん こ た な べ や す こ 仙波純子・田辺保子	4 単 位
		2 年
		通 年

<前期>

皆さんが新しく始めるフランス語は、伝統あるフランス文化を背景に持つ何よりも生きた言葉です。フランス語は典型的な「はじめ絶壁あとならぬ」式の言語でとくに最初が肝腎です。この1年間は新しい知識をひとつひとつ吸収しこなしていく規則正しい持続力が求められます。授業では日常の平易な対話をテキストとする教材を選び、発音・語彙・文法を学んでいきます。副教材として、フランス文化の紹介を兼ねたビデオや音声資料等をしばしば使用する予定です。

<後期>

前期と同じ方針で授業を続けていきます。NHKラジオ・テレビのフランス語講座を活用するとさらに効果が上がるでしょう。秋にはフランス語検定4級に挑戦してみませんか。継続は力なりをモットーに必ず声を出して勉強して下さい。

試 験：数課終わるごとに各学期、最低2回の筆記試験を行います。豆テストはほとんど毎回あるでしょう。

テキスト名：未定

フ ラ ン ス 語 II	ふじ た いずみ せん ば 藤田・泉・仙波 た な べ な か む ら 田辺・中村(要)	4 単 位
		3 年
		通 年

<前期>

前半は初級の知識の仕上げを行います。後半は、各授業ごとに傾向の異なる2種類の教材を選び、発音・語彙・文法の力を磨きます。同時に、フランスという国とフランス人がもっている文化の多面性に触れられるような授業にしたいと思います。NHKラジオ・テレビのフランス語講座を併用するとさらに効果が上がるでしょう。フランス語検定3級に挑戦してみましょう。

<後期>

前期と同じ方針で授業を続けていきます。2年間の苦しく楽しい勉強を通して、皆さんは、日本語、英語に続いて、自分自身を相対化するための3つ目の言葉のチャンネルをまがりなりにも造ったのです。この際、もうひと手間かけて、けっこう使えるレベルまでフランス語をもっていつてはどうでしょうか。NHKラジオ・テレビを活用し、フランス語検定3級に挑んでみましょう。

試 験：進度に応じて筆記試験を行ないます。

テキスト名：授業中に指示します。

ド イ ツ 語 Ⅰ	し が なみ 志 賀 浪 あ か さわ 赤 沢 ゆう 優 もと 元 こ 子 む 務	4 単 位
		2 年
		通 年

＜前期＞

辞書の使い方指導を中心に文法、作文、発音、ヒアリングと万遍なく基礎を築きたい。

＜後期＞

前期に続き初級の基礎を学びながら、中級程度の物も読める学力を養うことを目標にする。

試 験：定期試験の他に必要に応じて実施。夏休みの宿題として毎年レポート用紙2枚以上の独作文もある。

テキスト名：未定

ド イ ツ 語 Ⅱ	し が なみ あかざわ うちだ 志 賀 浪 ・ 赤 沢 ・ 内 田 (俊) ワッテッサー トイラー WASSERTHEURER	4 単 位
		3 年
		通 年

＜前期＞

週2回の授業のうち一方は講読を中心に、もう一方の授業は会話練習を中心に行います。講読のテキストは比較的やさしい読み物を用い、文法の復習も兼ねながら、読解力の基礎をより確実なものにしていきます。会話の方も、やさしい日常的表現を主に、耳と口を生きたドイツ語に慣れさせるところから始め、徐々に表現能力を高めていきます。もちろん読みと会話は別物ではありません。どちらの授業にも積極的に参加してください。

＜後期＞

講読の授業では、エッセイ、書簡、論文、小説等様々なジャンルの文章を読むことで、いわば柔軟な読解力の養成を目指します。なお速読の練習も行うつもりです。会話の授業も、単純な日常会話以上の表現力の養成に目標を置き、ヒアリング、作文にも多くの時間を割く予定です。

11月にはドイツ語技能検定試験が実施されます。その3級合格を一つの目標にするのもよいでしょう。

試 験：定期試験及び平常点で評価する。

テキスト名：未定

ロシア語 I	くろ 黒 ばん 坂	だ 田 ない 内	りゅうのすけ 龍之助 とも 知 こ 子	4 単 位
				2 年
				通 年

黒田龍之助

＜前期＞

まったく初めての人を対象に、文字からはじめて、簡単な文が作れるようになることを目指します。授業はゆっくりと丁寧に進めていきますが、語学の学習ははじめが大切ですからがんばってください。

＜後期＞

後期は前期に続いて、動詞の活用などを復習しながら、さらに表現を広げていきます。また、テープ教材を使ったヒアリング練習を通して生きたロシア語にも触れていきます。

試 験：定期試験（年 2 回）及び毎回の小テスト

テキスト名：『パスポート 初級露和辞典』米重 文樹編 白水社
『ロシア語へのパスポート』中島 由美・他著 白水社

坂内知子

＜前期＞

新しい文字であるロシア語のアルファベットの習得が第一ハードルですが、原則的に一字一音ですから、その後はスムーズに進みます。導入部に抵抗の少い教科書で文法の基礎を学びます。

＜後期＞

前期にひき続き、文法の学習を、理解する、聞く、読む、書く、という行為を通して行います。問題練習、ヒアリング、音読練習、ディクテーションという学習方法をとります。

試 験：各学期末に行います。

テキスト名：『ロシア語へのパスポート』 白水社

ロ シ ア 語 II	くろ だ りゅうの すけ 黒 田 龍之助 ば 内 とも 坂 知 こ	4 単 位
		3 年
		通 年

黒田龍之助

<前期>

格の用法、動詞の不完了体と完了体など、文法事項を系統的にまとめて知識の整理をします。

<後期>

またビデオ教材等を用いながら、口語表現を増やし会話の練習をします。

試 験：定期試験（年2回）、そのうち1回は発音テスト。

テキスト名：プリント配付

『話すロシア語入門』米重 文樹・他著 白水社

坂内知子

<前期>

ロシア語Ⅰで学んだ文法の補遺、復習をまず行い、その後発展的教材へ移ります。前期ではテキスト講読と問題練習によって文法知識の定着応用を目的とします。

<後期>

前期までで得た文法知識と語彙を使って、会話練習に進みます。並行して、ロシア文化について書かれたテキストの読解学習も行います。

試 験：各学期末に行います。

テキスト名：前期 『生きたロシア語入門』白水社

コピー教材

後期 コピー教材

イ タ リ ア 語 I	あきやま よし 秋山余思・千田 剛 たか だ かずふみ 高田和文	4 単 位
		2 年
		通 年

秋山余思

<前期>

イタリア語を読み、書き、話すために最小限度に必要な基礎文法をいろいろな会話体の文を読みながら説明する。ビデオも使用する。前期では基礎文法の約半分を終える。

<後期>

前期に続いて同じテキストを用いながら、基礎文法の後半を学習する。

試 験：前期と後期に1回ずつ筆記試験を行なう。

テキスト名：秋山 余思 その他共著『パッソ・ア・パッソ』白水社

高田和文

<前期>

簡単な日常会話を素材にしてイタリア語の初歩を学ぶ。言葉に対する柔軟な思考力と自己表現の能力を養うことを目的とし、能動的な形の外国語学習を行なう。

<後期>

前期に引き続きイタリア語の初歩を学ぶ。聴き取り、会話、読解、作文の4つの言語能力について、バランスの取れた外国語学習を目指す。

試 験：平常点及び学期末試験により評価する。

テキスト名：Piacere!（ピアチェーレ！）日伊協会編

千田 剛

<前期>

生きたイタリア語を、イタリア人の生活・文化・歴史と関連づけて学習する。とくに正しい発音や発声法の修得に留意しつつ、以後の学力向上のための基礎をつくる。

<後期>

現代イタリア語の姿を英語など他言語と比較し、簡単な会話力と作文力を習得させる。

試 験：筆記試験を行なう。

テキスト名：Y. AKIYAMA他著 Passo a passo（パッソ・ア・パッソ）白水社

イ タ リ ア 語 II	あき 秋 たか 高	やま 山 だ 田	よ 余 かず 和	し 思 ふみ 文	4 単 位
					3 年
					通 年

秋山余思

<前期>

前年度に引き続き文法の仕上げ、特に条件法と接続法の用法を中心に学習を進める。ほかにビデオ教材を用いて会話の練習も行う。

<後期>

前期で基礎文法を終えると、更に表現力、理解力を養うため、練習問題や簡単な文章の講読を行う予定。

試 験：前期と後期に1回ずつ筆記試験を行なう。

テキスト名：秋山 余思 その他共著『パッソ・ア・パッソ』白水社
およびコピー教材

高田和文

<前期>

日常会話を素材にしてイタリア語の応用力を身に着ける。聴き取り、会話、読解、作文を並行して行ない、バランスの取れた、しかも柔軟性のある外国語学習を目指す。

<後期>

前期に引き続き、イタリア語の応用力を身に着ける。素材としては日常会話のほか、新聞や雑誌の記事なども取り上げる。

試 験：平常点及び学期末試験により評価する。

テキスト名：Piacere! (日伊協会編) およびプリント

ア ラ ビ ア 語 I	なか 中 しば 柴	むら 村 やま 山	きみ 公	のり 則 しげる 滋	4 単 位
					2 年
					通 年

<前期>

教科書四巻を一年間で履修する。二人の教員で同一の教科書を使用する。アラビア語を読み、書き、話し、聞くために必要な文法事項を、さまざまな例文にあたって練習して貰う。字母の修得が肝要。

<後期>

前期の継続。カセットを聴いて貰いながら、聴取練習を重視する。文法事項は基本文型練習の中で実地に覚えていって貰う。

試 験：学期末に筆記試験を行う。

テキスト名：本田 孝一著『たのしいアラビア語』たまいらば 1～4巻

アラビア語Ⅱ	なか 中 しば 柴	むら 村 やま 山	きみ 公	のり 則 しげる 滋	4 単 位
					3 年
					通 年

<前期>

前年度の継続。二人の教師で分担して同一の教科書を使用し、総合的なアラビア語能力向上を目指す。動詞活用の習熟が肝要となる。

<後期>

前期の継続。不規則動詞の話に入る。教科書全七巻を終える。教科書6・7巻の入手方法については授業中指示する。

試 験：期末試験と平常に於ける授業での応答で判断する。

テキスト名：本田 孝一著『たのしいアラビア語』 4・5巻 たまいらば
6・7巻 自費出版

5) 保健体育

保 健 理 論 A ・ B ・ C ・ D	よこ 横	ぜき 関	とし 利	こ 子	1 単 位
					2 年
					前期・後期

現代社会における労働の省力化、豊かになった食生活の結果、健康レベルは向上しているように思えるが、一方では、運動不足やエネルギーの過剰摂取が、循環器系疾患などの成人病との関わりを強くしている。成人病を予防し健康を増進するためには、適切な生活習慣を持つことが大切である。そこで、保健理論では①健康を成立させる要因は何か、②生活習慣が健康に及ぼす影響、③健康づくりのための運動の実際について講義をします。

試 験：出席状況、定期試験により評価する。

テキスト名：作成した資料を配付する。

体 育 理 論 A ・ B ・ C ・ D	とみ 富	まつ 松	きょう 京	いち 一	1 単 位
					2 年
					前期・後期

<前期>

大学までの教育の中で体育はスポーツをすること、体育＝スポーツという図式の考え方を持つ人は少くない。しかし、歴史的な経過からみれば明らかに区別されるべきものである。それでは体育とは何であるのか。スポーツとは何なのか。本講義では受講者の体験をふまえて、日本における体育の歴史的経過の中から体育、スポーツを考えていくものとする。

<後期>

我が国の学校教育の中で諸外国ではあまりみられない独特な活動、組織形態がある。それは「部活動」である。この活動はだれもが体験することではあるが、ここ十年位、いやそれ以前からかも知れないが多くの矛盾が指摘されつづけている。本講義ではスポーツを中心とする運動部について、そこが内包している矛盾とその改善について考えてみたい。

試 験：出席状況、試験、レポート等で評価する。

体 育 実 技		2 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

体育実技は野外活動やスポーツの実践を通して自らの身体認識の向上と運動技術の系統的理解および社会的統治能力の獲得をめざす。

本年度は一般スポーツ種目として、バドミントン、卓球、テニス、ソフトボール、フライングディスク、バレーボール、バスケットボール、フットボール、フィットネス。野外活動種目としてオリエンテーリング、サイクリング等の中から年間二種目まで履修することができる。

評 価：出席状況と参加態度、課題のできばえ、レポート等で評価する。

2. 専門教育科目

1) 基礎教育科目（各科共通）

日本近代思想史 A・B	やま　りょう　けん　じ 山　領　健　二	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

近代日本思想史概説 1

明治維新から第二次大戦に至る約 1 世紀の日本の思想史を、新聞、雑誌ジャーナリズムを手がかりにして概観する。とりあげるメディアは『明六雑誌』、『日本人』、『万朝報』、『青鞥』、『我等』、『土曜日』など。

＜後期＞

近代日本思想史概説 2

近・現代の日本の思想史を日本人の外国観を手がかりにして概観・概説する。ロシア、東南アジア、中南米、東ヨーロッパ、アフリカなども含めて広く世界諸地域についての日本人の意識に目を広げたい。

試　　験：試験およびレポートにより成績評価を行なう。

日本倫理思想史 A・B	くぼ　た　こう　めい 窪　田　高　明	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

日本人の倫理観の歴史を、重要なテーマで区切って講義する。1. 恋愛への過剰な期待。2. 武士道の世界。3. 宗教と道徳。4. 理性と自然。

＜後期＞

重要な思想家の文章を読みながら、日本人の思想的探求の在り方を学ぶ。今年は、宗教の領域から一遍、国学の領域から加茂真淵、儒学の領域から荻生徂徠を予定している。

試　　験：前期・後期それぞれに学期末試験を行う。

テキスト名：未定

日本倫理思想史 C・D	うお 魚 住 孝 至	4 単 位
		1～4 年
		通 年

<前期>

この世は無常である。人生もまた無常である。この無常を自覚しつつ、日本の中世人はいかに生きたのか。西行、鴨長明、吉田兼好等の隠者の思想を考えた後、禅の道元の無常の認識と修行論、そして死生観等を問題にしたい。

<後期>

中世後期、隠者の文化と禅の交錯した影響により、様々な芸道が形成された。雪舟から等伯に至る水墨画、枯山水の庭、珠光から利休に至る茶の湯、心敬から芭蕉に至る連歌・俳諧の流れ等を取り上げ、そこに見られる美意識・自然観・修行論等を問題にしたい。

前期・後期とも、随時図録、ビデオ等を見て、当時の生活や修行、芸の実際を窺いつつ論じたい。

試 験：学期末の試験及びレポートで評価する。時折書かせる授業後の感想も加点する。

テキスト名：唐木 順三『日本人の心の歴史』（上）ちくま学芸文庫

日 本 の 宗 教 A	うす 薄 井 篤 子	4 単 位
		1～4 年
		通 年

<前期>

宗教といった場合には、キリスト教や仏教のような創唱宗教が想起されやすい。しかし一方で生活習慣ともいえる自然にはぐくまれた自然宗教もある。自然宗教に淵源をもち創唱宗教と習合した宗教形態、さらにそれが沈潜した民間信仰を民俗宗教ととらえ、体系的に理解することを目指す。前期は鍵をなす原風景や歴史を中心に解説する。

<後期>

民俗宗教は人々が無意識のうちにそれにのっとって生きている見えない宗教である。その要素は祭り、年中行事、人生儀礼、物語などに表現されている。それらを解説したうえで、民俗宗教として存在している日本宗教の特性を検討する。ビデオなどを多用してその様子に接するよう努める。また現代社会の中でどのような存在しているかを検討して、普段意識することのない死や性の問題を考察する。

試 験：前期、後期にレポート提出

テキスト名：宮家 準『日本の民俗宗教』講談社学術文庫

日 本 の 宗 教 B ・ C	うす 薄 い 井 あつ 篤 こ 子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

日本には多くの宗教が存在するにもかかわらず、日常的に明確な信仰を自覚する機会は少ない。しかし日本人は宗教心が薄いとは断言できず、生死観、人間関係、組織構造などの日本文化や社会において宗教的感性や心情が果たす機能は大きい。

前期では、諸宗教の成立や渡来や展開などの過程と諸宗教間の相互関係の理解につとめて、日本の宗教の歴史と構造的特徴を検討する。

＜後期＞

後期では、近代に出現し、今日もお多様な活動を展開している新宗教運動に焦点をあてる。特に近現代の社会変動との関わりを中心にして、社会的権威との衝突や展開過程に焦点をあてながら教義や活動の理解を試みる。最終的には既存の宗教伝統との相違や連続を考察することを通して、前期で学習した宗教の社会的文化的機能の認識を深める。

参考文献は適宜教室で指示する。

試 験：前後期末にレポート提出

日 本 芸 能 史 A ・ B	いけ 池 だ 田 こう いち 弘 一	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

日本芸能の流れを、中世・近世を中心にたどる。特に近世の演劇・音曲・民衆芸能に重点を置いて、その諸相をビデオ・テープなどによって観察し、民衆の生活と共にあり続けてきた浄瑠璃・歌舞伎・寄席芸能について具体的に学習する。多くの基礎的な知識を身につけてほしいという願いから欠席・遅刻には厳しく対処し、5回の欠席を重ねた者には単位を認めない。また、実際の舞台の鑑賞とその鑑賞文の提出を求める。

＜後期＞

「仮名手本忠臣蔵」を素材として、浄瑠璃・歌舞伎を中心に、古典芸能の特質を考察する。テキストによる学習にとどまることなく、実際の舞台も見、演奏を聞くような体験的な学習を求める。テキスト本文の書写や指定した舞台の鑑賞も義務づける。したがって時間と労力を必要とする講座であることを認識のうえで選択してほしい。前期同様に欠席・遅刻に厳しく、5回の欠席を重ねた者には単位を認めない。

試 験：前期・後期末に提出の研究作品、随時提出の鑑賞文・書写ノートの評価に、出席点・平常点を加味して総合評価。

テキスト名：『校註 仮名手本忠臣蔵』笠間書院

日 本 語 学 基 礎 A	いわ 岩	もと 本	え 遠	のく 億	4 単 位
					1 ～ 4 年
					通 年

<前期>

我々は、「主語・目的語」という文法用語をよく使うが、これらが何を意味するかということを考えることはあまりない。前期は、日本語と日本語とは異なった特徴をもつオーストラリア、コーカサス、パプア・ニューギニア、東南アジア、アメリカインディアン言語などを比較対照しながら「主語・目的語」とは何かを概説する。授業形式は、一方的な講義とはせず、学生に問題や課題を解きながら理解を深めてもらうことにする。

<後期>

後期は、前期に導入した概念を用いて日本語の幾つかの文法現象を分析する。扱う現象は、受動文、使役文、難易文等。

試 験：前期と後期の学期末にテストを行う。

テキスト名：プリント

日 本 語 学 基 礎 B	おお 大	しま 島	いち 一	ろう 郎	4 単 位
					1 ～ 4 年
					通 年

<前期>

現代日本語の話しことばの実態を概観することによって、さまざまな言語的特色が見出されるが、これらをふまえた上で日本語の歴史の変遷並びに「言語」としての日本語の特質・機能を考察する。前期はもっぱら講義が中心となるが、その中で言語研究の方法も考察する。

夏休みは各自任意のテーマによるフィールドワークの言語研究を課す。

<後期>

後期は、夏休中の成果を発表し、学生相互の検討を深めつつ具体的に日本語の実態をふまえた、科学的研究を深める。

試 験：学年末に筆記試験を行ない、その成果によって評価する。

テキスト名：『日本の方言』講談社・現代新書

日 本 語 学 基 礎 C ・ D	いの 井 上 まさる 優	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

『基礎日本語文法－改訂版－』（くろしお出版）にもとづき、日本語文法研究の主要なトピックについて概観する。講義を通じて、「通説や先入観にとらわれずに、自分の目で言語を観察し、ことばの意味や使い方について自分のことばで説明する」ことの重要性を強調したい。

試 験：学期末及び夏期休業中にレポート。

テキスト名：『基礎日本語文法』（改訂版）益岡 隆志、田窪 行則 くろしお出版

日 本 文 化 論	とら 帛 尾 とし 俊 哉	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

日本文化の特質を理解するためには、まずその形成発展のあとを、特に東アジアの文化の流れの中に位置づけて、歴史的に考察することが必要である。所謂日本文化論として世に行われているものの中には、この歴史的考察に欠けるものが少なくない。

そこで本講では、日本文化史の流れを把握することに重点を置き、かつ重要なトピックを幾つか選んで講義し、その中から自ずと日本文化の特質についての理解を身につけることを目指す。

試 験：ノート（手書き）提出（学期中に各1回）及び定期試験（学期末に各1回）の結果によって評価する。

テキスト名：T.TORAO & D.BROWN “*Chronology of Japan*” ビー・アイ・アイ／丸善

日本倫理思想史演習	くぼ 窪	た 田	こう 高	めい 明	4 単 位
					2 ～ 4 年
					通 年

＜前期＞

今年度のテーマは、初期国学における日本文化の自覚である。国学は、儒学や仏教のような外来思想に対して、日本固有の文化とは何かを追求する学問である。国学といえば、その大成者である本居宣長の業績へ目が向かいがちであるが、今回取り上げるのは宣長以前の国学者である。まず、宣長の師であった賀茂真淵の著作を読むことから始めたい。

＜後期＞

後期は前期の続きである。真淵の代表的著作を読みすすめるが、それが一段落したら、戸田茂睡などの国学者の著作を取り上げたい。なお、国学者の文章は、古文といってもきわめて読みやすいものに属するが、それでも自分から読解する姿勢が求められる。授業の形態は分担を決め、担当者が発表し、それを手がかりとして議論を展開していくものである。活発な議論が行われることを期待するので、意欲をもって参加してほしい。

試 験：前期、後期にレポート。平常点を考慮する。

テキスト名：『五意考』（コピーで行う。）

日本文化論演習	とら 厩	お 尾	とし 俊	や 哉	4 単 位
					2 ～ 4 年
					通 年

宇比山踏（うひやまぶみ＝初登山）は、日本の近世を代表する学者の一人である本居宣長が初心者のために国学研究の手引書として執筆した小篇で、文庫本にもなっているが、ことさら江戸時代末期の木版本の影印本をテキストとして一緒に読んでゆく。ただし、国学思想を学ぶためではなく、今日なお有効な人文系の学問のための心得を学びとることと、前近代の日本文化が1つの高みに達した時代の書物とその文章とに直接ふれることを目的とする。

最初の数週は背景となる基礎知識を講義し、かつ読解の具体的な方法を指導する。その後、履修者に適当な分量を割りあて、順次読解させ、問題点を皆で討議し、正しい理解を得るようにつとめる。

試 験：演習における発表と出席の状況（回数だけではなく参加の態度）、及び学年末におけるレポートで評価する。

テキスト名：『宇比山踏』（影印本）和泉書院刊、石原 清志・大取 一馬編

コミュニケーション論 A・B	イ 李	グァン 光	ホ 鎬	4 単 位
				1 ～ 4 年
				通 年

＜前期＞

前期は、コミュニケーションの概念やモデル、コミュニケーション学の体系などに関する基礎的な内容と自己概念・対人知覚・対人魅力など対人コミュニケーションの諸側面に関する内容を中心に講義を行う。

＜後期＞

後期は、小集団コミュニケーション、組織コミュニケーション、マス・コミュニケーション、国際コミュニケーション研究分野における主要な論点を中心に講義を行い、多様な水準におけるコミュニケーションの重要性と問題点について学習する。

試 験：前後期各一回の期末試験と出席状況を考慮し評価する。

テキスト名：橋本 満弘・石井 敏編著『コミュニケーション論入門』桐原書店、1993.

コミュニケーション論 C・D	こ 小	ばやし 林	としお 登志生	4 単 位
				1 ～ 4 年
				通 年

＜前期＞

コミュニケーションが社会科学の一分野として確立されたのは比較的近年であるが、その扱う基本問題は、有史以来人間の歴史と共に存在してきたものである。本講義では先ずコミュニケーションの基本概念を学習し、コミュニケーションとは何かを理解した上で我々の住む日本、特に激変する国際潮流の中の日本に焦点を当て、広く自分の周りの世界を見る目を養うことを目標として分りやすく授業を進めていく。

＜後期＞

今日の先進社会は三つのキーワードで特徴づけられる。即ち、高度技術化、国際化および情報化である。社会がよりハイテク化されれば国際化が促進される。更に、ハイテク化国際化の進展は情報化を必然とする。それぞれを成り立たせるのに必要なプロセスがコミュニケーションである。本講義では、前期に学んだ基本概念を踏えて、プリント、ビデオ教材を用い、これからの世界に不可欠なコミュニケーションについて理解を深めていく。

試 験：定期試験、レポートの結果およびクラスにおける積極的な貢献度を以って評価する。

テキスト名：『コミュニケーション学入門』大田 信男 大修館書店

後期は別途テキストを用いる。

コミュニケーション論 E	まつ 松	もと 本	しげる 茂	4 単 位
				1 ～ 4 年
				通 年

<前期>

コミュニケーション学とはどのような学問であり、他の学問領域とはどのように関連し、なぜ必要かについて考察する。とくに、以下のようなトピックについて検討する。

コミュニケーション研究の意義、コミュニケーションの基礎概念、コミュニケーション研究の領域、コミュニケーションのレベル。

<後期>

前期において学習した内容を基礎に以下のトピックについて考察する。

言語コミュニケーションの概念、非言語コミュニケーションの概念、外国語教育とコミュニケーション、国語教育とコミュニケーション

評 価：定期試験（前期・後期 1 回ずつ）、口頭発表、レポートなどを総合的に評価する。

テキスト名：橋本 満弘・石井 敏（編著）『コミュニケーション論入門』桐原書店

異文化コミュニケーション論 A	く 久	め 米	てる 昭	ゆき 元	4 単 位
					2 ～ 4 年
					通 年

<前期>

様々な社会的事象を文化とコミュニケーションという二つの視点から捉え直して考える授業である。そのため、文化とコミュニケーションの基本概念と相互関係について考察し、その後コミュニケーションに影響を及ぼしている様々な文化的要因（例えば、環境、世界観、価値観、心理的特性、言語メッセージ、非言語メッセージなど）について考察する。

<後期>

文化的背景を異にする人間同士が交流する様々な場面（例えば、留学、ホームステイ、国際会議、国際協力活動、外交交渉など）でしばしば起きている異文化衝突や摩擦現象について考察する。色々な事例研究を紹介するが、受講生にもグループで調査活動とプレゼンテーションをしてもらう予定である。

試 験：定期考査、プレゼンテーション、レポートの 3 つから成績の評価を行う。

テキスト名：古田 暁監修『異文化コミュニケーション』（改訂版）有斐閣

古田 暁監修『異文化コミュニケーション・キーワード』有斐閣

J. V. ニューストブニー『外国人とのコミュニケーション』岩波新書

異文化コミュニケーション論B・C	よこ 横 かわ 川 まりこ 真理子	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

Correct grammar and a large vocabulary are not the only things necessary in speaking another language. It is also necessary to understand the culture that lies underneath that language. Intercultural Communication begins with questioning our own assumptions, values, and customs.

In this course we will study how cultural patterns affect both the way we behave and the way we look at others, both inside and outside the nations in which we live. During the first semester, we will examine issues such as verbal and non-verbal communication, and the role of cultural values. Exercises will be used to show how these concepts work in practice.

<後期>

During the second semester, we will take up a number of issues related to intercultural communication. These will include the issue of cultural adjustment – and maladjustment – in the forms of culture shock and re-entry shock, study abroad, developing countries and development aid, along with other topics of interest to students. Exercises will again be used to show how these concepts work in practice.

Although the lectures will primarily be in English, there will be some explanation in Japanese. Comments, questions, and exams will also be accepted in Japanese.

試 験：In class exercises, attendance and participation, and in-class examinations.

テキスト名：ジョン・コンドン『異文化間コミュニケーション』近藤 知恵訳、サイマル出版社 1980.

異文化コミュニケーション論D・E	ホーリー シーバート カワカミ HOLLY SIEBERT KAWAKAMI	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

In the first semester we will carefully study basic ideas and principles of intercultural communication while trying to apply them to real life situations. Examples will be chosen according to their relevancy to the students' lives. Any students with overseas experience will be encouraged to discuss and recount what they learned and observed. We will also try to include examples from many countries, —not just the U.S. And we will look at Japan's diversity, both regional and ethnic. Methods will include case study discussion, video works, role plays and group presentation. Students may use either Japanese or English for discussion although written assignments are required in English.

In the second semester we will continue to apply our principles to more complicated situations and expand our understanding of cultural differences. We may include issues such as environment and development, advanced and developing countries, and what it means to be a global citizen. Again, various methods will be used with the emphasis being on discussion and interaction. There will be regular reading assignments and homework throughout the year.

試 験：Evaluation will be based on participation, attendance and assignments plus one or two major tests.

テキスト名：Teacher's materials will be the text.

異文化コミュニケーション論F	ふる 古	た 田	ぎょう 暁	4 単 位
				2 ～ 4 年
				通 年

<前期>

「異文化コミュニケーション。新国際人への条件」（有斐閣）にそって、異文化コミュニケーションの実態にせまりたい。

前期では、一章から六章までを説明、解説する。

<後期>

後期は、前期にひき続き、七章から終章までを講義する。

テキスト名：古田 暁監修『異文化コミュニケーション、新国際人への条件』有斐閣

組織コミュニケーション論A	なが 長	お 尾	てる 昭	や 哉	4 単 位
					2 ～ 4 年
					通 年

<前期>

semanticsとpragmaticsの関係について、pragmatics（語用論）の理論と方法について概説。

<後期>

literal meaningとconversational suggestionの区別と相互関係の説明。

組織コミュニケーションという主題に関する従来の行動科学的アプローチの欠陥について概説し、新しい語用論的分析の成果のいくつかを紹介する。

試 験：期間中に実施する。

テキスト名：教材（プリント）

組織コミュニケーション論B	くめ 久米 昭元	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

「組織があって人がいる」のではなく、「人が集まって組織ができる」という立場で、人と集団、人と組織、人と社会のかかわりを比較文化とコミュニケーションの視点から考える。授業の形態としては講義と討論、そして小集団におけるグループ・プロセスの省察を中心とする。

＜後期＞

組織の内外における情報の流れ、意思決定のプロセス、成員の動機づけ、実行方法、地域社会とのかかわりなど、前期で学んだことが実際にはどうなっているのかを調べるために受講生にフィールドワークに出てもらい、数回の中間発表を経験した後、最終的にはしっかりしたフィールド・レポートを仕上げてもらう。時間のかかる調査をねばり強く行う意欲のある学生を歓迎する。

試 験：前期は定期試験、後期は中間発表およびフィールドレポートで評価する予定。

テキスト名：原岡 一馬・若林 満編『組織の中の人間』福村出版
W. ハウエル・久米 昭元『感性のコミュニケーション』大修館書店

メディア・コミュニケーション論	みどおか 御堂岡 潔	4 単 位
		1 ～ 4 年
		集中講義

＜前期＞

国際化の進展が著しい今、日本・日本人が諸外国からどのように見られているか、そして日本人は諸外国をどのように見ているかは、重要な問題である。そこには、しばしば偏見やステレオタイプが見られ、滑らかな相互関係を阻害している。この問題に関連して、講義前半は、国家・国民の相互イメージの実態を具体的な素材や資料を見ながら検討し、また、その研究法を紹介する。形成因としてのメディアについても、簡単に言及する。

＜後期＞

講義後半は、国家・国民の相互イメージ形成因としてのメディアについて、具体的な素材や資料を見ながら、詳しく考える。

試 験：講義の中で随時小課題を提出してもらい、最後に試験をおこなう。

テキスト名：なし。必要に応じて、プリント配付。ビデオ視聴などを行う。

国際ビジネス・コミュニケーション論	ホーリー シーバート カワカミ HOLLY SIEBERT KAWAKAMI	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

This course will be offered twice. Students wishing to use English as much as possible should register for the earlier class while students wishing to communicate in both Japanese and English should try to register for the second class. However, in either class the emphasis will be on content rather than language. The textbook may be purchased in Japanese. However, tests and homework must be written in English.

After a review of major principles of intercultural communication, we will look at how cultural background affects the workplace and doing business. There will be sections on leadership and management styles, negotiating, motivation, presentations and persuasion, company and individual expectations, multi-cultural management. Students will be expected to do projects and presentations. Participation and regular attendance are very important.

試 験：Evaluation will be based on projects, attendance and participation. Short tests may be given.

テキスト名：Purchase in either English or Japanese.

International Dimensions of Organizational Behavior

2nd Edition, by Nancy J. Adler, Wadsworth Publishing co., 1991. (PTO)

(日本語テキスト名『異文化組織のマネジメント』)

非言語コミュニケーション論	どう やま やす こ 東 山 安 子	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

非言語コミュニケーションとは、顔の表情、視線、手振り、身振り、姿勢、相手との距離感、縄張り意識、空間概念、時間概念、声の質や調子、服装等、様々な言葉によらない伝達手段によるコミュニケーションを指す。前期はこれら多岐にわたる非言語コミュニケーションの諸相について概説する。欧米のみならずアジアやその他の文化圏にも言及し、その中の地域差、年令差、男女差等も考察する。学生は関連図書を読み、観察眼をみがき、自分の意見をもち積極的に授業に参加することが要求される。

<後期>

後期は基本的な非言語コミュニケーションに関する知識と前期で養った観察眼を基に、関心のあるテーマごとにグループでプロジェクトに取り組んでもらう。講義は非言語研究の調査方法や研究成果について概説する。学生はプロジェクト案の提出、調査の実施、中間発表などを経て、最終的にプロジェクトに関するレポートを仕上げることを課題とする。前期・後期とも、授業は学生参加型で行なわれ、出席は大変重視される。

試 験：前期：書評＋意見カード

後期：口頭発表＋レポート＋意見カード

出席重視

テキスト名：マジョリー・F・ヴァーガス著『非言語コミュニケーション』新潮選書

そ の 他：ハンドアウト、OHP資料、ビデオ資料。

異文化コミュニケーション演習	くめ 久米昭元	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

異文化コミュニケーション研究にかかわる領域について日英両語による文献（研究史、言語、非言語メッセージ、価値観、異文化適応、文化摩擦、異文化屈折、国際交流、国際協力など）を読み、その中から自分自身の研究テーマを模索し、方法論を学ぶ。

<後期>

前期で模索した各自の研究テーマについてフィールド・ワークを行い、数回にわたる中間発表と討論を通して研究を進め、最終的にはしっかりしたリサーチペーパーを完成させる。

〈コミュニケーション関連科目のうち、「異文化コミュニケーション論」を含め最低8単位を取得した者に限る〉

試 験：前期は数回のミニ・レポート、後期は中間発表とリサーチペーパーで評価する。

テキスト名：W. B. グディカンスト『異文化に橋を架ける』聖文社

木下 是雄『レポートの組み立て方』筑摩書房

コミュニケーション演習	ふる 古 田 暁	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

メインストリームのアメリカ人は、どのように考え、表現し、行動するのか。その理解はアメリカの現代世界における政治、経済、文化を考えると決定的な重要性を帯びてくる。本年は古典的なステュワートの「アメリカ文化パターン」（改訂版）を読んでみたい。前期は、一章から四章までの基本編を講読する。

<後期>

後期は、上記「アメリカの文化パターン」の五章から八章まで、即ちアメリカにみられる社会関係の形態、アメリカ人の世界観、自己認識、異文化コミュニケーション適用について、講読、議論したい。前期、後期を通じて、最終的にまとめる小論文の指導をする。

テキスト名：E. C. Stewart & M. J. Bennett, *American Cultural Pattern*

Inter Cultural Press 1991

比較文明論	その 染 谷 よし 臣 みち 道	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

冷戦終結後の世界政治は文明的区分に規定されているというハンチントンの主張は比較文明論に一石を投じた。しかし、彼の所論は依然として欧米中心主義に立ったパラダイムの中にあり、そうしたパラダイムではこれからの世界は成り立たない。ではどのようなパラダイムが要請されるか。旧来の伝統を「翻訳」し直している欧米自身の努力やアジアの文化に見られる共生思想に照らして、彼の言説「文明の衝突？」の問題点を検討する。

<後期>

人類の歴史は諸文明の交流史であった。文明は本来つねに交流し、一つのまとまった実体を構成するものではない。しかし、現実には、ハンチントンの所論に典型的に見られるように、文明は実体化され、交流を妨げられてきた。そのために文明間格差が生じ、今日に至って人類の生き残りに重大な脅威となっている。これまでの文明の交流と阻害の実態を概観し、今後、どう交流させ、人類の共有財産とするべきか、などについて考える。

試 験：何回かの小レポートに加えて各学期末に試験を実施する。
成績評価にあたっては、出席状況も十分に考慮する。

テキスト名：Huntington,S., *The Clash of Civilizations?*, Foreign Affairs, vol.72, no.3, 1993.

東 西 の 思 想 A ・ B	くぼ 窪 ひ 樋 た 田 か 笠 ごう 高 かつ 勝 めい 明 し 士	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

窪田高明

日本の思想伝統と外来の思想のかかわりという視点から、思想の比較研究を行う。まず、日本の思想が初めから外来文化の影響のもとに成立した点を踏まえ、比較思想研究の意義を考える。次いで、西欧の文化、思想との接触を考えるため、新井白石の例を取りあげる。さらに、近代西欧の思想の一例としてルソーを取り上げ、近世日本の思想家との比較、中江兆民などの日本の思想家に与えた影響を考える。

樋笠勝士

以下の内容を予定している。

- 比較とは何か。
 - 相対主義の問題点と展望
 - 哲学史と現代の思想状況
- 様々の「比較」の現場
 - 思想、宗教、言語など
- 「比較」の一つとしての「東西」
 - 美意識に関する「東西」

	前期	後期
A	樋 笠	窪 田
B	窪 田	樋 笠

試 験：学期末にテストを行う。

テキスト名：未定

東南アジアの宗教と文化	そめ 染 や 谷 よし 臣 みち 道	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

東南アジアの文化（文明）は古来のアニミズムの上にヒンドゥー教、仏教、イスラム教、キリスト教、道教、儒教などの諸宗教が重なり、混交する中で形成されてきた。したがって東南アジアを理解するためにはまずそれぞれの宗教を理解しなければならない。前期はそれらの諸宗教の教理などを概観し、それがどのように東南アジアにやってきたのか、さらに、どのような文化を形成してきたのかなど歴史的経過を概説する。

<後期>

諸宗教の集積からなる伝統は今日の東南アジアの文化全体を支えている。そこで、インドネシアやタイを始めとした東南アジア諸国の国家形成、政治文化、社会階層、芸術、思想などを概観し、それらに諸宗教がどのように関わっているかについて映像を用いながら分析を試みる。また、世界的な広がりを持つ宗教を媒介として地球規模の文化的ネットワークを形成しうる有利さと、近代世界システムに対応する上での問題点についても考える。

試 験：何回かの小レポートに加えて各学期末に試験を実施する。成績評価にあたっては出席状況も十分に考慮する。

テキスト名：佐々木 宏幹・村武 精一編『宗教人類学』新曜社 1994

国際経済概論 A ・ B	うち 内 だ 田 しげ 茂 お 男	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

4 年続きのゼロ成長、金融システムの動揺——日本経済の調子がおかしい。大蔵省を主軸にした戦後の経済運営システムも批判にさらされている。にもかかわらず、円高が続き、経済摩擦もいっこうに静まる気配がない。一方で、経済の空洞化を心配する声も出てきている。一体、なにが起こっているのか。前期では、日本経済と世界経済との相互関係を、新聞記者としてかかわっているトピックスを材料に、できるだけ理論的に解明したい。

<後期>

世界の人口の20％、約11億人が絶対的貧困ラインをさまよい、近い将来その数が減る見込みもない、ということが世界銀行などの分析で明らかにされている。途上国の多くが経済発展の軌道に乗らないのはどうしてか。その中で、アジア地域が発展しているのはどんな要因によるのか。後期は、途上国の現状と問題点に焦点をあてたい。できれば地球環境問題などにも触れたい。日本経済との関連を常に意識する視点は前期と同様である。

試 験：前・後期とも論文試験。

テキスト名：講義で適宜言います。

国 際 経 済 概 論 C	たか 高	なし 梨	かず 和	ひろ 紘	4 単 位
					2 ～ 4 年
					通 年

<前期>

今日、各国経済の相互関係はますます緊密の度を増している。商品の動きである貿易、資金の動きである国際投資や援助、情報の動きである技術移転など、どの側面においても各国相互間にはより深い経済関係が形成されつつある。こうした現象は米国、E C、日本についてばかりでなく、最近ではN I E Sをはじめとする発展途上国、さらにはソ連、東欧を含むより広い範囲に見られるようになった。そうした動きの中で、とりわけ発展途上諸国は国際経済の動きを左右するまでに、その影響力を増してきている。そこで本講義では、第二次大戦以後の国際経済全般の動向を概観した後、とくに発展途上国に注目し、その対外経済活動と背後にある国内経済の諸問題を扱いたい。

前期の授業では、日一米を中心とした先進工業国の経済関係に重点を置いて講義する。

<後期>

後期の授業では、発展途上諸国の経済とその国際関係に重点を置いて講義する。

試 験：講義内容の理解度と、それを踏まえて現実の国際経済問題に独自の評価を加えられるかを考査する。ノートの持込み可。

テキスト名：特定のものはない。講義時にアナウンスする予定です。

国 際 機 構 概 論 A ・ B	た 田	じま 島	しげ 重	お 雄	4 単 位
					3 ～ 4 年
					通 年

<前期>

前期は、国際機構とは何か、その意味するもの、国際機構の歴史的発展及びその成果、今日の国連の基本的考え方、その形態、権限、機能などを考える。そのうち、とくに安全保障理事会の最近の動向、P K O（平和維持活動）の具体的活動とその成果などに注目すると共に、経済社会理事会の諸活動、関連する各種専門機関の機能・活動などにも触れる。最後に、今日の国連の当面する諸問題や国連改革の方向などを考える。

<後期>

後期は、具体的に国連専門機関及びその地域別下部機構（国連以外の地域的国際機構を含め）の組織・運営・具体的活動を考えると共に、それらに対応する各国政府内の機構、さらに関連する民間の国際機構（N G O）とその活動を考える。その際、ユネスコ（国連教育科学文化機構）の例を引いて考えることが多い。最後に、国際機構と日本人の在り方、国際機構への応募方法にも触れる。

試 験：重要事項についてレポートの提出を求め評価する。

テキスト名：渡辺茂己『国際機構の機能と組織』国際書院 1994

国際連合広報局（国際連合広報センター監訳）：『国際連合の基礎知識』世界の動き社 1995

国 際 機 構 概 論 C	お 大 お い ず み け い こ 子 大 泉 敬 子	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

最近の多くの日本人が関心を持つようになった「国際連合」は、国際社会の長い歴史の結果存在している国際機構である。17世紀半ばに誕生した国家間関係としての国際関係が、経済や技術、紛争解決などの分野で次第に組織化され、20世紀に入ってから国際連盟をへて国連にまで至ったのだ。本講義では、前期でそうした国際機構の歴史を理解し、国連など現在あるさまざまな国際機構がどのように国際社会を組織化に向かわせているかを考える。

<後期>

後期には、現代の国際機構のなかから、主に国連をとりあげ、そのシステム、機能、役割について検討する。国連の平和機能（紛争の解決や管理）と経済的・社会的・文化的分野での国連活動を、現実の国際関係と国連との相互関係に焦点をあてて考える。国連とは、ダイナミックに動く「生きた機構」だからである。また、国連と日本（国際貢献や常任理事国入りなど）、国連と地域機構、国連と民間団体（NGO）との関係についても考える。

試験：定期試験とレポート、また通常の国際問題常識小テストの結果と出席度を、総合的に評価する。

テキスト名：その都度、必要文献名をあげる。

国 際 法 概 論 A ・ B	し の 篠 は ら 原 あ づ き 梓	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

前期には、国際法の基本的性格の理解を目的として講義を行なう。国際社会の歴史・構造、そして国内社会との相違についての検討から、日常接することの多い国内法とは異なる、独自の法現象としての国際法という概念を、しっかり把握してもらいたい。更に国際法の成立形式、国際法の主体としての国家やその領域について考察を進めていく。

<後期>

後期には、国際法の規律が及ぶ具体的分野を取りあげて、その内容や問題点等を明らかにしていく。特に1996年に大きな動きが予測される核軍縮を含む安全保障のほか、人権・環境という今日的な課題について、時事問題に関連した柔軟な講義をするつもりである。なお国際法についての前期の学習が前提となることは勿論だが、早くから新聞の国際ニュースに目を通しておくよう、心がけてほしい。

試験：各学期末に記述試験を2問位出題し、絶対評価で採点する。また状況によっては、レポートを課すこともある。

テキスト名：未定

国 際 法 概 論 C ・ D	いの 井 うえ 上 ひで 秀 のり 典	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

幕末に坂本龍馬は、万国公法に興味を持っていたと伝えられている。当時の社会で既に国際法が適用されていた。今日では、国際法は、国家間に適用されるだけでなく、国際組織および個人とも関係が深くなってきている。

前期は、国際法の基本的な考え方を中心として、国際法がどのように私たちの生活と関連しているのかについて講義する。

<後期>

今日の国際社会においては、ボスニア和平など平和を維持する努力がなされている。また資源をめぐる南北問題の存在、さらに地球規模の環境問題解決のために国際法がどのような役割を果たすことができるのか問われている。

後期は、紛争の平和的処理、地球規模の環境問題、安全保障等について講義する。

試 験：定期試験（年2回）の結果で評価する。

テキスト名：『ケースで学ぶ国際法』成文堂

民 族 と 文 化 I A ・ B	ない 内 とう 藤 みさお 操	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

文化は民族の内に包まれるものとして扱われる。前期は日本文化を色彩を通じて理解することにつとめ、その後国際比較に至る。

<後期>

後期は、この国際比較が今どのような事態に至っているかを究明する。

試 験：400字×10枚程度のレポートを課す。

テキスト名：大熊 利夫『色彩文学論』五月書房

民 族 と 文 化 II A	なかむらきみのり 中村公則	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

アラビア語圏の民族と文化について講義する。授業開始のあと、本大学所蔵のイスラーム圏関連書籍の紹介をする。それらの書籍を各自読んで、本講義で学んだことをより一層深く考究して欲しい。イスラーム以前のアラブ文化についても学ぶ。

<後期>

前期の継続。西方イスラーム圏の民族と文化についても勉強する。

試 験：持込可の期末試験を行うほか、課題図書 of 読書感想文を提出してもらう。

テキスト名：ヒツティ著『アラブの歴史』講談社学術文庫

民 族 と 文 化 II B	なかむらきみのり 中村公則	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

東方イスラーム圏の民族と文化について講義する。特にペルシャ民族の果たした役割は巨大である。本年度はイラン映画も沢山観て貰い、そのつど感想文を提出して貰う。また配付した資料に基づき、ペルシャ詩の朗読もたっぷり鑑賞して貰いたい。

<後期>

前期の継続。

試 験：期末試験のほか読書感想文を提出して貰う。

テキスト名：本田 実信著『イスラム世界の発展』講談社

2) 英米語学科専門教育科目

英 語 総 合 講 座 I		12 単 位
		1 年
		前期・後期

<Freshman English (a)/(b)> (4 単位／ 4 単位)

This is an integrated-skills course which aims to improve the four skills of speaking, listening comprehension, reading, and writing.

<Reading (a)/(b)> (1 単位／ 1 単位)

In this course various reading materials of short to medium length are read and discussed. Emphasis is placed on reading skills and vocabulary development.

<Basic Writing> (1 単位)

The students learn how to express their thoughts in written English paragraphs and essays. Model paragraphs are presented for analysis. Emphasis is placed on the study of typical paragraph organization patterns and the ways pieces of information in them are related.

<Language Lab> (1 単位)

This course aims to improve the overall pronunciation of the students. Various activities are used including repetition, recording, and interaction.

英 語 総 合 講 座 Ⅱ			12 単 位
			2 年
			前期・後期

< Oral Communication (a)/(b)> (1 単位／1 単位)

The goal of this class is to improve the sutdents' speaking and listening abilities. A variety of aural materials are used. Students interact in conversations and give individual presentations.

< Media English (a)> (1 単位)

The goal of this class is to develop the students' ability to comprehend television news programs.

< Media English (b)> (1 単位)

The goal of this class is to develop the students' ability to read and understand English newspapers.

< Intensive Reading (a)/(b)> (1 単位／1 単位)

The goal of this course is to read short articles and discuss them. Emphasis is put on comprehension and advanced vocabulary deveolpment.

< Extensive Reading (a)/(b)> (1 単位／1 単位)

In this class the emphasis is on reading American short stories and analyzing them.

< Communicative Grammar (a)/(b)> (1 単位／1 単位)

This course is a thorough review of English grammar with an emphasis on the kind of grammar necessary for effective communication in English.

< Advanced Writing (a)/(b)> (1 単位／1 単位)

This course helps to develop the students' ability to write coherent essays in English.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－１）	ひさ いずみ つる お 久 泉 鶴 雄	2 単 位
		3 年
		前 期

First Step to Comprehending Broadcast English

You are requested to listen habitually to broadcast English recorded from ABC, CBS, CNN, FEN and BBC, etc, in class and at home. Fundamentals about how to comprehend broadcast English will be introduced, such as the importance of background knowledge, finding key words or sentences to grasp the central ideas, the maximum use of "guessing work", development of vocabulary and the necessity of constant practice and so on. The characteristics in the styles of broadcast English, set phrases, useful expressions and other rules of broadcast English will also be explored.

評価方法：Précis writing of related newspaper articles, oral report on the latest radio or TV news, dictation exercise during the class will be evaluated. An end-of-term dictation test will be given on the final day. Attendance is also graded.

テキスト名：Handouts and cassette tapes

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－２）	ソニア イーグル SONIA EAGLE	2 単 位
		3 年
		前 期

American History and Culture Through Music

This course will present the social and historical trends in the USA from the mid 1800's to the present through a study of the changes in music and music styles. An overview of early church music, Black spirituals and gospel, blues, jazz, swing, country, folk and rock and roll, 60's rock, Latin music and soul will be considered along with the social implications of these trends and changes. Student presentation and papers will be done in three areas: Focus On The Stars, Ethnomusicology (music around the world) and Japanese Music. Videos and tapes music will be used to illustrate the different music styles.

評価方法：The grade will be based on

1. Classroom discussions and participation.
2. Fluency writing tasks.
3. Student presentations and posters.
4. Written report.
5. Midterm exam.

テキスト名：(1) Eagle, Sonia *American Music* Longman
(2) Articles prepared by the copy center

英語総合講座Ⅲ（ⅢE－3）	たか 高 すぎ 杉 ただ 忠 あき 明	2 単 位
		3 年
		前 期

Japan-US Relations and Japanese Contribution to International Society

The United States used to have tremendous military and economic power to maintain international order as “the World Policeman” during the Cold War period. However, US shows negative attitude toward intervening in regional conflicts due to its domestic economic impasse and the urgent task of rebuilding and revitalizing its society although the end of the Cold War has precipitated a series of uncontrollable conflicts all over the world. Instead, UN has come to have greater responsibility and role for the international peace and security. Japan is supposed to be permanent member of the UN Security Council around 1997, being asked to make not only financial contribution to UN but also military contribution through having its Self-Defense Forces participate in UN peacekeeping. It is time for Japan to find its new way and role in the post Cold War era. This course will focus mainly on (1) how the Japan-US relations have been developed in last 50 years and (2) how Japan, as an economic power, has been and will be involved in international contribution (kokusai kouken). Students who take this course will pick up some topics related to the mentioned above and will be required to make presentation on them.

評価方法：The grade will be determined based on the following criteria:

1. Class participation and presentation (40%)
2. Final report (60%)

テキスト名：Instructor will distribute handouts.

英語総合講座Ⅲ（ⅢE－4）	レ ジ ナ ル ド REGINALD カー ニー KEARNEY	2 単 位
		3 年
		前 期

Japanese Through American Eyes

This course will focus on the historical views and attitudes of Americans toward Japan and Japanese. Attention will be given to the reasons for such attitudes and the changes that occur over time.

評価方法：The course grade will be based on written and oral assignments, a midterm and final examination.

- テキスト名：(1) Sheila Johnson, *The Japanese Through American Eyes*;
 (2) レジナルド・カーニー、『20世紀の日本人：アメリカ黒人の日本人観』
 (3) Magazine, and Newspaper Articles.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－5）	ジェームス JAMES ヴィンセント VINCENT	2 単 位
		3 年
		前 期

The History and Art of Film

Cinema is the 20th Century’s major new art form. We will examine technical aspects of filmmaking (mise-en-scene, montage, transitions, film types, lighting) as well as major movements and schools in film history. (the silent epics, expressionism, surrealism, film noir, neo-realism, etc.)

評価方法：The course grade will be determined by class participation and discussions (15%), a written film review (25%), and a mid-term and final exam (60%).

テキスト名：Students to buy photocopied readings

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－6）	まつ 松 い 井 けい 佳 こ 子	2 単 位
		3 年
		前 期

An Introduction to American Feminism

The purpose of this course is to introduce students, female and male, to feminist thinking about changes in sexual roles and images, discrimination, oppression, the idea of gender, and the liberation of women and men. The text, in English with extensive notes in Japanese, covers feminist theory and ideology, literature and other arts, and the body and sexuality. Students are expected to discuss such topics as myths of femininity and masculinity, varieties of sexual experience, pornography, abortion, Black feminism, and such popular slogans as “Sisterhood is powerful” and “The personal is political.”

評価方法：The grade for the course will be determined based on the following elements:

1. Class Attendance and Participation: 20%
2. Quizzes: 30%
3. Mid-term and Final Exams: 50%

テキスト名：『Reading American Feminism 英語で読むアメリカのフェミニズム』
藤枝 濤子・松野 潔子他著

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－7）	かわしまこうへい 川島浩平	2 単 位
		3 年
		前 期

Gender Identity and Gender Roles

Are the differences between men and women innate qualities? Or are these differences shaped after birth by the power of environment? If so, how and when? If gender differences are determined innately or after birth by environmental forces, what are the social and economic roles expected for men and women of the 21st century? These are the questions that many social and natural scientists, active feminists, and political and religious thinkers have long addressed to us. This course aims to help students understand controversies over these issues, and take positions on them.

評価方法：Students will be required to submit several writing assignments, which at least include one or two review essays, one mid-term critical essay, and the final paper. Details will be announced at the beginning of the course.

テキスト名：A booklet of assigned readings needs to be purchased at the printing office

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－8）	いたばよしひさ 板場良久	2 単 位
		3 年
		前 期

Speeches of the U.S. Presidents

This is a course in contemporary American public address. Speeches addressed to the general public of a given society not only carry key issues its members are concerned with but also mirror some of their beliefs, values, and attitudes, be they main-stream or marginal.

What we will ask initially is: What do speeches of the U.S. Presidents imply? In order to approach our question, we will, first, learn some basic perspectives for understanding the characteristics of public speeches. Second, we will examine the U.S. presidential rhetoric by both critically listening to and reading the speeches themselves. Finally, we will discuss and share our views and opinions.

Contents: Lecture, oral reports(group work), oral interpretation(individual), and class discussion.

評価方法：1. Class participation: 20%
2. Oral presentation: 20%
3. Mid-term paper: 20%
4. Term paper: 40%

テキスト名：No textbook. Copies of materials will be handed out.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－9）	ウェンディー ウィタカ WENDY WHITACRE	2 単 位
		3 年
		前 期

American Culture Through Film I

This course will explore aspects of American culture through recent American films. Students will develop skills of cross-cultural analysis. Themes will include American beliefs, values, customs and gender roles.

- 評価方法：1. Class participation: 50%
2. Written assignments: 50%

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－10）	ハリソン ホーランド HARRISON HOLLAND	2 単 位
		3 年
		前 期

American Society

- Course I

c. the protestors / violence

1. Health Crisis

a. babies at risk; vaccination of the young

b. medicare / medicaid

c. tobacco

d. vaccines

e. AIDS

f. health insurance

g. health general – medical accidents, diagnosis, transplants

h. tobacco and youth: the Clinton assault

i. hospitals: foreign doctors

2. Affirmative Action

a. voter sentiment

b. California and Alabama

c. politics

d. the debate

e. government action

f. general

g. pro

h. con

3. Abortion

a. general, catholics, clinics

b. politics

4. Wealth Inequality

5. Senior Citizens

a. using their talents

b. benefit cute?

c. social security

6. Religion

a. morality

b. the family

c. the tone of morality and taste today

d. fundamentalism

e. divorce

f. women in the clergy

g. sexuality

h. pornography

i. general

7. Education

a. education and civil righte

b. segregated classrooms

c. policy, research, publish or perish, admis- sion, grading

d. education and the economy – benefactors

- e . teachers, students and sex – a problem for academia
 - f . student confessions
 - g . student safety
 - h . education and history
 - i . higher education – some stories
 - j . testing students for drugs
 - k . education and religion
 - l . employment prospects, unions
 - m . back to basics
 - n . a series of articles; select for student discussion
- 8 . Sports and Art
- A . Sports
- a . handicapped athletes
 - b . reputation of sports
 - c . a Japanese star in American baseball – Nomo
 - d . sports and civil rights
 - e . sport traditions – Kentucky Derby, yacht racing, baseball, the Olympics
 - f . sports VIPS
- B . Art
- a . art forms
 - b . Famous artists – Lorenzo Hart, Bruce Springsteen, Ronstadt, Bill Jones, Max Roach, Toni Morrison, Sinatra, Jerry Garcia
 - c . Music Festivals
 - d . Art and AIDS
 - e . general
- 9 . Media and TV Violence
10. The Public Mood
- a . a healthy democracy in the US? American humor
 - b . Gingrich and his Contract with America
 - c . Voter Unease
 - d . Frustrated democrats
 - e . a third party?
 - f . patriotism ??
 - g . some congressional history
 - h . cynicism
 - i . the voter – male, female
 - j . Social Health
11. Presidential Politics
- a . Clinton
 - b . The GOP – Dole, Gramm, etc al.
 - c . The Foster nomination for Surgeon General
 - d . Politics and a balanced budget
12. Jobs
- a . The social contract
 - b . Downsizing, consequences
 - c . Guilt
 - d . Insecurity
 - e . Older workers – less and less
 - f . Permanent vs. temporary jobs
 - g . the demise of ostentation – the executive dining room

評価方法： 1 . Class Participation: 50%

2 . Mid-term and Final Exams: 50%

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－11）	ハ リ ソ ン ホ ー ラ ン ド HARRISON HOLLAND	2 単 位
		3 年
		前 期

American Society

- Course II

1. Crime and Violence

A. Violence

 - a. Violence and anger
 - b. Law enforcement and crime
 - c. Reaction to violent acts
 - d. Violence – those who feed it

B. Crime

 - a. When trouble starts young
 - b. Life on the streets
 - c. Fighting crime
 - d. Victims of young criminals
 - e. Adult crime

C. The Militia

 - a. Hatred and suspicion of government
 - b. Paranoia
 - c. White supremisists
 - d. American fear of strangers and the militia
 - e. Extremism – some history
 - f. Militia activities
 - g. The Oklahoma bombing and the militia

D. The Gun Culture

 - a. Right to bear arms
 - b. The National Rifleman’s Association (NRS)

E. General

 - a. Drugs – Life on the streets
 - b. Drugs in prison
 - c. Computer crime – smut
 - d. Fear-conspiracy theories in American society
 - e. Sweatshops
 - f. Prison population
 - g. Rape

2. Civil Rights

 - a. the voting rights act
 - b. Progress for black Americans
- c. Some history
 - d. Fear, economics, VIP

3. Welfare

 - a. The reality
 - b. The penalties
 - c. politics
 - d. some solutions

4. Immigration

 - a. Today!!
 - b. The Debate
 - c. Policy change?

5. The Environment

 - a. Where we are
 - b. Politics
 - c. Pro

6. Youth

 - a. Postwar history – highlights
 - b. Attitudes,recreation, worries
 - c. poor children

7. Portrait of Middle America

8. The Culture of Complaint

9. Society’s Frustration

10. States’ Rights

 - a. The Courts and Federalism
 - b. Source of State Power
 - c. Federal power
 - d. Extreme Right and state legislatures
 - e. Bureaucracy

11. Gay Rights

12. Japanese American Internment during WWII

13. The Paycheck

14. Women in the Workforce

評価方法：1. Class Participation: 50%

2. Mid – term and Final Exams: 50%

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－12）	カレン シュライバー KAREN SHRIVER	2 単 位
		3 年
		前 期

Modern Art

This course will be given entirely in English. It will cover the history of western art from 1800 to the present. Lectures will be given, accompanied by slides of paintings, sculpture and architecture. Students will learn about how such works were produced and also why and what they mean. Tests will be in English and students will be required to write a paper in English.

評価方法：The grade for the course will be determined as follows:

1. Class participation 20%
2. Mid-term and final 50%
3. Report 30%

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－13）	ドーン ミヤザキ DAWN MIYAZAKI	2 単 位
		3 年
		前 期

American Regions as Depicted in the Movies

In this course we will talk about scenes from American movies and evaluate the characters and their situations within a cultural context. The films will cover most of the areas in the United States so students will have a basic concept of the diversity within the United States. Movies present a stereotypical image of certain 'types' perceived by Hollywood. Even though these characters may be exaggerations they nonetheless reflect the American (via Hollywood) image of the different regions within the United States.

The films discussed in this course include: *The Player*, *An Officer and a Gentleman*, *Crossing Delancy*, *Thelma and Louise*, *Everybody's All American* and *My Cousin Vinny*. The discussions will be augmented with readings which will pertain to either the cultural background of the characters or else to the historical setting.

評価方法：Students will be given numerous quizzes throughout the term and will be expected to participate. Finally, students will give a presentation based on the discussions in class and will choose two movies to compare or contrast.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－14）

デニス ダグラス ブラウン
DENISE DOUGLAS－BROWN

2 単 位
3 年
前 期

Communication Strategies in English I

This course is designed for students with an intermediate to upper-intermediate level of English who wish to acquire advanced discourse skills. *Discourse* is an acquired social ability, and involves the mastery of sophisticated strategies which will enable a speaker to successfully manipulate a conversation. The strategies to be covered include *hedging devices* (i.e., softening techniques to employ in a conversation), *British* versus *American* approaches to conversation, and approximately 50 *functions* of languages and their *forms*. Functions of language are the social purposes for which we employ speech, such as *Greeting, Leave-Taking, Making Introductions, Giving an Opinion, Agreeing, Disagreeing, Suggesting, Illustrating, Generalising, Stating Preferences, Making a Request, Refusing*, etc. For each function of language students will study the various forms (i.e., the actual *Phrases* used in English).

All of the language exercises will be taken from authentic examples of contemporary English as it is spoken in Britain and America. Students will be expected to engage in sophisticated conversational exercises in the classroom, and to contribute to discourse (i.e., *conversation*) with others.

At the end of the course students will be asked to prepare for a simulated business meeting in which they will participate as actors. The meeting will be video-taped as part of the overall assessment for each student. In addition, students will be asked to evaluate their own performance in the video, and to assess their own skill at discourse after viewing the video.

The course will be conducted in two modules (I and II) of one semester each. The modules may be taken independently, but it is understood that Communication Strategies II will be more advanced than Communication Strategies I, and that students will need to be fairly competent at speaking in English in order to enroll in Module II.

評価方法：The grade for the course will be determined on the basis of the following three components:

1. Class Exercises in Discourse 30%
2. Midterm Examination 40%
3. Final Meeting on Video 30%

テキスト名： *The Language of Meetings* (1st half of book) 1987,
Malcolm Goodale, Language Teaching Publications (LTP).

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－15）	ルイス フィリアンテ LUIS FULLANTE	2 単 位
		3 年
		前 期

Contemporary Asian Cultures

Reading and discussion on continuity and change in traditions and values of Asian societies in modern times. The purpose of this course is to provide students with historical and interpretive discussions on social, economic, environment, political systems, urbanization, modernization and westernization of some representative Asian societies like Japan, China, etc.

The class includes several “mini-courses” on topics ranging from marketing to the environment and simulates reading and writing common in American universities.

評価方法：The grade will be based on class assignments, attendance, participation and individual or small group projects.

テキスト名：Selected Readings Will Be Provided

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－16）	はら おか しょう こ 原 岡 笙 子	2 単 位
		3 年
		前 期

Speech Communication Skill Development

The aim of this course is to review the sound of English theoretically and practically by reading authentic SPEECHES out loud, and investigate the effective ways of oral reading. After the analysis of chosen speeches, students will do the presentation in class. Not only articulation and pronunciation on English but also breath group, pause, rate, loudness etc. will be discussed. Reading materials will be the speeches by the presidents of U. S. and by the distinguished speakers of U. S. and U. K.

評価方法：The grade will be based on

1. Participation in discussion and attendance
2. Reports
3. Oral presentation, performance
4. Final exam

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－17）	メリーデー MEREDITH	ヘイゼリッグ HAZELRIGG	2 単 位
			3 年
			前 期

WEST MEETS EAST: Understanding Cross-Cultural Encounters

This ambitious course integrates all basic language skills while developing techniques to understand and overcome cross-cultural communication problems. This will be accomplished by in-class discussion of common reading selections which focus attention on cultural assumptions held in different cultures.

At the same time, individualized assignments will be made for specific skill improvements ranging from pronunciation, vocabulary development and thinking in English. Self-selected teams will prepare class-determined projects for both written and oral presentation addressing specific considerations such as humor, frustration, anger, sorrow and/or customs surrounding specific events and institutions common to human existence such as birth, family, education, marriage, separations, reunions or death.

- 評価方法：1. 30% class participation (10% attendance, 20% preparedness and quality of responses)
2. 30% performance in individual development (15% self-evaluation, 15% by instructor in interviews)
3. 30% group-project (in-class, 10% group self-evaluation, 20% jointly by instructor and class)
4. 10% pop-quizzes (There is no exam, but exam period might be used for interview evaluations)

テキスト名：Determined in the first class-meeting from choices given by instructor and suggested by students.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－21）	ひさ いずみ つる お 久 泉 鶴 雄	2 単 位
		3 年
		後 期

2nd Step to Comprehending Broadcast English

Weak forms, assimilation, linking, ellipsis and other sound changes in broadcast English will be explored. Students will be encouraged to memorize some of the typical reduced forms and rapidly spoken sound clusters. Attention will be focused mainly on finding and learning a number of useful and practical strategies to overcome the difficulties in listening comprehension of broadcast English from all possible aspects.

評価方法：The grade will be determined by class participation, mini tests, presentation, precis writing, and the end-of-term exam. Attendance is also graded.

テキスト名：Handouts and cassette tapes

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－22）	ソニア イーグル SONIA EAGLE	2 単 位
		3 年
		後 期

Native North Americans

A survey of Native American cultures of USA and Canada including an overview of Indian race origins, migration and prehistoric cultures. Emphasis will be placed on Indian tribal groups from various culture areas such as the arctic, sub-arctic, plains, west coast, woodland and southwest areas. A consideration of Native American technology, social organization, religion, art and the present status of reservations will be included. Films will be used to illustrate the culture areas studied.

評価方法：The grade will be based on

1. Classroom workbook assignments
2. Midterm exam
3. Student presentations and posters

テキスト名：(1) Garbarino, Merwyn S, *Native American Heritage* Little, Brown & CO, Boston
(2) Student Workbook prepared by copy center.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－23）	レジナルド カーニー REGINALD KEARNEY	2 単 位
		3 年
		後 期

Japanese Through American Eyes

This course will focus on the historical views and attitudes of Americans toward Japan and Japanese. Attention will be given to the reasons for such attitudes and the changes that occur over time.

評価方法：The course grade will be based on written and oral assignments, a midterm and final examination.

テキスト名：(1) Sheila Johnson, *The Japanese Through American Eyes*;
(2) レジナルド・カーニー、『20世紀の日本人：アメリカ黒人の日本人観』
(3) Magazine, and Newspaper Articles.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－24）	ジェームス JAMES	ヴィンセント VINCENT	2 単 位
			3 年
			後 期

Philosophy as the Art of Living

To learn how to drive we attend a driving school. But where do we go for advice on how to conduct our lives? Who teaches the art of living and how to achieve happiness? This course gathers together various opinions on these vital questions from recognized experts (Plato, Epicurus, Epictetus, Seneca, Marcus Aurelius, etc.) from diverse philosophical traditions (the Socratic School, Epicureanism, Stoicism, Buddhism).

評価方法：Assessment will be on the basis of class discussions and assigned essays.

テキスト名：Students to buy photocopied readings

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－25）	かわ 川	しま 島	こう 浩	へい 平	2 単 位
					3 年
					後 期

The Family, Kinship, and Marriage in Contemporary America

Having observed many conflicts over and within the family in the contemporary USA, some critics argue that the American family is seriously jeopardized. Others claim, however, that despite the seeming crises of conjugal and parental relationships, the family still remains a solid and viable foundation of US society. Which position reflects the actual condition of today's American family more accurately? This course attempts to answer this question by examining issues surrounding the American family of today. In so doing, this course takes both positive and negative assessment of the institution into consideration.

評価方法：Students will be required to submit several writing assignments, which at least include one or two review essays, one mid-term critical essay, and the final paper. Details will be announced at the beginning of the course.

テキスト名：A booklet of assigned readings needs to be purchased at the printing office

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－26）	いた 板	ば 場	よし 良	ひさ 久	2 単 位
					3 年
					後 期

Fundamentals of Speech Communication

This course consists of three parts. In Part I, we will learn practical theories of speech-making. For example, we will learn how we can organize our ideas in an easy-to-understand form or how we can deliver speeches in public effectively. In Part II, we will learn to present our ideas in public in English for various purposes. For example, we will learn to make speeches to persuade an audience. In Part III, we will learn some of the ways to critically approach public discourse. For example, we will learn how we can analyze public speeches delivered by others in English. Throughout this course, we will adopt various forms of public communication, such as debate, public speaking, and public discussion.

- 評価方法：1. Class participation: 20%
2. Oral presentation: 20%
3. Mid-term exam: 20%
4. Final exam: 40%

テキスト名：No textbook. Copies of materials will be handed out.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－27）	ウェンディー WENDY ウィタカ WHITACRE	2 単 位
		3 年
		後 期

American Culture Through Film II

This course will explore aspects of American culture through recent American films. Students will develop skills of cross-cultural analysis. Themes will include American beliefs, values, customs and gender roles.

- 評価方法：1. Class participation: 50%
2. Written Assignments: 50%

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－28）	ルイス フィリアンテ LUIS FULLANTE	2 単 位
		3 年
		後 期

Contemporary Asian Cultures

Reading and discussion on continuity and change in traditions and values of Asian societies in modern times. The purpose of this course is to provide students with historical and interpretive discussions on social, economic, environment, political systems, urbanization, modernization and westernization of some representative Asian societies like Japan, China, etc.

The class includes several “mini-courses” on topics ranging from marketing to the environment and simulates reading and writing common in American universities.

評価方法：The grade will be based on class assignments, attendance, participation and individual or small group projects.

テキスト名：Selected Readings Will Be Provided

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－29）	ドーン ミヤザキ DAWN MIYAZAKI	2 単 位
		3 年
		後 期

American Films and Current Events

This course will be a continuation of the first semester except that the films chosen for discussion concern those which focus on social issues. In this course students will discuss scenes from movies such as: *Boyz n’ the Hood*, *Hoop Dreams* (Life in the inner city), *Stand and Deliver* (Immigrants and Immigration), *Roger & Me* (Industrial relations) and *The Verdict* (Capital punishment). Students will be expected to be interested in learning about the historical context of films.

Only certain scenes from the movies will be discussed which will be augmented with readings based on the scenes.

評価方法：Students will be given numerous quizzes throughout the term and will be expected to participate. Finally, students will give a presentation based on the discussions in class and will choose two movies to compare or contrast.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－30）	たなかまきこ 田中真紀子	2 単 位
		3 年
		後 期

Interpersonal Communication

Throughout this course, students will learn to think critically about what constitutes sound, ethical interpersonal communication and what skills and strategies are important for us to be interpersonally competent communicators. Students will be learning practical concepts and skills that will guide them in making good choices for communicating more effectively with intimates, close friends, family members, and professional colleagues. Additionally, we will explore implications of cultural differences and mass media for their impact on relationship in modern society. Students are encouraged to actively participate in class discussion.

評価方法：Evaluation will be based on:

- 1. Presentation 20%
- 2. Term paper 30%
- 3. Exams 50%

テキスト名： *Interpersonal Communication: competency through critical thinking.*
John S. Caputo, Harry C. Hazel, and Colleen McMahon. Allyn and Bacon, 1994.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－31）	はらおかしょうこ 原岡笙子	2 単 位
		3 年
		後 期

Speech Communication Skill Development

The aim of this course is to review the sound of English theoretically and practically by reading NEWS REPORTS out loud, and investigate the effective ways of oral reading. Not only articulation and pronunciation of English but also breath group, pause, rate, loudness etc. will be discussed. In addition to news reports, we may cover some documentaries for reading aloud according to your interpretation on the materials.

評価方法：The grade will be based on

- 1. Participation in discussion and attendance
- 2. Reports
- 3. Oral presentation, performance
- 4. Final exam

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－32）	せき 関	や 屋	やすし 康	2 単 位
				3 年
				後 期

English in the Media

This course will give students an overview of the English found in the media: television, radio, newspapers, magazines, films, etc. The aim is to develop student's listening and reading comprehension, critical thinking skills and self-expression.

All of the listening selections are taken from authentic English language television and radio programs. These include news reports, documentaries, talk shows, interviews, commercials, game shows, and dramas.

The reading selections are from popular English newspapers and magazines. We will make a list of topics according to the interests of the students in the class. Students will read the articles at home, analyze them, and be prepared to express their opinions in class. They will also be required to write weekly reports of newspaper articles of their choice.

評価方法：The grade for the course will be determined based on the following three elements:

1. Class Participation: 20%
2. Media Journal: 30%
3. Midterm and Final Exams: 50%

テキスト名：To be announced.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－33）	たか 高	すぎ 杉	ただ 忠	あき 明	2 単 位
					3 年
					後 期

Japan—US Relations and Japanese Contribution to International Society

The United States used to have tremendous military and economic power to maintain international order as “the World Policeman” during the Cold War period. However, US shows negative attitude toward intervening in regional conflicts due to its domestic economic impasse and the urgent task of rebuilding and revitalizing its society although the end of the Cold War has precipitated a series of uncontrollable conflicts all over the world. Instead, UN has come to have greater responsibility and role for the international peace and security. Japan is supposed to be a permanent member of the UN Security Council around 1997, being asked to make not only financial contribution to UN but also military contribution through having its Self-Defense Forces participate in UN peacekeeping. It is time for Japan to find its new way and role in the post Cold War era. This course will focus mainly on (1) how the Japan—US relations have been developed in last 50 years and (2) how Japan, as an economic power, has been and will be involved in international contribution (kokusai kouken). Students who take this course will pick up some topics related to the mentioned above and will be required to make presentation on them.

評価方法：The grade will be determined based on the following criteria:

1. Class participation and presentation (40%)
2. Final report (60%)

テキスト名：Instructor will distribute handouts.

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－34）	デニス　ダグラス　ブラウン DENISE DOUGLAS-BROWN	2 単 位
		3 年
		後 期

Communication Strategies in English II

This course is a higher-level implementation of Communication Strategies I. It is designed for students with an intermediate to upper-intermediate level of English who wish to acquire advanced skills in the speaking and interpretation of the English language. In this module students will review the strategies of successful conversation covered in Communication Strategies I and will practise their speaking skills in small groups. We will be studying approximately 50 advanced *functions* of language (e.g., *Commenting, Interrupting, Asking for Clarification, Taking the Floor, Playing for Time, Saying Nothing, Proposing Something, Confirming Something, Expressing Doubt, Persuading Someone, Correcting a Misunderstanding*, etc.) and the various *forms* (i.e., phrases) used to express them in English.

All of the language exercises will be taken from authentic examples of contemporary English as it is spoken in Britain and America. Students will be expected to engage in sophisticated conversational exercises in the classroom, and to contribute to *discourse* (i.e., mature conversation) with others.

At the end of the course students will be asked to prepare for a two-team debate on some controversial topic. The debate will be video-taped as part of the overall assessment for each student. In addition, students will be asked to evaluate their own performance in the video, and to assess their own skill at discourse after viewing the video.

The course will be conducted in two modules (I and II) of one semester each. The modules may be taken independently, but it is understood that Communication Strategies II will be more advanced than Communication Strategies I, and that students will need to be fairly competent at speaking in English in order to enroll in Module II.

評価方法：The grade for the course will be determined on the basis of the following three components:

- 1. Class Exercises in Discourse 30%
- 2. Midterm Examination 40%
- 3. Final Debate on Video 30%

テキスト名： *The Language of Meetings* (2nd half of book) 1987
 Malcolm Goodale, Language Teaching Publications (LTP).

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－35）	まつ 松	い 井	けい 佳	こ 子	2 単 位
					3 年
					後 期

Love and Loneliness in America

We will explore how Americans reach out from individualistic loneliness for others to love and how complicated-sometimes creative, sometimes destructive-love often becomes. We will read and discuss *American Short Stories of Lost Love*, *American Short Stories of Lost Love Ⅱ*, and *The Best Short Stories of New American Authors*. Students will learn how to interpret fiction in terms of character, plot, theme, tone, point of view, style, and cultural patterns. Comprehension of American English, especially contemporary usage, should improve. Students will be expected to present their ideas in class, both informally, and to write exams.

評価方法：The grade for the class will be based on participation and written exams.

テキスト名：(1) *American Short Stories of Lost Love* 英潮社
 (2) *American Short Stories of Lost Love Ⅱ* 英潮社
 (3) *The Best Stories of New American Authors* 英潮社

英語総合講座Ⅲ（Ⅲ E－36）	メ リ リ ー デ MEREDITH	ヘイゼリ ー グ HAZELRIGG	2 単 位
			3 年
			後 期

HUMAN RIGHTS: A Determination and Report

This ambitious course integrates all basic language skills while exploring the question of just what constitutes human rights and arriving at some limited but publishable conclusions that may either be printed or made available on the Internet in some form.

This will be accomplished by in-class discussion of common reading selections which focus attention on the issues of human rights in English, combined with individual and group reports compiled from any language source but presented in English. Final sessions are devoted to preparation of the final joint project and may extend into the final exam period if necessary.

Throughout, individualized assignments will be made for specific skill improvements ranging from pronunciation, vocabulary development and thinking in English.

- 評価方法：1. 30% class participation (10% attendance, 20% preparedness and quality of responses)
 2. 30% performance in individual development (15% self-evaluation, 15% by instructor in interviews)
 3. 30% group-project (in-class, 10% group self-evaluation, 20% jointly by instructor and class)
 4. 10% pop-quizzes (Covering class-reports and class-assigned skill requirements)

テキスト名：Determined in the first class-meeting from choices given by instructor and suggested by students with additions and supplements as the term progresses.

英語総合講座Ⅳ（ⅣE－１）	ソニア イーグル SONIA EAGLE	2 単 位
		4 年
		前 期

Readings and Films on Ethnology

This course will include lectures and student presentations on cultures around the world. A neo-evolutionary approach will be used to study hunting and gathering bands, horticultural and pastoral tribal societies, early kingdom states and peasants societies. Emphasis will be placed on environment, level of technology, social organization, ideology and culture change. Ethnographic field methods and descriptions will be used to understand different people and cultures. Films will be incorporated into the course on cultures from various socio-economic levels.

評価方法：The grade will be based on

1. Student presentations
2. Poster sessions
3. Student generated quizzes
4. Book report
5. Extra work for absentee seniors

テキスト名：Service, Elman *Profiles In Ethnology* Harper & Row.

英語総合講座Ⅳ（ⅣE－２）	レジナルド カーニー REGINALD KEARNEY	2 単 位
		4 年
		前 期

A History of African Americans, Part I

This course will focus on the history of black Americans in the United States from about 1619 until the end of the Civil War in 1865. At the end of the course students should understand that black Americans made significant contributions to the shaping of American democracy, values, and institutions.

評価方法：The course grade will be based on written and oral assignments, a midterm and final examination.

テキスト名：John Hope Franklin, *From Slavery to Freedom*

英語総合講座Ⅳ（ⅣE－３）	ジェームス ヴィンセント JAMES VINCENT	2 単 位
		4 年
		前 期

Culture Through Idioms

Language and culture are interdependent. One can partially analyze the way a society thinks by examining its language. This class hopes to provide insights into American society by focusing on the idioms of spoken American English. Besides our textbook, we will also employ some television situation comedies as a rich source of contemporary idioms.

- 評価方法：1. Class participation (20%)
2. Mid-term and final exam (80%)

テキスト名：*Idioms for Everyday Use* (M. Broukal) National Textbook Co.

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－４）	くわ ばら かず き 桑 原 和 生	2 単 位
		4 年
		前 期

Topics in Language and the Study of Mind

Human languages have many special properties that distinguish them from so-called “animal languages” and from arbitrary systems of communication that might be invented. One characteristic property of human language is its “creative aspect,” the fact that its mechanisms allow for constant innovation, free from control of identifiable stimuli. The central idea in modern linguistics is that our language ability is stored in the brain as a set of unconscious patterns that provides a basis for the creative aspect of language use.

Our objective is to study the fundamental properties of human language and its relation to the nature of mind. Topics included are: What is the fundamental properties of human language? What contribution can the study of human language make to understanding of human mental processes? How children acquire languages, etc.

評価方法：Grades will be based on the class participation, oral presentation and essays.

テキスト名：Pinker, Steven. 1994. *The Language Instinct. The New Science of Language and Mind.* Penguin Books Ltd.

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－５）	かわ しま こう へい 川 島 浩 平	2 単 位
		4 年
		前 期

Poverty, Crime, and Gun Control in USA Today

The 1992 murder of a Japanese high school student in Baton Rouge, Louisiana, has reconfirmed our long-held beliefs that America is a dangerous place, and that the best way to make this nation a little safer for its people and foreigners must lie in establishing an effective measure to control gun ownership. A close examination will soon reveal, however, that reality is not that simple. This course examines the contemporary crisis of urban America in terms of poverty, crime, and the wide circulation of guns. Students are to learn how the American people have coped with the dangerous and deteriorating conditions of the urban environment, and why, despite the reformers’ and civic and political leaders’ serious concerns, so many attempts to fight against poverty, violent crime, and gun circulation have been defeated by the opposing forces.

評価方法：Students will be required to submit several writing assignments, which at least include one or two review essays, one mid-term critical essay, and the final paper. Details will be announced at the beginning of the course.

テキスト名：A booklet of assigned readings needs to be purchased at the printing office

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－６）	わた なべ あきら 渡 辺 明	2 単 位
		4 年
		前 期

Acquisition of Argument Structure

The core structure of a sentence is determined by the properties of the main verb and its arguments. In English, verbs have alternative ways of syntactically realizing their arguments. This course deals with syntactic and semantic aspects of argument structure and considers how these properties arise during the course of (first) language acquisition.

We will read a couple of articles dealing with this topic. We will take a critical look at the ideas in the papers. The participants are therefore required to pursue relevant questions in a logical way.

評価方法：Presentation, class participation, written assignments

テキスト名：Necessary materials will be xeroxed.

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 7)	いたばよしひさ 板場良久	2 単 位
		4 年
		前 期

An Early History of U.S.—Japanese International Communication

We have been told that our relations with the United States began in 1853–54 when U.S. Commodore Perry arrived in Japan and negotiated a treaty of peace and amity. But we seldom ask why Perry came to our country at all or, more generally, why the United States wanted to open Japan's ports.

Two key questions will be discussed in this course: (1) What issues were discussed in the United States during the period leading to Perry's expedition? (2) How were the arguments developed and communicated? These questions are important in understanding more fully the history of "our" relations with Americans from "their" point of view.

Contents: Lectures, oral interpretation of some proposals to Congress and other testimonies, and oral reports.

評価方法: Elements for grading:

1. Class participation: 20%
2. Oral presentation: 20%
3. Mid-term exam: 20%
4. Final exam: 40%

テキスト名: No textbook. Copies of materials will be handed out.

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 8)	ウェンディー ウィタカ WENDY WHITACRE	2 単 位
		4 年
		前 期

Personality Assessment

This course will introduce the concept of typologies (such as the Myers/Briggs Inventory or Holland's Human Aggregate Model) as tools for self exploration and for developing an understanding of the people around us. Students will be able to fill out the questionnaires of various personality assessment instruments and discuss the results. Students will develop skills of cross-cultural analysis of the different typologies. Students will be able to control the confidentiality of their own personality assessments, if desired. Evaluation will be based on class participation and written assignments.

- 評価方法: 1. Class participation: 50%
2. Written Assignments: 50%

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 9)	いし い やす お 石 居 康 男	2 単 位
		4 年
		前 期

Reading Legal Documents from Linguistic Points of View

In this course, we read and discuss Lawrence M. Solan's *The Language of Judges*. The book is an interesting application of modern linguistic theory to law. We will see how the kind of knowledge and analytic thinking we learn in linguistic courses can be extended to everyday situations to shed new light on them.

評価方法: Grades for the course will be based on class participation, oral presentations, and exams.

テキスト名: Solan, Lawrence M. (1993) *The Language of judges*, The University of Chicago Press.

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 10)	にし はた のり お 西 端 則 夫	2 単 位
		4 年
		前 期

Development needs and Japan's Official Development Assistance (ODA)

Japan is a top donor in money term for four years until 1994, and is requested to respond to the diversified needs for development in developing countries.

The objective of the lectures is to familiarize students with basic knowledge about Japan's ODA which has four basic sections:

1. introduction of international aid agencies and its functions,
2. the history of Japan's ODA,
3. mechanisms of identification and implementation of development projects, and
4. needs for more assistance and developing countries.

Videos and films are to be used in the class for helping students' understandings.

評価方法: The grade for the course will be determined based on the following four elements:

1. Attendance (10%)
2. Class participation (20%)
3. Presentation (20%)
4. Final report (50%)

テキスト名: To be announced later

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 11)	こ ばやし とし お 小 林 登志生	2 単 位
		4 年
		前 期

Intensive Reading Comprehension

A students' ultimate goal in learning a foreign language is to be able to read and grasp ideas as quickly and easily as if he were reading his native language. Yet because of the habit in early stages of language learning most students are inclined to translate. The students should try to develop a 'feeling' for the foreign language so that he is really reading. In this class the students are urged to do just this, developing this feeling! They will be given something to read in English in each class and learn how to comprehend that in English, not deciphering word for word, through exercises and class activities.

評価方法: The grade for the course will be determined based on the following elements:

1. Class participation: 30%
2. Contribution to class activities: 30%
3. Quizzes and examinations: 40%

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 12)	すぎ 杉	やま 山	はじめ 肇	2 単 位
				4 年
				前 期

Development and International Solidarity

The east-west opposition has disappeared but the north-south problem still remains unresolved in today's world. Over the widening divide between rich and poor countries, we are now faced with global new issues. All these problems have crucial consequences for human security whose concept has come to appear recently. Even the advanced societies cannot escape such problems in the context of development, as of poverty, unemployment and social disintegration.

The class aims at following an approach to meet the new economic and social challenge at the global level so that we may shape a better common future for all the nations.

We'll use videos to stimulate discussion, as well as textbook. Students will be required to do necessary research on a topic for summary presentation, participate in group discussion.

評価方法: Evaluation will be based on attendance (10%), oral presentation (10%), class discussion (30%), and one report (50%).

テキスト名: *United Nations, World summit for Social Development – The Copenhagen Declaration and Programme of Action*, New York, 1995, 137p.

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 13)	さか 阪	た 田	やす 恭	よ 代	2 単 位
					4 年
					前 期

U.S. Diplomatic Policy toward Asia

In this course, we will examine the historical and contemporary aspects of America's relationship with the Asian region, mainly China, Korea and Southeast Asia. There will be lectures and discussions on American diplomatic traditions and approaches toward Asia and its policy, with a focus on the post-World War II period.

Students will be required to read the materials related to the topic, participate in class, and write two papers (one mid-term, one final). Assignments are to be written in English. Details will be provided at the first meeting, so do not miss it.

評価方法: Evaluation will be based mainly on the two papers.

テキスト名: Text will be announced later in class. Printing fees will be requested.

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 14)	カ レ ン KAREN	シュライバー SHRIVER	2 単 位
			4 年
			前 期

American Art

This course will be given entirely in English. It will cover the history of America through its art from the Colonial period to the present. Lectures will be given, accompanied by slides of paintings, sculpture and architecture and some videos will also be used. Students will learn about how art works were produced and also why and what they mean. Also they will learn about American history and culture. Tests will be in English and students will be required to write a paper in English.

評価方法: The grade for the course will be determined as follows:

1. Class participation 20%
2. Mid-term and final 50%
3. Report 30%

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 15)	たなか まきこ 田 中 真紀子	2 単 位
		4 年
		前 期

Readings on Social Life in U.S.A.

This course will provide students with an opportunity to look at a wide variety of aspects of contemporary American life through reading a selected textbook, *America IN CLOSE-UP*. Topics to be dealt with include American beliefs and values; law, crime, and justice; minorities; regionalism vs. Americanization; the changing role of women; the political system; education, and so on.

Students are encouraged to actively participate in class discussion.

評価方法: The grade for the course will be determined based on the following four elements:

1. Oral presentation 20%
2. Mid-term exam 30%
3. Final exam 30%
4. Term paper 20%

テキスト名: *America IN CLOSE-UP* by Eckhard Fiedler, Reimer Jansen, and Mil Norman—Risch, Longman (1990)

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 16)	デニス ダグラス ブラウン DENIS DOUGLAS-BROWN	2 単 位
		4 年
		前 期

Academic Writing I

This course is designed to introduce students to conventional writing standards that are common to academic institutions in the English-speaking world. Students will be instructed in the 4S's of writing:

- 1) the linear *structure* of an English text (as contrasted with a Japanese text)
- 2) the various *styles* of a text (e.g., chronological style, areal style, ranking style, etc.)
- 3) the key *signals* used in writing (e.g., signals to open a text, to conclude a text, to introduce a new point in the text, to make an example in a text, to change topic in a text, etc.)
- 4) the *syntactic* devices used in writing (e.g., types of reference, relative clauses, passive voice, etc.)

As the course develops we will look at the planning of writing (i.e., *collecting*, *categorising*, and *sequencing* data) and the various characteristics of a good written text (e.g., *cohesion*, *coherence*, *description*, *narrative*, *definitions*, *exemplification*, *classification*, etc.) All of the writing exercises will follow the pattern of academic writing as it is used in universities in America and England. Students will be expected to engage in writing exercises in the classroom and to prepare for a final assessment of their writing skills.

At the end of the course students will be asked to display their writing skills by writing a short essay on a particular topic during the class period. The essay will be graded on writing *technique* rather than content, and the topic will be well-contained in order to enable students to focus on their writing.

The course will be conducted in two modules (Ⅰ and Ⅱ) of one semester each. The modules may be taken independently, but it is understood that Academic Writing Ⅱ will be more advanced than Academic Writing Ⅰ, and that students will need to be fairly competent at writing in English in order to enroll in Module Ⅱ.

評価方法: The grade for the course will be determined on the basis of the following three components:

1. Class Exercises in Writing 30%
2. Midterm Examination 40%
3. Final Essay 30%

テキスト名: *Academic Writing Course*, new edition (1st half of book)
1990, R. R. Jordan, Collins ELT.

英語総合講座Ⅳ（ⅣE－17）	モーガン MORGAN	ギブソン GIBSON	2 単 位
			4 年
			前 期

Thinking Ethically About The Environment

What are some principles and non-technical terms used in discussing ethical, social, and political issues concerning the environment? How can we think and communicate in English more clearly, rationally, and persuasively about how to live in relation to “our only world”? What are some ecological philosophies? Students will discuss analytically and critically information and ideas from the textbook and other sources. They will be expected to explain concepts, develop arguments and refutations, write regularly in loose-leaf notebooks, read from them in class, make short speeches, and engage in dialogues with the instructor and other students.

評価方法：The grade for the course will be determined by the following criteria:

- | | |
|--|-----|
| 1. Notebooks (for oral presentations to the class) | 25% |
| 2. Other participation in class | 25% |
| 3. Mid-semester exam | 25% |
| 4. Final exam | 25% |

テキスト名：Richard Evanoff, *Thinking about the Environment, an Introduction to Environmental Ethics* (Macmillan Language House)

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－21）	ソニア SONIA	イーグル EAGLE	2 単 位
			4 年
			後 期

Anthropology and Religion

An anthropological view of religion in culture and society, its origins and functions, will be considered in this course. The theories of scholars such as Tylor, Frazer, Durkheim, Malinowski, Jung and Levi-Strauss will be reviewed. The nature and function of myth, ritual, mana, taboo, magic, animism, shamanism, trancestates, rites and symbols will be covered and the overall social and psychological functions of religion will be discussed. The course will include classroom mini-lectures, films, student discussions, vocabulary work, oral reports, outline/posters and student generated quizzes.

- 評価方法：1. Workbook grade
2. Presentation and poster
3. Student generated quizzes
4. Classroom participation
5. Written report
6. Final paper or Exam (required for seniors with too many absences) Teacher's option

テキスト名：Material prepared by the copy center (Theory and Case Studies)

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－22）	こばやし 小林美樹	みき 美樹	2 単 位
			4 年
			後 期

Theme Writing

The goal of this course is to study some basic techniques to write persuasive essays. For this purpose, students will read various kinds of essays and analyze them to learn effective ways of developing ideas. After studying the basic methods of theme development, students will write essays which have a particular purpose, e.g., evaluation, argumentation, etc.

評価方法：Evaluation will be based on writing assignments and tests.

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－23）	レジナルド REGINALD	カーニー KEARNEY	2 単 位
			4 年
			後 期

A History of African Americans, Part II

This course will focus on the history of black Americans in the United States from the end of the Civil War in 1865 to the period of the Civil Rights movement. At the end of the course students should understand that black Americans made significant contributions to the shaping of American democracy, values, and institutions.

評価方法：The course grade will be based on written and oral assignments, a midterm and final examination.

テキスト名：John Hope Franklin *From Slavery to Freedom*

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 24)	ジェームス JAMES ヴィンセント VINCENT	2 単 位
		4 年
		後 期

People and Languages of Europe

The European continent presents an amazingly complex pattern of ethnic groups, languages, and cultures, many of which are relatively unknown in Japan. This course will provide a comprehensive survey of the peoples of Europe from the Atlantic to the Urals, from the Arctic Ocean to the Mediterranean. Students will become acquainted with the language families, historical migrations, and cultural patterns of this important continent.

評価方法：The course grade will be determined by class participation and projects (30%) and a mid-term and final exam (70%)

テキスト名：Students to buy photocopied readings

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 25)	くわ ぼら かず き 桑 原 和 生	2 単 位
		4 年
		後 期

Exceptional Language and its Acquisition:

Learning about Language from the Non-ideal Speaker-Hearer

Many aspects of the language of the non-ideal-speaker-hearer such as the young child and aphasic patient lead us to a better understanding of the nature of our language ability and the notion of "explanation" in linguistics. In this seminar, we will read various articles that deal with the properties of the languages of the young child and aphasic patient in relation with the language ability. Topics included are: How languages are learned in unusual circumstances? What are the principles of language acquisition? What aspect of language ability does the study of exceptional languages reveal etc.

評価方法：Grades will be based on the class participation, oral presentation and essays.

テキスト名：Printed materials will be provided. Printing fees may be required.

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 26)	いた ば よし ひさ 板 場 良 久	2 単 位
		4 年
		後 期

Ethical Issues in Mass Communication

Messages we receive through mass media are normally based on values and assumptions we often take for granted. Those values and assumptions may even appear "natural" unless we question them critically. In recent years, however, the field of mass communication in the United States has raised many questions concerning the ethicality of media behavior in various situations.

In this course we will discuss some of the debatable issues related to U.S. mass communication in terms of moral reasoning. First, we will learn several ways of looking at communication ethics. We will, then, analyze some actual media-related cases in which controversy has emerged. Finally, we will discuss our own opinions. At the end of the course, we are expected to become capable of engaging in mass communication more wisely.

Contents: Lectures, class discussion, value debates (group work), and oral reports.

評価方法：1. Class participation: 20%

2. Oral presentation: 20%

3. Mid-term exam: 20%

4. Final exam: 40%

テキスト名：No textbook. Handouts will be provided.

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－27）	ウエンディー WENDY	ウイタカ WHITACRE	2 単 位
			4 年
			後 期

Theatrical Performance

In this course students will produce and perform a scene from an American play. In the process, students will be introduced to all aspects of theatrical production, including play analysis, character analysis, set design, marketing, blocking, etc. Evaluation will be based on class participation and final performance.

評価方法：1. Class participation: 50%
2. Final performance: 50%

テキスト名：No text

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－28）	いし い やす お 石 居 康 男	2 単 位
		4 年
		後 期

Reading on Language and Communication

In this course, we read and discuss a variety of articles related to language and communication. Among the topics to be covered are: animal communication, language acquisition, language and the brain, and language variation.

評価方法：Grades for the course will be based on class participation, oral presentations, and exams.

テキスト名：Photocopied readings to be available for purchase.

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－29）	こ ばやし とし お 小 林 登志生	2 単 位
		4 年
		後 期

Basic Skills for Oral Discourse

This class aims at enhancing students' ability to discuss and perform in English. Students are urged to actively participate in class activities. The class is divided into small groups, and students develop skills in expressing themselves in English using video and handout materials. They are then required to take a part in role-plays to further enhance the skills acquired and their ability to discuss and perform in English.

評価方法：In evaluation more emphasis will be placed upon students' active participation in and contribution to class activities than regular examinations and quizzes.

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－30）	すぎ 杉	やま 山	はじめ 肇	2 単 位
				4 年
				後 期

Peace and Development

In this course, we will have a panoramic view of the today's efforts of the United Nations system. Then we'll deepen the understanding of interlinked dimensions of development, not forgetting that development is the most secure basis for peace. Development is actually in crisis since more concerns have been expressed that the United Nations puts greater emphasis on peace-keeping. But our agenda for development is reappearing through recent United Nations experiences. Without development, in fact, there is no prospect for lasting peace.

The purpose of the course is to realize an emerging vision of development which contributes to solve poverty, conflicts, and wars in international community.

We'll use videos to stimulate discussion, as well as textbook. Students need to do research for an oral presentation, participate in class discussion.

評価方法：Evaluation will be based on attendance (10%), oral presentation (10%), class discussion (30%), and one report (50%).

テキスト名：Boutros Boutros-Ghali, *An Agenda for Development*, New York, United Nations, 1995, 132p.

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－31）	さか 阪	た 田	やす 恭	よ 代	2 単 位
					4 年
					後 期

East Asian International Relations

In this course, we will study the evolution of international relations in the East Asia and the Pacific region, with a focus on the period since the Pacific War period. We will also examine new issues arising in the post-Cold War period.

This is a seminar course based on lectures and presentations. Students will be required to read the materials related to the topic, participate in class discussion, do in-class assignments (sometimes homework), make one oral presentation, and write a final paper. Assignments are to be written in English.

Details will be given at the first meeting, so make sure you come to class.

評価方法：Evaluation will be based mainly on the presentation and papers.

テキスト名：Copies of books and articles will be provided in class. Some printing fees will be requested.

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 32)

たなか まきこ
田中 真紀子

2 単 位
4 年
後 期

Contemporary Social Problems in U.S.A.

In this course, students will observe some typical social problems that affect people's lives in the U.S.A. Topics to be dealt with include sex-related social problems; alcohol and other drugs; crime and criminals; violence; poverty; prejudice and discrimination; problems of public education; and family disorganization. Students will study these social problems from a sociological point of view. Reading materials will be mostly from *Social Problems* (7th ed. by William Kornblum et al. Prentice Hall, 1992).

Students are encouraged to actively participate in class discussion.

評価方法：The grade for the course will be determined based on the following three elements:

1. Oral presentation 30%
2. Summary of presentation 20%
3. Final exam 50%

テキスト名：Copies of books and articles will be provided throughout the course.

A printing fee will be requested.

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 33)

デニス ダグラス ブラウン
DENISE DOUGLAS-BROWN

2 単 位
4 年
後 期

Academic Writing II

This course is designed to drill students in the conventions and standards of writing that are expected in English-speaking universities and institutes. Students are expected to have had some experience in writing essays in English before they enroll in this class, but in this module we will review the 4S's of writing covered in Academic Writing I (i.e., the *structure*, *style*, *signals*, and *syntax* of a text).

All of the writing exercises will follow the pattern of academic writing as it is used in universities in America and England. Students will be expected to engage in writing exercises in the classroom and to prepare for a final assessment of their writing skills.

As the course develops we will look at the various strategies for manipulating a text in English, such as *topic sentences*, *objectivity of perspective*, *comparison and contrast*, *cause and effect*, *generalising*, *interpretation of data*, *concluding*, *use of lexis* (i.e., *vocabulary*), etc.

At the end of the course students will be asked to display their writing skills by writing a short essay on a particular topic during the class period. The essay will be graded on writing *technique* rather than content, and the topic will be well-contained in order to enable students to focus on their writing.

The course will be conducted in two modules (I and II) of one semester each. The modules may be taken independently, but it is understood that Academic Writing II will be more advanced than Academic Writing I, and that students will need to be fairly competent at writing in English in order to enroll in Module II.

評価方法：The grade for the course will be determined on the basis of the following three components:

1. Class Exercises in Writing 30%
2. Midterm Examination 40%
3. Final Essay 30%

テキスト名：Academic Writing Course, new edition (2nd half of book)

1990, R. R. Jordan, Collins ELT.

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－34）	にし 西	はた 端	のり 則	お 夫	2 単 位
					4 年
					後 期

Development needs and Japan's Official Development Assistance (ODA)

This course is designed to deepen students' interest in development assistance.

Several topics and regions, e.g. education, water supply, environment, poverty, are to be selected for case studies in Asian / African regions.

These would accerelate students' understandings about development studies.

The objective of the lectures is to familiarize students with development efforts done so far by both donors and recipients.

Videos and films are to be used in the class for helping students' understandings.

評価方法：The grade for the course will be determined based on the following four elements:

- 1. Attendance (10%)
- 2. Class participation (20%)
- 3. Presentation (20%)
- 4. Final report (50%)

テキスト名：To be announced later

英語総合講座Ⅳ（Ⅳ E－35）	モ ー ガ ン MORGAN	ギ ブ ソ ン GIBSON	2 単 位
			4 年
			後 期

Ideologies Left And Right

What are some ideologies that powerfully motivate many people around the world? How can we understand and effectively use such controversial terms as Individualism, Liberalism, Libertarianism, Conservatism, Marxism, Communitarianism, Capitalism, Pragmatism, Feminism, Humanism, Secularism, Afrocentrism, Cultural Relativism, etc? How can we think and communicate in English more clearly, rationally, and persuasively about such concepts and movements associated with them? Students will discuss analytically and critically information and ideas from the textbook and from other sources. (Though the textbook focuses on ideologies in the United States, they are international.) Students will be expected to write regularly in looseleaf notebooks and to read from them in class.

評価方法：The grade for the course will be determined by the following criteria:

- 1. Notebooks (for oral presentations to the class) 25%
- 2. Other participation in class 25%
- 3. Mid-semester exam 25%
- 4. Final exam 25%

テキスト名：Paul McLean, *Campus. What Americans Believe and Why* (Macmillan Language House)

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 36)	メリリーデ MEREDITH	ヘイゼリッグ HAZELRIGG	2 単 位
			4 年
			後 期

WHAT'S SO FUNNY? An Exploration and Analysis of English Language Abuse

This ambitious course integrates all basic English language skills while exploring questions of the misuse of English. These include not only matters of “political correctness” and mistranslation in both directions, but also matters of “interlanguage” and linguistic pragmatics. This will be accomplished by in-class discussion of common reading selections which focus attention on these issues.

Individualized assignments will be made for specific skill improvements ranging from pronunciation, vocabulary development and thinking in English while self-selected teams will prepare class-determined projects for both written and oral presentation addressing specific considerations ranging from humorous, costly and dangerous errors.

Final compilation should result in a publishable article or booklet.

- 評価方法：1. 30% class participation (10% attendance, 20% preparedness and quality of responses)
2. 30% preformance in individual development (15% self-evaluation, 15% by instructor in in-terviews)
3. 30% group-project (in-class, 10% group self-evaluation, 20% jointly by instructor and class)
4. 10% pop-quizzes (Covering class-reports and class-assigned skill requirements)

テキスト名：Determined in the first class-meeting from choices given by instructor and suggested by students with additions and supplements as the term progresses.

英語総合講座Ⅳ (Ⅳ E - 37)	うす 臼	い 井	なお 直	と 人	2 単 位
					4 年
					後 期

Speech Communication

The aim of this class is to improve basic public speaking skills. The students will be provided with opportunities to practice discussion, speech, and debate on various social topics, such as pro and con of smoking, organ transplantation from brain dead donors, participation in the Peace Keeping Operation, etc. (The topics are subject to change.). The class procedure will be 1) lecture on a topic, 2) class discussion on the topic, 3) presentation of speech or debate, and 4) classroom discussion on peer presentation. Library research and speech writing will be required as home work assignments.

- 評価方法：1. Speech manuscripts: 20%
2. Speech and debate performance: 80%

テキスト名：To be announced.

英 語 学 概 論 A	ひさ 久 いずみ 泉 つる 鶴 お 雄	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

英語を世界の言語の中の一言語としてその位置づけを考え、発音、文字、語彙、文法の点からその特徴を解説する。続いて構造的見地から、それらの特徴を分析する。さらに意味に関する諸問題、英語の地域的・社会的変動、史的变化について述べる。

試 験：授業最終日に試験を行う。

テキスト名：George Yule. *The Study of Language*. Cambridge University Press

英 語 学 概 論 B	くわ 桑 ぼら 原 かず 和 き 生	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

英語の言語構造関わる中心的な研究課題を概説する。特に、英語学と密接な関係にある音声学、音韻論、統語論の基礎を学ぶ。言語資料には、主として英語を用いるが、必要に応じて日本語やその他の言語と英語を比較し、英語の諸特徴を把握するとともに、言語の本質に対する理解を深めることに努める。

試 験：定期試験と練習問題。

テキスト名：A.Akmajian, R.A.Demers, A.K.Farmer, and R.M.Harnish.
Linguistics: An Introduction to Language & Communication.
MIT Press,1995 4th Edition

英 語 学 概 論 C	はやし 林 ゆたか 裕	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

英語を世界の中の一言語としてその位置づけを考え、音声、音韻、語形成、文法の点からその特徴を解説する。さらに意味と文脈にかかわる諸問題について述べ、余裕があれば英語の地域的、社会的変動を扱う。

試 験：学期の半ばで中間試験、定期試験期間中に期末試験を行う。

評 価 方 法：出席、授業参加も勘案して評価する。

テキスト名：Edward Firegan, *Language*, Harcourt Brace

英 語 学 概 論 D ・ G	いし い やす お 石 居 康 男	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期 ・ 後 期

英語の音韻・語形成・文構造・意味などについて、一般言語学の観点から、その仕組みや規則性を概説する。英語という言葉の研究を通して人間の言語一般の本質にせまろうとする考え方を身につけてほしい。

試 験：定期試験（2回）

テキスト名：Akmajian, A., R.A. Demers, A.K. Farmer, and R.M. Harnish (1995)
Linguistics: An Introduction to Language and Communication, Fourth Edition,
The MIT Press.

英 語 学 概 論 E	わた なべ あきら 渡 辺 明	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

一般言語学の観点から、英語の音声、文構造、意味について解説する。特に、その生物学的側面に重点が置かれる。

試 験：テストを2回行う。

テキスト名：A.Akmajian, R.A.Demers, A.K.Farmer & R.M.Harnish
Linguistics: An Introduction to Language & Communication, 4th edition, MIT Press, 1995

英 語 学 概 論 F	ロバート デ シルバ ROBERT DE SILVA	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

This course is an introduction to the linguistic structure of the English language. It focuses on English phonology, morphology, syntax, and semantics. Other topics to be covered include issues related to language use (pragmatics), a brief history of the language, and sociolinguistic aspects of English.

評 価 方 法：Evaluation will be based on three tests.

英 語 習 得 法	た な か ま き こ 田 中 真 紀 子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

第二言語習得の過程は多くの要因が複雑に絡んでいる。本講座は、社会言語学や心理言語学、第二言語習得研究の理論を基に「学習」はどのように成立するのか、また第二言語習得を可能ならしめている要因は何か理解を深めようとするものである。まず学習心理学の諸説を概観し、第二言語習得研究の基礎である母国語習得の理論、また学習活動の内容、学習者を取りまく社会的要因や情緒的要因、さらに、学習者自身の要因（年齢、適性、学習スタイル、学習ストラテジー、性格、動機の問題等）を扱う。

評 価 方 法：中間、期末の2つの試験に基づいて行う。

テキスト名：未定

英 語 音 声 学 A	せ き や や す し 関 屋 康	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

英語音声学の基礎知識を習得する事を目的とする。まず、調音音声学の観点から、英語の子音、母音を扱い、次に文強勢、リズム、イントネーション、発話における音変化を扱う。特に日本語の音声との違いに注意を払う。また、講義と併せて、実際の発音練習も行う。

評 価 方 法：中間、期末の2つの試験の成績に基づいて行う。

テキスト名：(1) 竹林 滋他『初級英語音声学』大修館
(2) Prator & Robinette, *Manual of American English Pronunciation*.
Harcourt Brace Jovanovich.

英 語 音 声 学 B	た ま き た か と し 玉 木 隆 敏	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

The main objects of how English Phonetics is taught are to give a good basic factual knowledge of the pronunciation of English in terms of phonetics and phonology, and to teach the very elements of general phonetics, phonology and instrumental phonetics. The description of English pronunciation is based on the accent of British English called *Received Pronunciation* (RP for short). The accent of American English known as *General American* is also described as another basic model.

The teaching is done in the form of lectures, and English phonetics practicals will NOT be conducted in the course.

試 験：The course is examined by written paper.

テキスト名：未定。

英 語 音 声 学 C ・ D	はら おか しょう こ 原 岡 笙 子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

まず英語の音声体系を理論的に解説する。次に音素レベルの母音・子音を一つずつ理論と演習を平行させて講義し、発音の仕組みを理解したうえで、実際に発音することによって単語レベルでの調音を習得する。更に、これらの音素が正しく発音されているかを文レベルで認識するためにマザーグースの短い詩を朗読する。この教材で英語の等間隔の強勢リズムの修得をも同時に行う。以上、発音矯正をも含めた音声学演習的な講座で English Pronunciation for communication の修得も目的とするが、受講者が多い場合は個別指導ができないため、グループによる発音指導になる。教材は理論面と実践面の 2 種類を使用する。

英 語 音 韻 論	せき や やすし 関 屋 康	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

本講座は英語の音韻構造の基礎知識を身につけることを目的とする。子音、母音、音節構造、音素配列、語強勢、文強勢、イントネーション、歴史的音韻変化、綴り字と発音の関係などを取り上げる。授業では講義だけでなく、与えられた英語のデータをもとに、一般化の規則を発見させるような練習問題を数多く行うので、受講者の積極的な参加が望まれる。

評 価 方 法：中間、期末の 2 つの試験の成績に基づいて行う。

テキスト名：C. Kreidler. *The Pronunciation of English: A Course Book in Phonology*. Blackwell, 1989.

英 語 統 語 論 入 門 A	は せ がわ のぶ こ 長谷川 信 子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

英語統語構造とその現象を生成文法の観点から分析する。このクラスの目的は次の 3 つ。まず第 1 に、英語の統語現象の記述と分析を、生成文法理論の理解とその方法論を通して学ぶ。第 2 に生成文法による言語分析に不可欠の検証法・論証法を通して論理的思考の育成を目指す。第 3 に英文のテキスト（英語自体は大して難しくないが、内容は高度）の読み込みによる英語力の向上。授業はデータの検証・分析・論証・理論構築の積み重ねで進行するので欠席は致命的。全クラス出席の覚悟のない者は受講しないこと。

評 価 方 法：定期試験（中間と期末）及び宿題の結果で評価する。

テキスト名：未定

英 語 統 語 論 入 門 B	くわ ぼら かず き 桑 原 和 生	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

生成文法の基礎を身につける。データに基づき、仮説を立てそれを検証し統語構造を設定する方法、統語分析を学ぶ。英語の具体的な構文分析を通して、英語の統語構造を把握するとともに、これまでの言語研究の中で、理論面、実証面で大きな役割を果し、多くの重要な言語事実の発見を促してきた生成文法理論の思考法を理解することに努める。

試 験：学期末試験、練習問題。

テキスト名：Haegeman, L. (1994) *Introduction to Government & Binding Theory*. Blackwell.

現 代 英 文 法 A	こ ばやし み き 小 林 美 樹	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

英語の実際の姿をできるだけ体系的に捕えていく。その上で個々の単語（動詞等）がどのように使われているのかを学び、正確な文法知識を身につけていく。

試 験：2 回又は 3 回行なう。体系的な捕え方ができているかどうか、及び個々の単語のふるまいが正確に理解できているかどうかを問う。

テキスト名：未定

現 代 英 文 法 B	ひさ いずみ つる お 久 泉 鶴 雄	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

この科目は我が国における中学・高校の学校英文法で学習した知識を精密化し、現代の英語の文法と語法をより正しく把握することを目的とする。そのために今までの知識や思い込みとのズレを重視し、英文の理解が深まり、的確な英語表現ができるように、役に立つ英文法の勉強をする。なお、この科目で扱う文法事項は、大学院の授業科目、「英語学研究Ⅳ」（現代英語語法）で更に詳細に検討される。

試 験：授業最終日に筆記試験を行う。

テキスト名：Sidney Greenbaum/Sir Randolph Quirk, *A Student's Grammar of the English Language*. Longman

現 代 英 文 法 C	はやし 林	ゆたか 裕	4 単 位
			1 ～ 4 年
			後 期

現代英語の構造をきちんと把握して、現実に使われている英語を十分に理解し、適切な英文表現を行うための道具としての文法を身につける。文型の概念の検討から入り、教科書の主な項目から私たちが見逃しやすい点を取りあげて、演習もおこなう。時間の余裕があれば、ブラウンコーパス、LOBコーパスを用いて実例にあたってみる。

評 価 方 法：授業中に行う中間試験、試験期間中に行う期末試験、および出席、授業参加、提出課題などを勘案して総合的に判定する。

テキスト名：Sidney Greenbaum/Randolph Quirk, *A Student's Grammar of the English Language*. Longman

日 英 語 対 照 研 究	わた 渡	なべ 辺	あきら 明	4 単 位
				2 ～ 4 年
				後 期

日英語の補文構造を比較考察する。平叙文、疑問文、不定詞文が埋め込み文として機能する時、どのような形をとるか、を中心課題とする。動詞の意味的クラスを視野に入れながら、普遍文法との関わりを考えた。いくつか基本的な論文も読んでもらう。

評 価 方 法：発表とターム・ペーパー

テキスト名：文献リストは初回配付する。

英 語 統 語 論 研 究	むら 村	き 木	まさ 正	たけ 武	4 単 位
					2 ～ 4 年
					前 期

英語の中から、興味あると思われる、特定の語句、構文を取り上げ、その意味を確かめ、その文法的な性格を明かにする。また、これと関連する、英語の他の語句、構文と比較検討する。対応する日本語の語句、構文を調べ、両言語に通ずる言語の基本的な構造について考える。

試 験：レポート

テキスト名：プリント、その他随時指定

英 語 構 文 研 究	わた 渡 なべ 辺 あきら 明	4 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

前半と後半に分かれる。前半は、文の中核要素を取りあげる。動詞とその項（argument）との統語的・意味的關係は文理解の上で非常に重要である。具体的な例を通して、文の構成をつかさどる基本的な原理に迫りたい。

後半は、倒置などが起こって通常の文とは中核要素間の関係を異にする構文を扱う。その特殊性とともに、前半でみた文構成の基本的原理との関わりを考えることが重要課題となる。

試 験：クイズとターム・ペーパー。

テキスト名：文献リストは初回配付するが、前半の主要テキストは、B.Levin *English Verb Classes and Alternations*, U of Chicago Press, 1993

英 語 史	こ 小 ばやし 林 み 美 き 樹	4 単 位
		2 ～ 4 年
		前 期

英語という言葉が統語的、音韻的にどのような変化をたどってきたのかを概説する。古期英語の文法は現代英語に比べかなり複雑であり、名詞・形容詞の屈折変化等、暗記事項も多く、こつこつと勉強することが必要とされる。英語音声学、英語学概論を履習していることを前提として授業を進める。

試 験：3 回行う。

テキスト名：未定

古 期 中 期 英 語	こ 小 ばやし 林 み 美 き 樹	4 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

「英語史」を履修した学生を対象とする。古期・中期英語のテキストを実際に読むことにより、「英語史」で学んだ知識を確実なものにしていく。毎回glossaryを使って予習してすることが必要。また、統語変化についての講義も行う。

試 験：3 回行う。

テキスト名：未定

社 会 言 語 学	ソニア イーグル SONIA EAGLE	4 単 位
		2 ～ 4 年
		前 期

In this course stress is placed on discovering and understanding the social or cultural component of language and language learning and the rule governed nature of language behaviour. The course presents an overview of the field of sociolinguistics, including language evolution, children's language, the Sapir-Whorf hypothesis, speech acts, pragmatics, phatic communication, kenesics, pidgins, creoles and lingua franca. Dialect studies including those related to social class, gender, age and region are reviewed. Also, considered are discourse rules, written and spoken, as well as intercultural variations. Field methods and field studies in sociolinguistics are examined. A consideration of bilingualism, multilingualism and national language planning is included.

- 評価方法：1. Midterm and final exams (at teacher's discretion)
2. Short assignments and reports.
3. Written book report on Japanese linguistics from an article or book written in Japanese.
(Report to be written in English – see detailed information on report writing in the student handbook)

テキスト名：(1) Chaika, Elaine Language: *The Social Mirror*

(2) Student Outline and Handbook printed in the copy room.

心 理 言 語 学 A	はぎ 菰 原 裕 子 はぎ わら ひろ こ 菰 原 裕 子	4 単 位
		2 ～ 4 年
		集中講義

この講義では、ことばの心理・生物学的な側面に焦点を当てる。まず、ことばを媒介にして人間の心のメカニズムを捉えようとする生成理論の基本的な目標、課題などについて復習する。次に普遍文法（UG）理論に基づいた言語獲得の過程を概観する。後半では、UGの生物学的基盤について考察する。失語症、障語症などの言語障害からの資料、さらには神経生理学的資料をもとに、何がどこまで解明されているのかをみる。ことばと脳に関する最新情報を豊富な具体例をあげながら分かりやすく解説する。

対象者としては、履修条件を満たし、かつ「英文法論」を受講済みの3～4年生が望ましい。

評価方法：各集中講義最終時間に行なう年2回の試験で評価する。

テキスト名：プリント資料を配付する。

心 理 言 語 学 B	フランシス ジョンソン FRANCIS JOHNSON	4 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

Psycholinguistics begins with a survey of different relationships between language and the mental processes. It then proceeds to examine in detail one of these relationships—second or foreign language acquisition. The detailes study of how people acquire (learn) a second or foreign language begins with an examination of the important issues of second language acquisition, and continues with a study of factors which influence the process. The course concludes with an examination of some theories of second language acquisition.

The course is conducted in English. Only those students with a good command of English should consider enrolling.

試験：Two multiple-choice tests

テキスト名：Danny D.Steinberg: *An Introduction to Psycholinguistics* Longman. 1993.

応 用 言 語 学	こ 小 いけ 池 いく 生 お 夫	4 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

言語と社会、心理、二言語使用。第2言語の習得、外国語教育、コンピュータ言語、国際語としての英語、辞書学、翻訳と通訳など、言語と関わりのあるさまざまな現象が私たちのまわりにあります。このような事実を、言語学の基礎である音韻、語彙、シンタクス、意味などと結びつけながら、広く概観してみたいと思っています。

試 験：授業中に行った内容を、一通りおぼえてきて書いてもらいます。学期の最後の授業で行います。

テキスト名：テキストはコピーを用います。詳細は学期の最初の授業で説明をします。

第二言語習得研究（英米）	せき 関 や 屋 やすし 康	4 単 位
		2 ～ 4 年
		前 期

テキストを基にこれまでの第二言語習得研究の成果を理解し、問題点、今後の課題を考えていく。トピックとしては、第一言語習得理論、第二言語習得理論、形態素の習得、音韻の習得、語彙の習得、統語の習得、対照分析、誤りの分析、学習者要因、年齢と第二言語習得の関係、クラスルーム・リサーチなどを取り上げる。

なお、1995年度開講の応用言語学（関屋）を履修した学生は同一内容なので履修不可。

評 価 方 法：中間、期末の2つの試験の成績とレポートによる。

テキスト名：(1) Lightbown & Spada. *How Languages are Learned*. Oxford Univ. Press, 1993.
(2) プリント

意 味 論	とく 徳 なが 永 み 美 さと 暁	4 単 位
		2 ～ 4 年
		前 期

言語の「意味」とは何か。人間は言語を通して何を表現しようとしているのか。日本語はどんな言語なのか、などの究極の問いについて考えながら、本コースでは、日本語の意味分析について学ぶ。クラスでは言語分析をするための知識、文献の読み方、ミニ分析の問題解きなどを通して、言語の構造、意味、語用規則について考える。

評 価 方 法：宿題、発表、レポートの総合点。

テキスト名：(1) Dillon, George (1977). *Introduction to Contemporary Linguistics Semantics*.
(2) ハンドアウト

談 話 分 析	ロバート デ シルバ ROBERT DE SILVA	4 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

Discourse Analysis is the study of language beyond the level of the sentence. It includes the study of both spoken language (such as conversations, speeches, and classroom discourse) and the study of written texts (such as the structure of various kinds of newspaper texts and essays).

評 価 方 法：Evaluation will be based on three tests.

パブリック・スピーキング A	まつもと しげる 松 本 茂	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

大学教育におけるプレゼンテーション（口頭発表）に焦点をあて、情報の提示、グラフや図表の説明、定義の説明、ブックレポート、質問や議論などを英語で行うための基礎的能力を養成する。ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどの要素も取り入れた授業を展開する。なお授業は主に英語で行う。

評 価 方 法：The grade will be based on

1. oral presentations,
2. class participation, and
3. group projects.

テキスト名：1 回目の授業で指示する。

パブリック・スピーキング B	いたばやし ひさ 板 場 良 久	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

英語パブリック・スピーキングの実践を通して、自分の考えを深めつつ論理的にまとめ、さらにそれを聴き手に説得的、効果的に伝達する能力を養成する。授業以外でのリサーチや練習時間が必要となる。また学外のスピーチ・コンテストを見学して、聴衆の立場から他者のスピーチを評論することも行う。（授業自体は平易な英語で行う。）

評 価 方 法：スピーチのプレゼンテーション、レポート等。

テキスト名：なし。必要に応じて資料（プリント）を配付する。

討 論 法 I A	まつ 松 本 しげる 茂	4 単 位
		1 ～ 2 年
		前 期

教育訓練ディベートの入門コース。日本語によるディベートの実践を通して健全なるcritical thinking（批評的思考）能力と論理的に討論するための基礎的な能力を養成する。ディベート大会への出場または見学など、学外での学習も行う。授業時間以外にも図書館でのリサーチやグループワークなどに多くの時間を割く必要がある。

評 価 方 法：ディベート、クラスでの発言、レポートなどを総合的に評価する。

テキスト名：松本 茂『頭を鍛えるディベート入門』講談社

討 論 法 I B	いた 板 場 よし 久	4 単 位
		1 ～ 2 年
		後 期

教育訓練を目的としたディベートの形式と、討論の展開の仕方を学ぶ。授業では討論の実践理論の習得のための講義と実践練習とを交互に行う。授業外での準備等に時間が取られることは言うまでもない。（授業は全て日本語。）

評 価 方 法：ディベートのデモンストレーション、レポート。

テキスト名：松本 茂『英語ディベート実践マニュアル』バベル・プレス

討 論 法 II	まつ 松 本 しげる 茂	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

教育訓練ディベートの初級コース。英語によるディベートの実践を通して論理的に議論を展開する手法を身につける。授業時間以外にも図書館でのリサーチやグループワークなどに多くの時間を割く必要がある。授業は主に英語で行う。

評 価 方 法：ディベート、クラスでの発言、レポートなどを総合的に評価する。

テキスト名：Lynn Goodnight, *Getting Started in Debate* 2nd ed., IL: National Textbook Company.

スモールグループ・コミュニケーション	いた 板	ば 場	よし 良	ひさ 久	4 単 位
					1 ～ 4 年
					前 期

グループワークが要求される状況での英語運用能力を養成する。ディスカッションの基本的な進め方、グループとしての意志決定や問題解決方法、またリーダーシップの取り方等を、スモールグループ・コミュニケーションの理論と実践を通して学習する。授業時間以外のグループミーティングに時間を割くことが必要となる。(授業は主に平易な英語で行う。)

評 価 方 法：考察レポート、グループ・プレゼンテーション、他。

テキスト名：プリントを配付する。

英語コミュニケーション法 A・B	はら 原	おか 岡	しょう 笙	こ 子	4 単 位
					2 ～ 4 年
					前 期

アメリカの大学にはOral Interpretation of Literatureというスピーチコミュニケーションの分野で、文学作品（散文、詩、劇）を音読することによって作者の意図をいかに効果的に聴衆に伝えるかを研究する学問がある。本講では、第二言語として修得した英語を音声でいかに英語らしく聞き手に伝えるかを研究し、抑揚・発音・間のとりかた・話す速さ・強勢などを意味との関連において演習することによって、英語のコミュニケーションスタイルを認識することを目的とする。Storytelling, Choral reading, Readers theaterなどの手法があるが、今期はEdger Allan PoeのTHE BLACK CATを精読し、朗読する。

- 評 価 方 法：1. Participation 10%,
2. Quizzes 10%,
3. Reports 40%,
4. Verbal performance 40%

時 事 英 語 A ・ C	おお 大	まがり 曲	しょう 正	いち 一	2 単 位
					1 ～ 4 年
					前期・後期

英和辞典だけを頼りに英字新聞やTime、Newsweekといった英文国際情報誌を自由に読みこなすことは、実際問題として極めて難しい。かなりの英語力を持ち合わせていても、報道・解説記事の背景にある幅広い予備知識がなければ、正しい理解は覚束ない。

本コースでは国際政治・経済に関する英文記事に的を絞って、これら記事の背景や事実関係を踏まえながら、時事英語習得のための基礎的訓練を行う。授業の進捗状況に応じて、指定テキストのほかにできるだけ最新の英文記事を取りあげ、読解力の向上を目指したい。

評 価 方 法：授業への参加度および試験結果で評価する。

- テキスト名：(1) NEWS WORLD '96－Getting to Know the Changing World, Wallace Gagne
マクミラン ランゲージハウス
(2) ハンドアウト。

時事英語 B ・ D	さ 阪	た 田	やす 恭	よ 代	2 単 位
					1 ～ 4 年
					前期・後期

時事英語を理解するための基礎的な能力の習得を目的とする。それは即ち時事問題に対する知識と関心を深め、批評能力を養うことでもある。授業では、主に英字新聞の報道及び論説記事を題材に、その記事の背景や事実関係を踏まえながら、その構成、要点と内容を速やかに把握し、分析することを行う。

評 価 方 法：定期試験（最低2回）、宿題、授業への参加度（出席回数等）を総合評価する。

テキスト名：Haruo Kizuka, *Quarterly Newslash* Macmillan Language House（最新号）
および配付資料。

時事英語 E	た 高	す 杉	た 忠	あ 明	2 単 位
					1 ～ 4 年
					後 期

この授業では現代の国際関係、政治・経済・社会問題のテーマを取り上げて、①英語の読解力、発表力、思考力を養う。また②個々の現象の背後にあり、その現象を生じさせた歴史的要因、政治、経済的要因に目を向けて、その因果関係を分析して問題の構造的な理解が可能になるよう解説してゆく。受講者は各自の関心に基づき、自分で特定のテーマについて英字新聞や雑誌などで関連する記事を読み、レポートを書くことになるので、単に英語を学ぶという態度ではなく、国際関係、政治・経済問題に対する十分な問題意識をもって履修して欲しい。

履修者の人数があまり多くなければ、自分が取り上げ調べたトピックに関する英語のプレゼンテーションを予定している。

評 価 方 法：中間レポート、最終レポートの提出と試験ならびにクラスでの積極的な発言を加味して評価する。

テキスト名：News World'96, *Getting to know the changing World*. Macmillan Language house

ビジネス英語入門 I A ・ B ・ C	た 田	な 中	た 武	お 雄	2 単 位
					1 ～ 4 年
					前 期

社会の国際化に伴い、日常の仕事の中で英語を使用する機会がますます多くなっている。本講座では企業で必要とされるビジネス英語の書き方を、初歩から順を追って分かり易く指導する。

ビジネス・レターの構成と形式を学んだ後、ファックスや電子メールを利用した企業内通信文や帰国後の礼状や昇進祝い状など企業間の社用社交文を学習する。また、英文履歴書の書き方、句読点の用法、辞書の選び方についても指導する。

（注意） 受講中、手書きでなくタイプして提出する課題が課せられるので、タイプライターまたはワープロが必要となる。

評 価 方 法：定期試験、宿題、授業への参加意欲（主として出席回数）を総合して評価する。

テキスト名：『ビジネス英語入門』

ビジネス英語入門Ⅱ A・B・C	たなかたけお 田中武雄	2 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

実際の国際ビジネスにおいて使用される標準的ビジネス英語の話し方を、初歩から順を追って分かり易く指導する。自己紹介、電話での伝言、会社紹介などを学んだ後、製品説明、事業報告、会議での討論などを学習する。録音テープを利用してビジネス英会話を聴き、役割演習を行う。

また、ビジネスマンが会話の中でよく使用する専門用語を小辞典を使って指導する。

評 価 方 法：定期試験、宿題、授業への参加意欲（主として出席回数）を総合して評価する。

テキスト名：(1) *Business Objectives* Vicki Hollett Oxford University Press
 (2) 『エグゼクティブの口頭表現辞典』井内 邦彦 北星堂書店

商 業 英 語 A	たけがみこうのすけ 武上幸之助	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

本講義では、将来国際ビジネス、国際取引に携わる際に必要となるビジネスに関する英語表現と実務知識の修得を目標とする。主に素材は英文レターとドキュメントを扱い、専門用語の修得、Pitman方式による定型表現演習を中心とする。尚、前半では基本表現と実務知識を、後半では応用表現を扱う。又日商主催商業英語検定試験についても言及する。

(内容例) ①商業英文の構造。②取引先との交渉。③成約と契約文書。④船積及び通関手続。⑤海上保険。⑥外国為替、手形金融。⑦決済条件。⑧国際マーケティング。⑨取引の背景となるUCC（米民商法）、SGA（英売買法）及び日本民商法の比較。⑩広告、パブリシティ。⑪情報メディアとビジネス英語。⑫電子通信英語等。

尚、「商業英語A」では、主に基礎的ビジネス通信文の解釈、用法を、国際取引の実務に合わせて解説します。

評 価 方 法：定期テスト、又は定期レポートによる評価

テキスト名：(1) 『ビジネス英文マニュアル』税務経理協会 武上著
 (2) *Strategies of International Business Administration* 学文社 武上著

参 考 書：*Business English—Reading & Writing Technics—* 専門教育出版 武上著

商 業 英 語 B	たけ 武 がみ 上 こうの すけ 幸之助	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

本講義では、将来国際ビジネス、国際取引に携わる際に必要となるビジネスに関する英語表現と実務知識の修得を目標とする。主に素材は英文レターとドキュメントを扱い、専門用語の修得、Pitman方式による定型表現演習を中心とする。また英文コントラクト、広告英語、情報英語等も解説する。尚、前半では基本表現と実務知識を、後半では応用表現を扱う。又日商主催商業英語検定試験についても言及する。

(内容例) ①商業英文の構造。②取引先との交渉。③成約と契約文書。④船積及び通関手続。⑤海上保険。⑥外国為替、手形金融。⑦決済条件。⑧国際マーケティング。⑨取引の背景となるUCC (米民商法)、SGA (英売買法) 及び日本民商法の比較。⑩広告、パブリシティ。⑪情報英語。⑫ネーミングと商標ブランド戦略。⑬テレックス英語。

尚、「商業英語B」では、主に応用的ビジネス通信文の用法、作成、日本取引法と英米法との差異を中心に、国際取引実務のプロセスに添って解説します。

評 価 方 法：定期テスト、又は定期レポートによる評価

テキスト名：(1) 『ビジネス英文マニュアル』 税務経理協会 武上著
(2) *Strategies of International Business Administration* 学文社 武上著

参 考 書：*Business English—Reading & Writing A.B class—* 専門教育出版 武上著

日 英 翻 訳 法 [時 事]	よし 吉 もと 本 しんいちろう 晋一郎	4 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

邦字紙や雑誌の報道記事と論評の英訳の基礎理論と実践演習。国際的に注目されている特に政治・経済分野の最新の出来事を中心に、最初の段階は短文を訳出して英語を書くことに慣れ、その後しだいにやや長文の英訳により実力の養成を図り、就職後に役立てるべく講義よりも演習に大半の時間を割いてゆく。訳出には政治・経済面で出来事の理解が前提なので、普段から丹念に邦字新聞の政治や経済を読む習慣が肝要。成績判定は出席を特に重視する。演習は、最初からパソコン (NEC980) で実施するので、文章が入力できる程度の操作に完熟しておくことが必要。

試 験：平常時間内に予告なしに実施。

英 日 翻 訳 法 [時 事]	よし 吉 もと 本 しんいちろう 晋一郎	4 単 位
		2 ～ 4 年
		前 期

時事問題に関する『ニューヨーク・タイムズ』紙、『フォリン・アフェアーズ』誌などの報道記事や論評の翻訳の基礎理念と特に実践演習。国の内外で注目を集めているこれら記事や論評のうち最新のものを主として扱う。最初の段階では短文の訳出などによって自ら厳しく演練するしかないことを、記者としての長年の経験で痛感しているので、全期間講義よりも演習に重点をおき、授業時間の大半を割く予定。したがって、成績判定では出席を特に重視する。演習は、最初からパソコン (NEC980) で実施するので、文章が入力できる程度に操作に完熟しておくことが必要。

試 験：平常時間内に予告なしに実施。

英 語 通 訳 法 I	そ ね かず こ 曾 根 和 子	4 単 位
		2 ～ 4 年
		前 期

実技演習を通じ、日英（英日）通訳法の基礎理論を学び異文化コミュニケーションの理解に努める。LL設備を使用し、ラジオ、テレビの英語放送、英語スピーチ及び英語を使用した会議の録音テープを教材に、政治、経済、文化、社会、スポーツ及び科学技術等の各分野における「逐次通訳法」を習得させる。

※定員は30名とする。履修希望者は1回目の授業の際にTOEIC760点、TOEFL560点のスコア、または英検1級合格証のコピーを提出すること。

評 価 方 法：用語等のテスト、通訳パフォーマンスの評価を随時行うとともに、期末テストで履習状態の総合評価を行う。

テキスト名：講師作成のスタディ・ガイド（授業の際配付）及び録音テープ等

英 語 通 訳 法 II	そ ね かず こ 曾 根 和 子	4 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

「英語通訳法Ⅰ」で習得した知識、技能を基礎に、優れた通訳者としての資質の育成を図る。LL設備を使用し、より広範囲な分野における高度な内容の教材により「逐次通訳法」の能力の向上を目指すとともに、英語、及び日本語ニュースを中心として簡単な「同時通訳法」の基礎を理解させる。また、講義全般を通じ、通訳者としての一般的な知識、教養を習得させる。

評 価 方 法：用語等のテスト、通訳パフォーマンスの評価を随時行うとともに、期末テストで履習状態の総合評価を行う。

テキスト名：講師作成のスタディ・ガイド（授業の際配付）及び録音テープ等

日 本 語 学 I A	た ま き た か と し 玉 木 隆 敏	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

このコースは、日本語音声学および音韻論に関する講義である。

言語の基礎は音声であり、この研究なしにはいかなる言語の側面をも語れない。そこで、講義では、人間の話しことばすべてに共通する音声一般の考察を出発点に、日本語のsegmental features（母音・子音）とsuprasegmentals（アクセント・イントネーション・リズムなど）を中心に話題を展開する。また、実験音声学の立場から、日本語の音声についてどのような研究が可能であるかを探る。最後のまとめとして、外国人のための日本語音声教育のヒントを論じてこのコースとする。

テキスト名：文化庁『音声と音声教育』（大蔵省印刷局）ほか。

日 本 語 学 I B	いわもと え のく 岩 本 遠 億	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

日本語の音声と音韻の体系の基礎について概説する。扱う内容は、発音の原理、音声体系における物理的・心理的単位、音声形成における心理的過程、音節の構造、語形成と音声の関係である。

試 験：学期末にテストを行う。

テキスト名：追って指定する。

日 本 語 学 II A	いわもと え のく 岩 本 遠 億	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

日本語文法の基本文型と基本事項を取り上げ、おもに生成文法の考え方の基本をおさえながら講ずる。

試 験：2 回

テキスト名：未定

日 本 語 学 II B	はせがわ のぶ こ 長谷川 信 子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

現代日本語の統語現象を、人間の「ことば」の現象という観点から考察する。日本語話者として学生 1 人 1 人が自分の言語直感に基づく言語事実・現象を生成文法の見方を通して客観的に分析・検証・体系化する方法論を学ぶ。日本語の文法を習うのではなく作るという作業に参加しつつ、言語学的思考（ひいては科学的論証・検証）に不可欠な論理的思考の育成をも目指す。授業はデータの検証・分析・論証・理論構築の積み重ねで進行するので欠席は致命的。全クラス出席の覚悟のない者は受講しないこと。

評 価 方 法：定期試験（中間と期末）及び宿題の結果で評価する。

テキスト名：プリント使用

日 本 語 教 授 法 I A	す 須 が 賀 あき お 夫	4 単 位
		2 ～ 3 年
		前 期

日本語教育のいわゆる初級レベルで扱われる文法項目を取り上げ、整理していく。併せて、それぞれの文法項目をどのように実際の教室活動の中で提示し、処理していくかについても触れていく。

評 価 方 法：定期試験（期末試験）及び平常点（課題・授業参加等）で評価する。

テキスト名：なし

参 考 書：田中 望『日本語教育の方法』大修館書店

日 本 語 教 授 法 I B	なん ば こう じ 難 波 康 治	4 単 位
		2 ～ 3 年
		前 期

本講義は、日本語の教育を志望する学生を対象に、外国語としての日本語教育の基本的な知識を与えるとともにその方法論を身につけさせることを目的とする。

日本国内外の日本語教育を囲む状況は、昨今急激に変化しつつある。日本経済の状況変化にともない私費留学生・就学生数は減少傾向にあり、日本語教育従事者の雇用が以前に比して困難になっている。一方で、外国人居住者の増加によって地域レベルでの日本語教育の充実が叫ばれている。このような状況のなかで「第二言語としての日本語」をどのように保証していくかを考えるためには、単に日本語教授の知識だけでなく、より広い見地からの考察が必要となってきた。

「日本語教授法Ⅰ」では日本語教育に関わるさまざまな問題について言及し、「第2言語としての日本語」教育の概観を解説するとともに、国内外の日本語教育の実態についても紹介する。同時に外国語としての日本語そのものについても考察する。

評 価 方 法：テスト 1回 50% レポート 50%

テキスト名：田中 望『日本語教育の方法』

日 本 語 教 授 法 II A	す 須 が 賀 あき お 夫	4 単 位
		3 ～ 4 年
		後 期

外国語教育としての日本語教育の方法を考える基礎として、外国語教育の歴史を概観し、様々な外国語教授法の理論や教室活動に触れていく。

また、「日本語教授法Ⅰ」を踏まえた上で、実際の日本語教育のクラスを想定した教室活動について考える。

評 価 方 法：定期試験（期末試験）及び平常点（課題・授業参加等）で評価する。

参 考 書：富田 隆行『文法の基礎知識とその教え方』凡人社
富田 隆行『基礎表現50とその教え方』凡人社

日 本 語 教 授 法 II B	なん ぽ こう じ 難 波 康 治	4 単 位
		3 ～ 4 年
		後 期

「日本語教授法Ⅰ」で検討した知識を踏まえて、実際の「日本語の教室」における活動の在り方を、セミナー形式で検討していく。授業では教材の分析を通して導入、練習などの在り方を検討しつつ、VTR等の資料を用いて実際の授業の分析を行う。最終的には初級の学習者を想定した授業活動をグループ単位で検討し、授業案を作成する。クラスでの討議のために毎週指定された資料をもとに課題を行うことが要求される。

評価方法：授業でのプレゼンテーション 50% レポート 50%

テキスト名：特に指定しないが、前もって授業で指定した資料を読んでもらうこと。

日 本 語 教 育 実 習	す げ あ き お 須 賀 章 夫	1 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

実際の日本語学習者を集めて実習授業を行う予定。実習は後期に入ってから行うが、前期からその準備にとりかかる。プレゼンテーション（模擬実習を含む）、教案作成、授業分析等の課題を逐行していくことにより、実際の教壇実習に備える。日本語に関する基礎的な知識、教育に関する基礎的な知識は既に習得済みという前提に立って実践的な技能の養成に焦点を当てるため、受講者は知識の部分についての整理を充分に行っておくことが必要。

評価方法：授業参加、実習（模擬／準備作業も含む）、最終レポートを総合的に判断する。

テキスト名：特になし

人 類 学 入 門	ソニア イーグル SONIA EAGLE	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

The introductory course in anthropology will begin with a short overview of the field including a short summary of physical anthropology, human evolution, prehistory, race and archaeology. Most of the course will consider the field of cultural anthropology including subsistence, technology, social organisation, political organisation, kinship, religion, world view, and other aspects of cultures and societies. Examples will be drawn from ethnographic field studies of people around the world. Films will be used to illustrate the theories and cultures.

評価方法：The grade will be based on

1. In class assignments and participation
2. Midterm exam
3. Classroom presentations and posters
4. Final exam or report

テキスト名：To be announced later.

日 英 米 比 較 文 化 論 A	くろ いわ 裕 黒 岩 裕	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

国民性・経済・社会階層・教育の分野から、日本的またはアメリカ的なものと考えられている事柄を取り上げて分析します。日本とアメリカの類似点及び相違点をできるだけ正確に理解することを目的に講義をすすめます。

評 価 方 法：学期末試験及びレポート。

日 英 米 比 較 文 化 論 B	ち だ つよし 千 田 剛	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

戦後50年間にわたり発展してきた「日本論」「日本人論」の古典的な基本書ともいうべきルース・ベネディクト著『菊と刀』各章の批判的検討を通して、日米英間の文化的・制度的な面における比較を行ない、到来する地球時代地球時代にむけての日本のあり方を考えてみたい。換言すれば、この講義は、多角的な視点からする『菊と刀』の読解の試み、ということができる。

評 価 方 法：レポートの結果で評価する。

テキスト名：ルース・ベネディクト著『菊と刀』（邦訳）社会思想社刊（現代教養文庫）

英 米 事 情 A	もり た まさ み 森 田 正 實	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

英国の歴史的、社会的、文化的側面を考察し、その全体像を明らかにすると共に、英国の国民性と、その精神的・思想的伝統が形成されて来た由来を探究し、英国の文化と教養の本質に迫りたい。

評 価 方 法：主として期末試験と課題レポートによって、評価を行なう。

テキスト名：Britain Explored 英潮社

英 米 事 情 B	くろ いわ ゆたか 黒 岩 裕	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

アメリカ合衆国はしばしば多民族社会と呼ばれますが、その歴史や現状は案外日本人には知られていません。この講座では、テキスト、英文の論文、ビデオ、映画などを利用しながら、多民族社会としてのアメリカの経験を以下のテーマにそって概観します。

1. アメリカ社会における、エスニシティと教育、使用言語、職業、居住地域、スポーツ等の関係。
2. 植民地時代から現代までの移民の歴史。
3. 日系アメリカ人、アメリカ・インディアンにとってのアメリカ史。

評 価 方 法：学期末試験及びレポート。

英 米 事 情 C	かわ しま こう へい 川 島 浩 平	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

現代アメリカ社会における諸問題を社会階級、エスニシティ、ジェンダーの三観点から分析する。扱うテーマは、最新のニュース（例えば、IQ論争、O.J.シンプソン裁判、軍隊における男女対立等）との関わりを導入としながら発展させていきたい。具体的には、貧富差の拡大と中産階級の衰退、貧困、犯罪と銃規制、人種差別と移民制限、男女差の起源論と男女差別問題といった、社会階級、エスニシティ、ジェンダー間の摩擦や衝突が生みだしている諸現象・問題である。これらから多文化主義についての視点を育てると同時に、最近の合衆国での保守主義台頭の背後にある動向について考えを深めたい。

評 価 方 法：学期末試験と出席による。出席を重視する。

テキスト名：テキストは特に指定しないが、適宜参考文献を紹介する。

英 米 事 情 D	レ ジ ナ ル ド カ ー ニ ー REGINALD KEARNEY	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

This course will introduce basic methods for writing a research paper. Students will be taught the methods necessary for writing narrative and analytical essays, term papers, and theses. Students may choose to write topics of their own interests.

評 価 方 法：The course grade will be based on written and oral assignments, a midterm and final examination.

テキスト名：Magazine, newspaper articles

英 米 事 情 E	たか 高	すぎ 杉	ただ 忠	あき 明	4 単 位
					1 ～ 4 年
					前 期

この授業では、アメリカ社会に関する総合的な理解を深めるため、地域研究的アプローチと日米の比較の視座を取り入れながら、以下のトピックについて講義を行なう。移民の歴史、地理、人種問題、宗教、アメリカ的生活様式、家庭、教育、政治・経済制度、外交政策。扱うテーマが多岐にわたるため必然的に必要最小限の基礎的な考え方にしぼって講義を進めてゆくが、受講者は授業で紹介した参考文献を読み、自分で足りないところを補いながら、それぞれのテーマについて問題意識を深めていって欲しい。履修者は各自が関心を持ったテーマの中から一つを選択して6月中旬までに「中間レポート」を書き提出する。その後、7月の第一週までに同じテーマでより内容を洗練させた「最終レポート」を提出することが必要である。

評 価 方 法：1. 授業で扱ったテーマについて学期末に行なう試験と、2. 最終レポートの内容によって決めることにする。詳細は授業の際に説明します。

テキスト名：授業で適宜紹介する。

英 米 事 情 F	ロバート ROBERT	デ DE	シルバ SILVA	4 単 位
				1 ～ 4 年
				後 期

This course will give the students an overview of the United States. While taking a geographic/regional approach, it will include topics on history, society, politics, the arts, literature, and education.

評 価 方 法：Evaluation will be based on three tests.

英 米 事 情 G	とみ 富	さき 崎	たかし 隆	4 単 位
				1 ～ 4 年
				前 期

現代英国政治のあり方を、王室や議会のあり方、変貌する二大政党制、有権者の投票行動などの分析を通じて明らかにしていく。日本やアメリカ・ヨーロッパ政治との比較も行っていきたい。

試 験：期末試験とレポート。

テキスト名：特に指定しないが、講義中に参考文献を提示する。

米 国 社 会 論	かわ しま こう へい 川 島 浩 平	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

英米事情で解説できなかった分野を中心に、現代アメリカの諸問題を考察する。ビデオ教材や専門書、ジャーナリズムによる報道資料をもとにして、今日の合衆国における文化現象や社会的争点、政治論争などをできる限り広範に紹介することが目的である。取り扱うテーマは家族、宗教、教育、公衆衛生と健康管理、環境問題、マスメディア等である。英米事情で学んだ性・エスニシティ・社会階級という分析枠組み／概念との関連を考慮に入れながらこれらの諸問題の理解を深めたい。

評 価 方 法：学期末試験と出席による。出席を重視する。

テキスト名：テキストは特に指定しないが、適宜参考文献を紹介する。

オセアニア英語文化圏事情	フランシス ジョーンソン FRANCIS JOHNSON	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

The purpose of this course is to introduce students to some of the major features of English speaking Oceania; its history, geography, government, peoples and culture. Particular focus will be on Australia and New Zealand with occasional surveys of other Oceanic as warranted. The course will follow a general lecture format. Students will be expected to take notes during the lecture and to have done the assigned reading before coming to class. Each lecture will be organized around a central topic; that is, each lecture will be independent of the others but build upon a common theme that explores Oceania. A detailed course syllabus and schedule will be distributed to the first day of class.

Reading: There will be no assigned textbook for this course but readings, however, will be drawn from various academic and popular sources and be made available to students for photocopying.

試 験：Two multiple-choice tests.

英 国 史	とみ さき たかし 富 崎 隆	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

今日の英国政治の成り立ちと戦後政治の展開の歴史を検討していく。議会主権とも呼ばれる今日の英国議会政治がどのように成立してきたのか。さらに、第2次大戦後におけるコンセンサス・ポリティクスと呼ばれる保守・労働党による二大政党中心の政治がどのように展開していったか、サッチャリズムが英国をどのように「変えたか」についても歴史を追いながら検討していく。

評 価 方 法：期末試験とレポート。

テキスト名：特に指定しないが、講義中に参考文献を提示する。

米 国 史 A	かわしまこうへい 川島浩平	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

アメリカ合衆国の植民地時代から現代までの歴史を概観する。独立戦争、南北戦争、二つの世界大戦と冷戦体制の成立と崩壊等、政治的変動の原因と展開、それらの歴史的意義を学ぶ。地方、経済史、社会史、都市史、女性史等の「新しい」歴史学の業績にもとづいて庶民の生活や価値にみられた変化についても考慮する。この授業では、可能な限りアメリカ人の視点からアメリカ史をみるようこころがけたい。そのためにアメリカ人研究者の歴史研究にもとづいて歴史の認識と理解を深めるよう努力する。初回の授業では、スミソニアン博物館でのエノラ・ゲイ展示をめぐる論争を分析し、日米間の見解の相違がなぜ生じたのかを検証する。これを導入とし、その後の授業で現代アメリカが形成されるプロセスを歴史的に解明する。

評 価 方 法：学期末試験と出席による。出席を重視する。

テキスト名：テキストは特に指定しないが、適宜参考文献を紹介する。

米 国 史 B	レ ジ ナ ル ド カ ー ニ ー REGINALD KEARNEY	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

This course will be a survey of the history of the United States from the period preceding the Civil War down to the era of Kennedy and Johnson. This course will introduce some of the major themes and concerns of American historians for the period of the course and provide a basis for making critical assessments of the enduring social and political problems that face the Americans people.

評 価 方 法：Student performance will be evaluated on the basis of class discussions and quizzes (30%), a mid-term (25%), and final examination (45%)

テキスト名：Lrwin Unger, *American Issues* vol.2

米 国 政 治 経 済 論	たかすぎただあき 高杉忠明	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

本年11月アメリカでは大統領選挙が行われる。小さな政府をめざす共和党保守派の勢力が増大するアメリカでクリントン大統領の再選はありうるのかどうかが注目される。この講義では共通のテーマをアメリカ大統領選挙におき、第一にアメリカの選挙制度、政治、民主主義、経済政策、社会問題などの制度的な基礎概念について検討を加える。第二にアメリカ政治史上「決定的選挙」といわれるいくつかの選挙とその争点を取り上げ検討し、有権者の期待に政治が応えられたのか否かを諸々の資料をとおして分析する。第三にアメリカ大統領選挙の歴史の中に96年選挙を位置づけその動向を分析してみたい。

講義と並行して受講者はトピック別にいくつかのグループに分かれて共同研究をすすめ、レポートを作製することになるので、出席を重視する。5回以上欠席した者あるいは、共同研究において自分の担当部分のレポートを提出できなかった者は単位取得は難しいと思って下さい。

評 価 方 法：中間レポート、最終レポートなどで評価する。

日 米 関 係 論	たか 高	すぎ 杉	ただ 忠	あき 明	4 単 位
					1 ～ 4 年
					前 期

140余年にわたる日米関係の歴史は友好と対立の歴史に彩られている。ペリー提督による日本の開国以降日露戦争までが友好の関係であったのに対し日露戦争以降第二次大戦までは友好から対立の関係へと変化した。大戦後米ソ冷戦の深まりゆく情勢下アメリカの単独占領下におかれた日本とアメリカの関係は「主従の関係」にあったが、以来日米の相互依存の深まりに伴い、日米関係は協調と摩擦のはざまの中でより対等なパートナーの関係へと発展してきた。この講義ではこれを踏まえ、第一に日米関係140年の歴史の全体像を概説し、第二に戦後の日本の「対米協調」「対米自主」「対米独立」という概念を用いて両国関係をいくつかの時期にわけその特徴を分析し、第三にポスト冷戦期の日米関係と日本の役割について検討を加える。

評 価 方 法：中間レポート提出と最終レポートおよび筆記試験で評価する。

ア メ リ カ 外 交 論	たか 高	すぎ 杉	ただ 忠	あき 明	4 単 位
					1 ～ 4 年
					後 期

1989年12月にブッシュ、ゴルバチョフ両大統領が参加して開かれたマルタ会談以降、東西冷戦は終結への確かな歩みをしるし始めた。しかし一方で、東欧諸国における社会主義体制の崩壊、ポスト冷戦の潮流のアジアへの波及、湾岸戦争、そして社会主義陣営の盟主・ソ連の崩壊など予想しがたい速さで国際関係は変化している。世界各国が冷戦の後始末と新たな国際秩序を模索する過程の中で、「冷戦の勝者」アメリカの経済力も衰退して、その政治的リーダーシップはかつてのような力強さは期待できず、世界情勢の将来は混沌として定かではない。ポスト冷戦期のアメリカ外交のゆくえを考えるにあたり、過去から現在に至るアメリカ外交の歴史的連続性・非連続性を探ってみることは重要な作業となろう。したがって、この講義では、第一にアメリカ外交の歴史的伝統およびアメリカ外交の規制する国内的要因等を確認し、第二に第二次大戦後の国際関係史を三つの時期に分け、それぞれの時期のアメリカのソ連政策、ヨーロッパ政策、アジア政策（対日、対中政策）、そしてラテン・アメリカ政策について論じる。また第三に、国際関係論という学問を進めて行く上で必要な概念についても適宜、講義の中で解説して行きたい。

評 価 方 法：1. 学年末の最後の授業で行う試験と、2. レポートの内容で判断する。詳細は授業の際に説明する。

テキスト名：(1) 『アメリカの時代』 芦書房 1992年
 (2) 『激動期の国際政治を読み解く本』 学陽書房 1992年
 (3) 『冷戦期の国際政治』 慶応通信 1987年
 その他、授業の際に紹介する。

米 国 特 殊 研 究	ハ リ ソ ン ホ ー ラ ン ド HARRISON HOLLAND	4 単 位
		3 ～ 4 年
		前 期

American Foreign Policy and the U. S. /Japan Relationship

1. Role of government agencies and the Congress
in diplomacy policymaking
2. Current U. S. foreign policy problems
General considerations
a. China
b. N. Korea
c. Bosnia
d. Cuba
e. The Middle East – Iraq and Iran
f. Haiti
g. China/Taiwan
3. The U. S./Japan Relationship
A. Trade Disputes
a. Auto and auto parts
b. Airlines.
c. Kodak
d. Finance
e. History, Analysis and the Future
B. The Yen/dollar dilemma
C. U. S./Japan Relations general. Excerpts
from the HH/JKE book

評 価 方 法 : The grade for the course will be determined based on the following three elements:

1. Class Participation: 50%
2. Mid-term and Final Exams: 50%

日 米 経 営 論	ふ く だ も り と し 福 田 守 利	4 単 位
		3 ～ 4 年
		前 期

この授業では日本の企業とアメリカの企業の経営に関する基本的考え方、制度的、実態的な側面を比較考察する。企業形態、生産管理、財務管理、労務管理、マーケティング、経営戦略および環境・組織・人間をめぐる経営理念、意思決定、マネージメント・リーダーシップ、管理責任などのテーマを取り上げ、日本企業間での相異について実証的な例をとり入れながら考察する予定である。

評 価 方 法 : 最初の授業で詳細を説明する。

英 国 事 情 実 地 研 究		4 単 位
		1 ～ 4 年
		海外研修

イギリスの一般家庭に滞在しながら、エセックス大学またはニューキャッスル大学でイギリスの文化、社会、経済、政治、教育等について総合的に学ぶ。授業は講義、ディスカッション、発表の形式を取り、一人一人の積極的な参加を前提とする。また日帰り旅行、市内見学、エセックス大学またはニューキャッスル大学の学生との交流等を通してイギリスを実体験する。

尚、この研修は春季休業中（エセックス大学）と夏季休業中（ニューキャッスル大学）に実施される。

評 価 方 法 : 試験、レポート、発表、授業参加等の総合的評価に基づく。

米 国 事 情 実 地 研 究		4 単 位
		1 ～ 4 年
		海外研修

夏休みにアメリカの大学を拠点に米国の歴史、文化、社会、政治、経済について現地で研修活動を行う。実地研修として午後にキャンパス外の活動を行ったり、土曜日にはバスによるday tourも行う。アメリカの大学としてはカリフォルニア大学サンタクルズ校（美しい静かで安全な町として有名）を考えている。

評 価 方 法：試験、レポート、発表、授業参加等の総合的な評価に基づく。

オセアニア文化実地研究		4 単 位
		1 ～ 4 年
		海外研修

オーストラリアの一般家庭に滞在し、生きた英語に触れながら、シドニー市にあるマツコーリー大学付属の国立英語教育研究所にてオセアニア（特にオーストラリア）の文化、社会、政治、経済、教育、言語事情等について学習する。講義の他にディスカッション、リーディング、発表等を通し、オセアニア文化圏諸事情について理解を深める。実地研修としてシドニー市、キャンベラ市、ゴールドコーストの観光旅行が予定されている。尚、この研修は夏季休業中に実施される。

評 価 方 法：試験、レポート、発表、授業参加等の総合的な評価に基づく。

応 用 研 究〔国際ビジネス〕	ふく だ もり とし 福 田 守 利	4 単 位
		4 年
		後 期

この授業は国際ビジネス副専攻コースの学生が今までに関心をもち深めた国際ビジネスに関するテーマをゼミ形式の授業を通じてより一層探究し、本コースの仕上げをめざす講座である。授業では担当者と相談し了解をとった上で自分のテーマについて数回プレゼンテーションを行ない、最終的に実証的なペーパーを書くことが要求されるであろう。履修者は十分な問題意識と意欲をもって参加して欲しい。

具体的な授業の進め方は、最初の授業の時に説明する。

評 価 方 法：最初の授業で詳細を説明する。

応 用 研 究〔国 際 関 係〕	たか 高	すぎ 杉	ただ 忠	あき 明	4 単 位
					4 年
					後 期

冷戦の終結に伴い共産主義の脅威が著しく減少する一方で、世界各地では民族、宗教、領土をめぐる地域紛争頻発の脅威が増大している。また紛争地域周辺では軍縮拡散、大量難民の発生、殺りくなど国境を越えて国際平和への脅威が拡大している。日本の経済大国化に伴いODA（政府開発援助）を通じて国際的平和と安定に対する日本の果す役割も増大している。この応用研究では、主としてアジア・太平洋地域の地域・民族紛争の解決と国連PKO（平和維持活動）や日米安保体制の役割、そしてそこに向ける日本とアメリカの協力関係に焦点を合わせ、その有効性と限界性を受講者とともに考えてゆく。国連の安全保障機能はアメリカをはじめとする大国の地域紛争に対する態度に大きく依存するので、五大常任理事国の国連政策や紛争当事国の態度にも注意を傾けてゆく。さらに湾岸戦争の際のアメリカによる対日国際貢献圧力やカンボジアに始まる一連の日本のPKO参加は、憲法解釈や日本の国際貢献のあり方について賛否両論を巻き起こしたが、この問題についても考察を加える。

評 価 方 法： レポートならびにクラスでのプレゼンテーションとディベートなどを基準に評価する。筆記試験はおこなわないが出席を重視する。またゼミ合宿を予定しているのでできる限り参加してもらいたい。かなりの量の英文、和文の文献・資料を読むことになるので明確な問題意識をもって受講してほしい。

応 用 研 究〔比 較 文 化〕	まつ 松	い 井	けい 佳	こ 子	4 単 位
					4 年
					後 期

A fundamental approach to Comparative Culture is philosophy, which is explored imaginatively in Jostein Gaarder's *Sophie's World*. In this highly innovative and internationally acclaimed Norwegian novel a mysterious philosopher awakens a girl's curiosity about who she is, the meaning of life, and ideas of major thinkers. Each student is required to explicate and interpret orally one section of the novel and to write a term paper of at least ten pages. The English translation of the novel will be assigned to all students, but the Japanese translation will also be referred to from time to time. Students will be encouraged to discuss philosophical issues in English.

評 価 方 法：学期末に、10頁位の論文を提出すること。

テキスト名： *Sophie's World* by Jostein Gaarder (A Phoenix Paperback)

応用研究〔コミュニケーション・メディア〕	まつ 松	もと 本	しげる 茂	4 単 位
				4 年
				後 期

前半は、対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション、比較文化などに関する研究論文を読み分析する。

後半は、コミュニケーションの諸問題、コミュニケーション能力向上のための教育・訓練方法などについて各自研究テーマを設定し、研究発表を行う。最終的には、研究レポート（15～30枚）をまとめる。

評 価 方 法：The grade will be based on (1) term paper, (2) book reports, (3) class participation, and (4) written assignments.

テキスト名：William B. Gudykunst (ed.) *Communication in Japan and The United States*, NY: State University of New York Press, 1993.

英 文 学 史	もり 森 た 田 まさ 正 み 實	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

16世紀ルネッサンス期から18世紀までは、テキストを講読し、各時代の文学史的背景と代表的詩人・作家・作品群について概論的解説を加える。19世紀から20世紀に至る英文学史については重点的に講義を行なう。講読と講義の併用方式によって英文学思潮の流れを把握させ、英文学研究の端緒としたい。

評 価 方 法：主として期末試験と課題レポートによって、評価を行なう。

テキスト名：A Short History of English Literature 金星堂

米 文 学 史	まつ 松 い 井 けい 佳 こ 子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

最近、文学研究には批評的研究が不可欠だという暗黙の了解があり、文学理論の知識が要求されるようになってきている。アメリカ文学史を時代思潮と関連させながら概観する一方で、文学理論の代表的なアプローチを紹介する。

評 価 方 法：中間試験と期末試験

テキスト名：(1) An Outline of American Literature (教養米文学通史) by Peter Wagner
注訳：渋谷 雄三郎 マクミランランゲージハウス
(2) Terry Eagleton, Literary theory: An In Troduction Oxford: Basil Blackwell, 1986

イ ギ リ ス 文 学 講 義	もり 森 た 田 まさ 正 み 實	4 単 位
		1 ～ 4 年
		前 期

18世紀後半から19世紀に至るロマン主義文学の歴史的背景及びその精神と思想と理論について解説し、同時代の代表的詩人群にも焦点を当てる。特にワーズワース、コウルリッジ、バイロン、シェリー、キーツの詩想について講義する。併せて、各詩人の英詩を鑑賞すると共に、ロマン主義文学思想の英文学史上における位置と、その現代的意義と価値について考える。

評 価 方 法：主として期末試験と課題レポートによって、評価を行なう。

テキスト名：Palgrave's Golden Treasury 南雲堂

ア メ リ カ 文 学 講 義	まつ 松 井 佳 子	4 単 位
		1 ～ 4 年
		後 期

近來、文学研究は文化研究の方角へ急激に傾斜し、読みのパラダイム・シフトが起こりつつある。従来の文学キャンオンが崩壊し、文学の特権的位置付けを拒む。この再構築の契機を支えるフェミニズム、多元文化主義、新歴史主義の視点を探りながら、黒人女性作家二人の代表作品を読み進める。黒人女性作家の文学的伝統は、アメリカの白人男性優先主義社会における性的、人種的抑圧体験に由来する所が大きい。そのメカニズムを探りたい。

試 験：中間試験と期末試験。

テキスト名：(1) Alice Walker, *The Color Purple* 1982 (Pocket Books)
(2) Toni Morrison *Beloved* 1987 (Plume Book)

英 米 文 学 研 究	まつ 松 井 佳 子	4 単 位
		2 ～ 4 年
		前 期

いろいろなジャンルの（英）米文学作品の文芸批評文を英語で書くには、どのような手続きを踏むべきかを具体例を挙げながら学習する。辞書を丁寧に引き教科書を細かく読解する地道な作業が要求される。

評 価 方 法：未定

テキスト名：(1) *Writing Themes About Literature: Seventh Edition* by Edgar V. Roberts Prentice-Hall, 1991
(2) 現代アメリカ女流作家短編集：Any Woman's Blues Ed. by Mary Helen Washington 学書房
(3) 他のテキストは教室で指示する。

3) 中国語学科専門教育科目

中国語総合講座Ⅰ	かわ 川 こう 興	しま 島 ろぎ 栢	いく 郁 いち 一	お 夫 ろう 郎	6 単 位
					1 年
					通 年

※1年生で平成6年度以前に入学した学生は、「中国語総合Ⅰ」を履修して、「中国語総合講座Ⅰ」を履修したものとみなす。

最初に発音の基礎練習を徹底して行い、その上でテキストに基づいて文法・会話・語彙の基礎力を身につける。また、自主的な学習習慣を培うために、授業中も辞書を頻繁に引き、書き取り、聞き取りの訓練を繰り返す。

出席者は毎回必ず予習することが義務づけられる。

テキスト名：①『最新中国語教本（上）』中国書店

②『最新中国語教本（下）』中国書店

中国語作文Ⅰ	かわ 川 こう 興	しま 島 ろぎ 栢	いく 郁 いち 一	お 夫 ろう 郎	2 単 位
					1 年
					通 年

「中国語総合講座Ⅰ」と並行して中国語の基礎力の修練に当たるが、作文では主として中国語の構文の習得と語彙力の強化に重点が置かれる。

テキスト名：①『標準中国語作文』書籍文物流通会

②『標準中国語作文（続）』書籍文物流通会

中国語会話Ⅰ	リン 林	ファン 芳	4 単 位
			1 年
			通 年

「言葉は生きています。生きた言葉の生きた勉強を！」

これをモットーに「見る・聞く・話す・書く」技能の有機的な訓練に力をいれます。

前期は、発音の基本・発音記号の書き方・抑揚の基本など、まずは中国語になじむ事に重点をおきます。

後期は、簡単な日常会話を、目で見て・耳で聞いて分かるだけでなく、音声的にも相手に通じる正しい抑揚で表現することに、重点をおきます。

試 験：平常ひんぱんにテストを行うので、特に定期試験には入れない。

テキスト名：『中・日・英対照 実用中国語会話』（新装版）白水社

中国語総合講座Ⅱ	こ 児 みつ 三	だ ま 玉 ま 三 瀧	けい 啓 まさ 正	こ 子 みち 道	6 単 位
					2 年
					通 年

※ 2 年生で平成 6 年度以前に入学した学生は、「中国語総合Ⅱ」を履修して、「中国語総合講座Ⅱ」を履修したものとみなす。

本講義では、昨年 1 年間の学習の成果を踏まえて、より高度な中国語に挑戦できるように、「聞く、話す、読む、書く」の基礎力の総仕上げをすることを目標にしています。週 1 回は三瀧が、週 2 回は児玉が担当します。

三瀧は、主に時事中国語に重点を置いて授業を行います。児玉は、1 年次に使用したテキストの姉妹編『最新中国語教本（下巻）』を中心に講義を行います。従って、上巻のテキストについては、すべてマスターしていることを前提として授業を進めます。後半からは、中国語の文型のパターンを整理します。

また、現代の中国事情を知ると共に、ディクテーションのレベルアップを図るため、中国語ニュースのビデオ教材を毎回使用します。ナチュラルスピードで話される中国語を聞き取るには、「ピンイン」の読み書きと、中国語の文型に習熟していること、それにある程度の語彙力が必要です。

後期は前期に引きき、中国語の文型のパターンを整理する為の学習を実施します。また後期からは、長文読解のためのトレーニングが加わります。長文読解については、プリントを使用し、内容は講義時に指示します。

前期・後期ともに、自己の学習の到達度について認識し、長所を延ばし不得手な部分をクリアーして、皆さん自身の初期の目的がかなえられるように、毎回小テストを実施します。チャレンジ精神を持って頑張りましょう。

評 価 方 法：講義時の学習に対する取り組み方（予習・復習を含む）、課題（課文朗読のテープ提出、レポート等）、小テスト、前期・後期の試験等によって総合的に評価する。

- テキスト名：①『最新中国語教本（下巻）』中華書店
 ②『トレーニング中国語』白水社
 ③『現代中国 放大鏡—時事中国語—』朝日出版社
 ④プリント

中国語作文Ⅱ	ジョン 鍾	ジン 敬	ホア 華	2 単 位
				2 年
				通 年

以讲解汉语语法为重点，强调理论联系实际，注重分析常用病句，使学生在掌握语法理论的基础上搞好作文实际。

試 験：前期和后期分别举行期末考试。

- テキスト名：①『標準中国語』書籍文物流通会
 ②『標準中国語（続編）』書籍文物流通会

中国語会話Ⅱ	ジョン 鍾 ドウアン 段	ジン 敬	ホア 華 ウェイ 威	4 単 位
				2 年
				通 年

※ 2 年生で平成 6 年度以前に入学した学生は、「中国語会話Ⅱ」（2 単位）、「LL 中国語」（2 単位）を履修して、「中国語会話Ⅱ」（4 単位）を履修したものとみなす。

＜中国語会話Ⅱ＞

本科目以能流畅地说，中国語为教学目标。在理解课文内容，增加词汇量的同时，继续加强发音、声调和语调方面的练习。鍾老師的課側重于基礎語法的講解，段老師的課側重于口語的訓練。

試 験：前期和后期分別舉行期末考試。

テキスト名：『中国語会話中級』香坂 順一改編 光生館

＜LL 中国語＞

本科目是以能流畅地说出中国語为教学目标。在理解课文内容、增加词汇量的同时，继续加强发音、声调和语调方面的练习。鍾老師的課側重于基礎語法的講解，段老師的課側重于口語的訓練。

試 験：前期和后期分別舉行期末考試等。

テキスト名：『中国語会話中級』香坂 順一改編 光生館

中国語総合講座Ⅲ	つか 塚 もと 本 けい 慶 いち 一	2 単 位
		3 年
		通 年

総合講座Ⅰ、Ⅱの二年間で培ったことばの基本的な四本柱である『聞く・話す・読む・書く』についての能力を下記のテキスト等を通じて学び、さらにレベルアップし、実際に必要な総合的語学力を身につけること。ならびに、中国語をより深く理解するための中国語観を確立していくことを目標とする。

評 価 方 法：成績の評価は、出席率・平常点及び前期・後期の試験等を総合的判定する。

- テキスト名：①『トレーニング中国語』白水社
 ②『新聞中国語』東方書店
 ③『中国語の世界』東方書店

中国語作文Ⅲ	ジァ 賈 フォン 鳳 チー 池	2 単 位
		3 年
		通 年

初歩中国語を終えた人を主な対象として、和文を中文に訳するという面から中級程度の実力を育成するのに役立てることを目標として、授業を行う。

評 価 方 法：各期末試験によって評価する。

テキスト名：『中国語作文』賈 鳳池他一名 金星堂

中国語総合講座Ⅳ	リン 林 かわ 川	むら 村	よし 嘉	ファン 芳 お 夫	2 単 位
					4 年
					通 年

林 芳

論評や現代の文学作品、報道記事など多様な文型に接し、文法をしっかりと踏まえて、中国語の正確な読解力を高めつつ、中国の社会・文化・人・思想などにも理解を深めていく。同時に、卒業後すぐ実際の役に立つよう、中国語会話にも一定の時間を当てる。

評価方法：授業での発表と、期末テストによって評価する。

テキスト名：① プリント

② 『ビジネス中国語会話』林 芳著 ジャパンタイムズ社

川村嘉夫

中国の政治、経済、社会、国際関係に関する文章を教材として使い、中国語の読解力を高めるとともに、現代中国についての理解を深めてゆきたい。

評価方法：授業での発表と前・後期末の試験によって評価する。

テキスト名：志村 規矩夫・中野 謙二『現代を読む時事中国語』国際語学社、ほかに中国の新聞、雑誌。

中国語作文Ⅳ	つか 塚 ジョン 鍾	もと 本	けい 慶 ジン 敬	いち 一 ホア 華	2 単 位
					4 年
					通 年

作文Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの三年間で学んだ基本文型と現場でよく使われている常用文例を、作文の練習（教室での発表と具体的な添削）を通じて学び、総合的かつ実用的な作文力を養成することを目標とする。

評価方法：成績の評価は、前期後期の試験・レポート及びいままでの学習態度・成果を総合的判断し、加味して判定する。

テキスト名：①『標準中国語作文』書籍文物流の流通会

②『中国語作文』金星堂

③プリント等

福 建 語	と 戸 ばり 張 よし 嘉 かつ 勝	2 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

正確な発音方法を習得した上で、日常会話と基本文型の習得に入る。特に福建語の特徴である連続転調の習熟に重点を置く。

1. 閩南語地域の地理と言語の分布について概説する。
2. プリント（発音表）による声母、韻母及び発音（拼音）方法の習熟。
3. 声調と転調規則の練習。特に“P. T. K”で終わるものと“H”で終わるものとの区別。
4. 会話は教科書に従って練習をする。

＜後期＞

1. 連続転調は福建語の特徴とはいえ、しかしすべての音節が全部転調するのではなく、アクセント核のあるところは転調しない。アクセント核のある箇所の見極める方法に重点を置いてセンテンスの練習をする。
2. 会話は教科書に従って練習をする。
3. 福建、台湾（閩南語地域）の風俗習慣などを随時に紹介する。

評 価 方 法：普段の発表や定期試験（2回）によって評価する。

テキスト名：樋口 靖著『台湾語会話』東方書店

中 国 語 学 概 論	ジョン 鍾 ジン 敬 ホア 華	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

第一学年で総合・作文・会話の授業を通じて、中国語の基礎的学習を終え、中国語についての一定の知識と学力を身につけた段階で、あらためて中国語とはいかなる言語か、ということを音声・文字・構造・歴史を通じて言語文化として講述する。

授業は講義形式とするが、一部演習形式を含めて進める。

評 価 方 法：成績の評価は、出席率・平常点及び前期、後期の試験・レポートを総合して判定する。

テキスト名：①『中国語のすすめ』講談社

②中国語学概論に関するプリント

中 国 語 音 韻 論	さか 坂 い 井 けん 健 いち 一	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

前後期を通じて《語音和語音学》（呂叔湘・曹伯韓・張世祿合著）を講読演習する。前期は1. 什么叫语言和语音学，2. 记录语音的符号，3. 注音字母，汉语拼音字母和国际音标的对照表，4. 怎么观察语音现象，5. 从物理观点看语音，6. 从生理观点看语音，7. 元音和辅音的构成及性质，8. 音节までを实例を引きながら講読演習し，中国語音学の初歩を理解する。

後期は前期に引き続いて，9. 语言系统的规律性和独特性，10. 从语音的系统的规律性和独特性观察语音的现象，11. 普通话语音的成份和结构，12. 汉语语音系统的发展规律，13. 一般语音变化的几种方式，14. 语音学的功用的講読演習を通じて漢語音学全般の知識を正確なものとして，音韻論への基礎作りに資す。

評 価 方 法：平常講読演習を主として、他に学年末に簡単なテストを実施し、併わせて出席点も加味して評価。

テキスト名：『語言・語音・文字』呂叔湘等著

（コピー用意）

中 国 語 史	こ だま けい こ 児 玉 啓 子	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

本講義では、中国語の歴史的な変遷について概観し、文体・音韻・語義の相違に留意しつつ資料を読みま
す。言語資料は「上古漢語」「中古漢語」「近世漢語」「近現代漢語」の中から、それぞれ代表的な文献を選び、
解説を加えつつ読み進めます。古文は、現代漢語の文体表現とは異なる点もあるので、現代漢語による注釈
を参照しつつ読んでいきます。

授業は演習形式を主体としますが、必要に応じて講義を行います。

中国語史の総括的な時代区分をまず行い、それらの時代の特徴と時代背景について概観します。次に、そ
れぞれの代表的な文献を選び、解説を加えつつ読み進めます。

- ・前期は、先秦時代から六朝まで。(楚辞、莊子、論衡、世説新語、その他)
- ・後期は、隋唐から清末民初まで。(韓愈、柳宗元、蘇東坡、王安石、帰有光、曾国藩、その他。)

評 価 方 法：１．口頭発表 ２．レポート ３．課題 ４．出席点により総合的に評価する。

テキスト名：プリントを使用する。

参 考 文 献：太田 辰夫著『中国語史通考』1988年 白帝社
王 力著『中国語史』（『王力文集』第九巻「漢語史考」・十二巻「中国語言学史」）、『古文
觀止新編』、
牛島 徳次著『漢語文法論（古代編）』『漢語文法論（中古編）』大修館、その他。

中 国 語 学 特 殊 研 究 I	つか もと けい いち 塚 本 慶 一	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

基本文型をレポート、リテンション、ノートテキング、サイトラ等の訓練を通じ、通訳の基礎能力を強
化します。それと同時に、日本語と中国語の比較対照を通じ、異文化コミュニケーションの理解に努めてい
きます。

※なお、受講対象は原則として、3年生で、すでに「中国語学概論」を履修済みで、成績が「良」以上を取
得している学生のみであり、かつ開講時にペーパー・プレズメントテストを行い決定する。

評 価 方 法：成績の評価は、平時の学習態度・成果及び試験・レポートを総合的に判断し判定する。

- テキスト名：①『実戦ビジネス中国語会話』白水社
②『中国語通訳』サイマル出版会
③プリント、録音・録画テープ等

中国語学特殊研究Ⅳ	つか 塚	もと 本	けい 慶	いち 一	4 単 位
					3 ～ 4 年
					通 年

「中国語学特殊研究Ⅳ」は、「中国語学特殊研究Ⅰ」の継続で、L L 教室で、テキスト及び現場の資料（放送、インタビュー、会談、交渉、国際会議等）に沿って、各分野（政治外交、経済貿易、文化、社会、科学技術等）の内容について、逐次通訳の基本訓練及び実演を行い、現場の雰囲気をもみ込んでもらうようにする。また一方では、授業を通じて、通訳者として持つべきマナー、心構え、知識、教養及び通訳の歴史、理論についても講述する。

※なお、受講対象は原則として、3 年生で、「中国語学特殊研究Ⅰ」を同時に履修する学生のみ受講可能である。

評 価 方 法：成績の評価は、平時の学習態度・成果及び試験・レポートを総合的に判断して判定する。

テキスト名：①『実戦ビジネス中国語会話』白水社
 ②『中国語通訳』サイマル出版会
 ③プリント、録音、録画テープ等

ビ ジ ネ ス 中 国 語	つか 塚	もと 本	けい 慶	いち 一	4 単 位
					3 ～ 4 年
					通 年

ビジネス中国語について、その分類・構成・用法及びビジネスの実務等を概説する。そして基本かつ応用的な文型及び文例を「聞く、話す、読む、書く、訳す」の練習を通じて学び、卒業後、ビジネス現場での即戦力となりうる必要な語学表現と実務知識を習得することを目指す。

※なお、受講対象は原則として、4 年生で、「中国語学特殊研究Ⅰ・Ⅳ」を履修済みで成績が「良」以上を取得している学生のみであり、かつ開講時にペーパー・プレズメンテストを行い決定する。

評 価 方 法：成績の評価は、平常の学習態度・成果及び試験・レポートを総合的に判断し判定する。

テキスト名：①『実戦ビジネス中国語会話』白水社
 ②『ビジネス中国語マニュアル』東方書店
 ③その他

日 中 言 語 比 較	さくら 桜	い 井	あき 明	はる 治	4 単 位
					3 ～ 4 年
					通 年

日本語と中国語をさまざまな角度から比較検討し、その異同を明らかにしながら、両言語の本質的な特徴の把握に努める。前期は、以上の内容の講義を行う。夏休みには、前期の講義を参考にして、各自テーマを決め、レポートを作成する。

後期は、担当教員の指導の下に、各学生が夏休み中に作成し提出したレポートを素材にして、研究発表と討論を行ない、日中言語比較に関する認識を深めていく。

評 価 方 法：レポートと教室における研究発表及び出欠を総合して判定する。

テキスト名：プリント

中国 社会 概 説	なか の けん じ 中 野 謙 二	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

社会学的なアプローチを通じて中国社会の体制、制度、階層、グループの概括的把握につとめる。とりわけ1980年代以後の近代化政策のなかで、社会構造がどう変化しつつあるかにポイントを置き、わが国でも大きな関心の持たれている中央と地方の格差、潜在失業者、余剰労働力と人口流動のかかわりなど、幅広い解明を試みる。

後期は中国社会をソフト面から分析する。市場経済の導入にともなって、一般大衆が社会主義、民主、人権あるいは儒教、道教をどう受けとめつつあるかといった政治、思想、文化面を検討、さらに中国人の民族性、社会現象としての不正腐敗、治安犯罪の全般的傾向を知る。いずれも「21世紀の大国」中国を知るのに不可欠な話題であり、知識である。

評 価 方 法：期末にレポートを提出してもらうが、出席も重視し、しばしば質疑もしくはアンケートを行なう。

テキスト名：プリント配付

中国 社会 特殊 研究	なか の けん じ 中 野 謙 二	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

12億の隣人がどう暮らしているのかを、タテ軸とヨコ軸にあわせて考察する。前期はタテ軸、つまり人間の生育過程にあわせた捉え方を実施、一人っ子政策に始まり、教育、恋愛、結婚から家庭生活へと進み、サラリー、社会保障、医療制度についても理解する。そうしたなかで、衣食住を中心とする中国人の生活風景を浮きぼりにしたい。

後期はヨコ軸に移り、正月のお祝いから清明節、端午の節句、夏休み、中秋節、国慶節といった中国の祝祭日を中心に四季の移り変りと、それにあわせての風俗習慣を取り上げる。と同時に、そうした歳時記が近代化その他の政治的社会的変動にともなって、どう変化したかも解明する。風習のなかには日本の原形が見られるのも多いので、日中比較をも交えてみたい。

評 価 方 法：期末にレポートを提出してもらうが、出席も重視し、しばしば質疑もしくはアンケートで意見発表を求める。

テキスト名：プリント配付

中国 経 済 概 説	かわ むら よし お 川 村 嘉 夫	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

1842年のアヘン戦争から現在までの中国经济史をつぎのとおり概観するが、(6)の1949年以降の現代中国经济に重点をおいて述べる。

- (1) アヘン戦争の中国に対する衝撃
- (2) 洋務運動と近代工業の生成
- (3) 日清戦争と半植民地経済化の進行
- (4) 中国における資本主義の成長
- (5) 旧中国農村の地主経済と土地革命の動き
- (6) 現代中国经济の展開：国営企業の形成と私営企業の社会主義改造、農村における土地改革・農業集団化・人民公社化そして家族経営への変転、都市の工業化と農村工業の進展、「社会主義市場経済」システムへの改革、国際貿易と多様な対外経済関係の発展。

試 験：後期末に1回のみ行うので、平常の出席を重視する。

参 考 書：河地 重蔵他『現代中国经济とアジアー市場化と国際化』世界思想社、1994年5月
中国国务院発展研究センター等編『中国经济—社会主義市場経済のすべてがわかる』上、下、総合法令、1994年

中国経済特殊研究	かわ 川 むら 村 よし 嘉 お 夫	4 単 位
		3～4 年
		通 年

戦後50年の日本と中国の経済交流史について、日中双方の政治経済状況と両国をとりまく国際情勢の中に位置づけながら、次のように追ってゆきたい。

- (1) 1950年代 冷戦体制と日中民間貿易協定の調印
- (2) 1960年代 友好貿易とLT貿易の成立
- (3) 1970年代 ニクソン訪中と日中国交正常化、長期貿易取り決めと平和友好条約の締結
- (4) 1980、90年代 中国の対外開放政策と日中経済関係の多様な発展

なお後半には、日中貿易や日本の対中直接投資等に関する論文を、最新の『中国対外貿易』誌等から選択して講読する。

試 験：後期末に1回のみ行うので、平常の出席を重視する。

参 考 書：田中 明彦『日中関係1945—1990年』東京大学出版会、1991年
古川 万太郎『日中戦後関係史』原書房、1988年

中国経済演習	かわ 川 むら 村 よし 嘉 お 夫	4 単 位
		3～4 年
		通 年

中国の工業、農業、経済改革、消費・社会生活、旅游、対外経済交流等に関する注目論文を、最新の中国の新聞・雑誌から選択して講読し、発表と議論により、現代中国の経済・政治動向の把握につとめる。

試 験：前期末に原書訳読の試験、後期末にレポートの提出を課す。

テキスト名：『人民日報』『求是』『経済研究』『農業経済問題』等から選択する。

中国史	なか 中 むら 村 ただし 義	4 単 位
		1～4 年
		通 年

中国の現在の政治、社会、文化等を知るための手だてとして、中国史を学習する。始めに19世紀中頃までの歴史過程を概観して、その特徴を学んでから、本論の19世紀中頃以降の近現代史に入る。講義の論点としては中国一国史の内発的展開及び国際的条件との関連、とくに日本との相互連関に注意して、すすめて行く。

時には基本的資料を配付し、上記の様な問題について講義をする予定。

後期は、前期に引きつづいて、歴史過程を順次学習する。

試 験：講義の最終時間に実施する予定

テキスト名：中嶋 嶺雄編『中国現代史』（新版）有斐閣

中国 文化 思想 概 説	なかむらただし 中村 義	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

現在の中国を理解するために、中国近現代史に活躍した代表的政治家、思想家等を取りあげる。彼等の伝記と彼等の残した様々な文書を具体的にとりあげ、中国の政治思想、文化等の歴史的特質は何かを考える。例えば孫文、毛沢東、章炳麟、梁啓超等々である。

彼等の残した文書をできるだけ、とりあげそれを熟読して、政治思想、伝統、文化等々を考えて行きたい。後期は、前期の主旨を生かして、講義をすすめる。

試 験：講義の最終日、最終時間に実施するつもり。

海 外 華 人 論	さくら い あき はる 桜井 明 治	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

今日、東南アジア、アメリカ、カナダ、オーストラリア、日本などに海外華人はおよそ二千万人いて、開放政策で外資導入による経済発展を目指す中国に大きな影響を与えている。前期の授業は、海外華人の歴史の講義で、華僑とは何か、華人とは何か、など今日の海外華人問題を考える為の基礎知識を把握する。夏休み期間に、華人問題に関するレポートを提出する。

<後期>

担当教員の指導の下に、各学生が夏休み中に作成し提出したレポートを素材にして、研究発表を行い、他の学生達と討論をして、海外華人問題の認識を深めていく。

評 価 方 法：レポートと教室における研究発表及び出欠を総合して判定する。但し、出席は2／3以上が要求される。

テキスト名：最初の授業時に指示する。

中国 政治 外交 概 論	こう ろぎ いち ろう 興 梠 一 郎	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

過去100年の日中関係を中心に講義を進めたいと思います。講義内容は以下の項目に設定する予定です。

- ・日中関係100年
- ・日中戦争
- ・アジア・太平洋戦争
- ・戦後日中関係

<後期>

現代中国の諸問題を中心に講義を進め、以下の内容にしたがって行なう予定です。

- ・中国現代史（1945～現在）
- ・台湾問題
- ・香港返還
- ・社会主義とは何か？
- ・冷戦後の中国とアジア
- ・現代中国の諸問題

試 験：・各学期末に把握度確認のテストを行なう。
・小論文を提出する。

テキスト名：別途指示します。

中国政治外交演習	こう 興 ろ 相 いち 一 ろう 郎	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

現代中国をめぐる諸問題をテーマ別に発表・討論し、理解を深めることを目標とします。演習内容は以下の予定です。

- ① 日中国交回復略史
- ② 米中関係と台湾問題
- ③ 香港返還問題
- ④ アジアと日本
- ⑤ 改革・開放政策
- ⑥ 中国の外交
- ⑦ アジアの中の中国など。

試 験：・授業中のテーマ別発表
・小論文の提出

テキスト名：別途指示します。

中国文学概論	かわ 川 しま 島 いく 郁 お 夫	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

宋代から清代に至るまでの白話文芸史（小説・戯曲）を時代の流れに沿って講義する。わが国でもよく知られた長篇小説から本国においても殆んど顧られない古典戯曲まで、この時期の白話作品は極めて多様である。授業では、こうした作品群にできる限り多くあたり、原語の良さを味わう機会を与えるつもりである。

試 験：学年末の筆記試験を実施する。

テキスト名：『中国小説の歴史的変遷』凱風社

中国文学史	いけ 池 がみ 上 さだ 貞 こ 子	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

中国近現代文学の黎明期にあたる清朝末期から90年代の今日までの、主な文学運動やそれらに係わる事項、文学者、作品などについて、認識を深めることを目的とする。主な内容は以下のとおり。

清末小説。五四文学革命。魯迅。文学研究会と創造社、語絲と現代評論。革命文学論争。茅盾と新しい作家たち。左翼作家連盟。30年代文学。東北作家。国防文学論争。日中戦争期の文学（国民党支配区。日本占領下。共産党支配区）。文芸講話と人民文学。新中国の成立と政治および文芸批判運動。文化大革命。新时期文学の概要。

なお、必要に応じて視聴覚教材も活用する。講義および学生の研究発表を中心とし、テキストは参考資料として扱う。

評 価 方 法：授業中の研究発表およびレポートの結果で評価する。

テキスト名：『図説 中国20世紀文学』中国文芸研究会編 白帝社

中国古典講読	さか い けん いち 坂 井 健 一	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

今年度も昨年度に引き続き司馬遷・《史記》を講読する。今年度は人間像の探究というKeywordの下に、《列伝》を主として講読演習する。前期は漢方医学物語としての《扁鵲倉公列伝第四十五》を講読する。古代中国における名医といわれた扁鵲と、太倉公の事蹟を通じて医師としての人間像を考えてみる。

＜後期＞

悲運の英雄物語《李將軍列伝第四十九》と、これに直接関連のある当時の北方騎馬民族《匈奴列伝第五十》を講読する。漢王朝を草創期よりなやましつづけた匈奴と、これに対して漢王朝の威力を代表したということが出来る李將軍の沈着豪胆さと比類ない弓術の巧みさなどをこの二篇を通読することによって、古代中国の武將としての人間像が彷彿するものと思われる。

評 価 方 法：試験としては特におこなわない。平常講読点と年一回レポート（学年末）点と出席点を加味評価。

テキスト名：『史記』文学古籍刊行社版
（コピー用意）

中国近世文学研究	かわ しま いく お 川 島 郁 夫	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

「杜子春」説話の演変および日本文学との関係について、原典を講読しつつ理解を深める。題材は『続玄怪録』、『醒世恆言』卷三十七、及び芥川龍之介の小品である。出席者には毎日何らかの課題を与え、その報告を踏まえて討論形式で授業を進める。

テキスト名：プリント使用

中国近代文学研究	いけ がみ さだ こ 池 上 貞 子	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

中国の近現代文学は30年代にその豊収期を迎える。五・四文学革命期に見られた萌芽が20年代を通じて成長をとげ、30年代に結実を見たとも言えよう。

しかしまたその一方で、左翼作家連盟の成立や抗日戦争など、社会状況との係わり方や思想・立場の問題もからんで、作家のあり様はすこぶる複雑であった。

今年度からは基本に立ちかえて、近代文学の代表的な作家の、この時期の作品を読んでいく。予定としては、茅盾・巴金・沈從文・老舍および“東北作家”の短篇小説、魯迅の“雜文”、林語堂・周作人などの散文、曹禺の戯曲、“新月派”詩人の詩などを読む。

必要に応じて視聴覚教材も活用するが、翻訳、研究発表など、学生の積極的な参加を期待する。

評 価 方 法：授業中の課題および研究発表の結果で評価する。

テキスト名：プリント配付

中国現代文学演習	リン 林	ファン 芳	4 単 位
			3 ～ 4 年
			通 年

1949年、新中国成立から現在までの、「中国現代文学」の歩みを、歴史の大きな流れの中で捉え、各時期の代表的作品の原書講読・分析・鑑賞（映画も含む）を通じて、中国の人・思想・社会・文化への理解を、文学の角度から深めていく事を旨とする。

<前期>

1949年から、文革後約十年たった1985年までをメインに考察する。

<後期>

1985年～1986年以降、外国の文芸思潮の流入により、中国文学界に現われたさまざまな流派とその作品を、重点的に考察する。

評 価 方 法：教場での発表とレポートにより採点。

テキスト名：プリント『中国社会主義新文学35年の歩み』〈江古田文学〉85.7号
『文革後の中国文壇』〈中央公論〉84.10.ほか。
作品のプリント

4) スペイン語学科専門教育科目

ス ペ イ ン 語 総 合 講 座 I	ほん だ せい じ 本 田 誠 一 と かど 戸 門 衛 や 沼 孝 一 ぎ ま 一郎 柳 え 郎 江 藤 郎	6 単 位 1 年 通 年 2 単 位 1 年 通 年 4 単 位 1 年 通 年
ス ペ イ ン 語 作 文 I	オルビード ロドリゲス ソコorro ミサワ Socorro Misawa オスカル メンドーサ Oscar Mendoza	
ス ペ イ ン 語 会 話 I		

※ 1 年生で平成 6 年度以前に入学した学生は、「スペイン語基礎Ⅰ(a)(b)」を履修して、上記の 3 科目を履修したもののみなす。

スペイン語の発音・文法・会話・読解を互に関連づけながら、徹底した演習を通して〈読む・書く・話す〉という総合的能力を養成することを目的とする。文法 3 時間、講読 1 時間、会話 2 時間（うち 1 時間は LL 使用）から成る。また基礎単語（約 900）の習得を確実なものとする。

試 験：担当者 6 人の先生が個別に試験を実施する。

テキスト名：未定

ス ペ イ ン 語 総 合 講 座 II	ほん だ と かど 本 田 戸 門 や 沼 え 藤 ぎ ま 一郎 柳 え 郎	6 単 位 2 年 通 年 2 単 位 2 年 通 年 4 単 位 2 年 通 年
ス ペ イ ン 語 作 文 II	ロドリゲス あおしま Rodriguez 青島 ブラーボ ホルヘ Bravo Jorge ナバロ デ ミゲル Nabaro De Miguel 狐 崎	
ス ペ イ ン 語 会 話 II		

※ 2 年生で平成 6 年度以前に入学した学生は、「スペイン語基礎Ⅱ(a)(b)」を履修して、上記の 3 科目を履修したもののみなす。

1 年次で習得した知識をさらに発展させ、確かなものとするを目的とする。文法は接続法の用法等に重点を置き、実際の文章の中で検討していく。さらに作文演習によって文法的知識の実体化を図る。会話の授業は 1 時間を LL 教室を使用し、視聴覚教材を活用して行なう。文法 1 時間、作文 1 時間、講読演習 2 時間、会話（うち 1 時間 LL）2 時間より成る。また基本語彙（2 千）の習得を目標とする。

試 験：担当者 6 人の先生が個別に試験を実施する。

テキスト名：未定

スペイン語総合講座Ⅲ	こ狐 マリア	ざき崎 MARIA	とも知 ホルヘ	み己 JORGE	2 単 位
					3 年
					通 年

＜前期＞

ゼミ形式で講読を行なう。各学生が毎回、報告発表を行なうことになる。スペインないしイスパノアメリカ社会に関する文化論をテキストに考えている。

＜後期＞

ゼミ形式で講読を行なう。各学生が毎回、報告発表を行なうことになる。スペインないしイスパノアメリカ社会に関する文化論をテキストに考えている。

評 価 方 法：平常点、レポート、論述試験の総合評価

テキスト名：プリント

スペイン語作文Ⅲ	アンヘル マリア	ブラーボ ホルヘ	2 単 位
	ANGEL MARIA	BRAVO JORGE	3 年
			通 年

授業を二時間に分ける。一時間目は日本語をスペイン語に翻訳し、二時間目は学生自身によるスペイン語作文を授業内で添削する。

La clase se dividirá en dos partes. La primera parte consistirá en la traducción de oraciones del japonés al español. En la segunda, se corregirán en la clase las composiciones hechas por los alumnos.

試 験：前期末および後期末に行なう。

テキスト名：Fundamento de la composición española（Bクラス）

スペイン語総合講座Ⅳ	アンヘル オルビド	ブラーボ ロドリゲス	2 単 位
	ANGEL OLVIDO	BLAVO RODRIGUEZ	4 年
			通 年

授業を二時間に分ける。第一時間目では文法的知識を深め、第二時間目では新聞や雑誌の記事、短編小説や小説の一部分、詩文等を読み、あるいは映画を観て、生徒はその内容を要約し、説明しなければならない。

La clase se dividirá en dos partes. En la primera se profundizará la gramática. En la segunda, los alumnos tendrán que leer artículos de periódicos, revistas, cuentos, capítulos de novelas, poesía, así como ver algo de cine, lo cual tendrá que resumir y explicar en clase.

試 験：前期末および後期末に行なう。

テキスト名：García & Sánchez. *Español 2000*, Nivel Medio (SGEL)

ス ペ イ ン 語 作 文 Ⅳ	^{き た のぶ たか} 喜 多 延 鷹 ^{オスカル メンドーザ} OSCAR MENDOZA	2 単 位
		4 年
		通 年

喜多延鷹

日本の小説をスペイン語にどう翻訳していくか研究していきたい。昨年に引き続き、星新一の作品を取り上げる。クラス全員で考え、訳し方の技術を練りたい。毎回必ず一人一回は当たるようにするので、予習が必須条件である。

評 価 方 法：前期、後期計2回短編小説（星新一のショート・ショート）の翻訳を課す。翻訳の出来により評価する。

オスカル・メンドーサ

日本語のオリジナルテキストを元にスペイン語で文章を作成することを学ぶ。
又、その際必要な統語的構造の規則についても説明する。

ス ペ イ ン 語 学 概 論	^{え どう いち ろう} 江 藤 一 郎	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

スペイン語の音声、音韻論を勉強する。スペイン語がことばである以上、その音声を研究することは当然であるが、音を学問として扱うと音韻論、又は音素論という考えを学ばなければならない。この知識がないと、形態音素論も理解できない。日本語や英語の音声学、音素論も紹介しながら講義したい。

<後期>

スペイン語の統語論の中で主として接続法を扱う。その用法の多くは、英語の仮定法の用法と共通する。スペイン語で接続法は、subjuntivoと言い、英語で仮定法は、subjunctiveと言うのがわかると、日本語の文法用語に惑わされていたのがわかる。スペイン語と英語の用法を対照させながら、スペイン語の接続法の用法のより高い理解にせまりたい。

試 験：学期末に試験を行う。

テキスト名：プリント

参 考 書：Azevedo: Introducción a la lingüística española

ス ペ イ ン 語 音 声 学	アナ マリア ANA MARIA デ ミゲール DE MIGUEL	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

El objetivo del curso es que el alumno llegue a pronunciar con la mayor corrección posible el castellano estándar de España (cuya opción se justifica por ser la lengua materna del profesor). En dicha adquisición se distinguen dos fases: la identificación del sonido, su producción y su consolidación. Se adquirirán unos conocimientos básicos de fonética y fonología, a través de ligeras nociones, y en comparación con la lengua del alumno u otras que este pueda conocer. Una gran parte de las clases se dedicarán a ejercicios de pronunciación en el laboratorio de lenguas, a través de material auditivo.

1. Estudio del cuadro de los fonemas del español y del japonés.

<後期>

En esta fase la finalidad fundamental es adquirir la corrección en la interacción oral. Se requiere, por tanto, una consolidación de la pronunciación de manera que el alumno la produzca espontáneamente en la comunicación hablada.

2. Diptongos y triptongos.
3. La sílaba. EL grupo fónico.
4. La entonación.
5. Nociones de métrica española.

評価方法：1. Asistencia, ejercicios, participación.

2. Examen semestral y examen final:escrito (30%), oral (70%)

テキスト名：SANCHEZ/MATILLA:Manual práctico de corrección fonética del español.
Editorial S.G.E.L., S.A.Madrid.

ス ペ イ ン 語 史	え とう いち ろう 江 藤 一 郎	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

14世紀の教養派俗語文芸の代表的作家であるイタの大僧正、ファン・ルイスの韻文による『よき恋の書』の一編で、フランス文学ならば、ファブリオのジャンルに入る「ブルターニュの画家、ドン・ピタス・パジャスに起った話」のテキストを現代スペイン語訳と対照しながら読んで行き、どのように中世スペイン語から現代スペイン語に変化したかを説明する。勿論必要に応じて、ラテン語からの変化も説明する。

<後期>

14世紀の散文作家の代表者であるドン・ファン・マヌエルの『ルカノール伯爵』の一話「いかさま機織り師と王様に起った話」、これはアンデルセンの「裸の王様」のモデルになった話なのだが、このテキストと現代スペイン語を対照しながら読み進み、どのように中世スペイン語から現代スペイン語に変化したかを説明する。

試 験：学期末に試験を行なう。

テキスト名：プリント

参 考 文 献：ヒリ・ガヤ『スペイン語の歴史』南雲堂、1984
 中岡 省治『中世スペイン語入門』大学書林、1993

アメリカスペイン語特殊研究	オルビード ロドリゲス OLVIDO RODRIGUEZ	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

The Spanish Language in America

<前期>

Similarities and differences in the Spanish of South, Central and North America.

Influence of native languages upon Spanish.

<後期>

Influence of newly incorporated words from technological advances and social changes.

Incorporation and modification of slang and popular culture concepts in local language.

Nonstandard forms occurring when different cultures interact or when foreign media influence the language.

The course will focus on spoken as well as written Spanish.

Literature, poetry and lyrics will be analyzed within different contexts of the Hispanic-American world.

Attention will also be given to cultural and social determinants of specific meanings.

評 価 方 法 : The grade for the course will be based on the following:

- 1 . Class Participation: 20%
- 2 . Projects and Homework: 50%
- 3 . Mid-term and Final Exams: 30%

商 業 ス ペ イ ン 語	みや ち たつ ろう 宮 地 達 郎	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

限られた期間内で貿易全部の仕組みを完全に理解することは不可能です。従って受注→発注→信用状取込み→船積み→信用状買取りまでの活動の中で使用される貿易用語を西語、英語、邦文で説明し貿易の仕組みを説明します。教材は実在の商社に入電されてくる西語通信文（主としてFAX）を使用し、受講者はその内容を把握し返事を西文で作成します。更に数多くの商業英文の西語翻訳も実施します。

<後期>

入手した西語商業信用状を英語に転換し、実際に上記商社で使用している送り状、梱包明細書、船荷証券書、保険証券の実物を見ながら銀行提出のための船積み書類を作成します。荷為替手形、信用状買取依頼書も実物を使用して作成します。通常形態の信用状であればそれが英文であれ、西文であれ、その内容を理解し、必要船積み書類を作成、銀行買取りまで出来る即戦力の力をつけることが最終目標です。

試 験：実物の西文商業信用状を見て、要求されている必要書類を作成、銀行買取りまでの作業を行います。

テキスト名：適時、教材を配付します。

時 事 ス ペ イ ン 語	と かど かず えい 戸 門 一 衛	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

新聞、雑誌、ビデオ、などマスメディアにあらわれるニュースを素材に、政治・経済・社会に関するテーマを取り上げる。特にNHK衛星放送、国際ニュース「スペインTVE」のホットな映像（リアルタイムに近い、講義日に放送されたもの）を積極的に使用する。ニュースがいかなる意味を持つのか、などの分析・解説、つまり「味付け」は教師が行うが、「隠し味」は学生諸君の関心領域の幅と深さに依存する。本講義をつうじて、我々を取り巻く世界の動向にも目を開いてほしいと望む。前期は映像メディアを多用する。

<後期>

後期は新聞等の活字メディアに重点を置く。

試 験：前期・後期ともに筆記試験を行う。

テキスト名：プリント

ス ペ イ ン 語 学 演 習	え どう いち ろう 江 藤 一 郎	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

スペイン語文法の難関の一つである再帰代名詞の《SE》の複雑な用法についての指導研究書を読みながら、英語、日本語の表現法とも対照してゆく。日本語の‘れる、られる’の受身や《はた迷惑の受身》にもふれる。日本語で書かれた論文も多くあるので、それらを読むように指導する。

<後期>

前期で得た基礎知識をもとに、練習問題を解いたり、なにか文学作品の短編を読みながら、実際の用法を分析してみたい。

試 験：学期末に試験を行う。

テキスト名：REDONDO: Usos de 《se》,S,G,E,L.

スペイン語圏 マス・コミュニケーション論	オルビード ロドリゲス OLVIDO RODRIGUEZ	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

- I. ANALYSIS OF MOVIES
1. Movies as a Reflection of Society.
- People's attitudes and values reflected in movies.
- Role models, heroes, stereotypes and myths.
2. Movies as a Political Element.
- Influence of the elite on society through media.
- Military, economic, political and religious elites.

<後期>

- II. THE ORGANIZATION OF PUBLIC OPINION
1. Broadcasting as an instrument of power.
- Power relationships.
2. Selection of topics.
- Media framework. Assumptions influencing the selection of topics by purveyors of mass culture.
- Massification: assumptions regarding what people understand.
3. Manufactured and distorted news.
- Techniques to discredit policies, governments, and persons.

Analysis of media as a reflection of society and as a political element, using a variety of materials related to television, movies and radio. The main objective is to make students aware of media's underlying themes and messages.

評 価 方 法：The grade for the course will be based on the following:

1. Class Participation: 20%
2. Projects and Homework: 50%
3. Mid-term and Final Exams: 30%

ス ペ イ ン 史	なか がわ いさお 中 川 功	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

一般的には、高校の『世界史』にスペインが登場するのは、主としてレコンキスタ、大航海時代、スペイン内戦、そして特定の芸術家ぐらいに限定されている。したがって本講義では、時間的には古代から現代に至るまで、また空間的には地理も含めて広い範囲を扱い、スペインの歴史過程の表面的な全体像をとりあえず把握できるようにしたい。ローマ支配下の時代からレコンキスタを経て、カトリック両王時代までを扱う。

<後期>

スペインが世界に飛び出していく大航海時代の本質を、ポルトガルの東インド航路開拓の歴史とともに考察することからはじめる。それ以後の時代については次のような史実を扱う。

スペイン帝国の「繁栄」と衰退、18世紀の啓蒙改革主義、19世紀と自由主義的改革、王政復古、第2共和政、スペイン内戦、フランコ独裁、EC加盟。

評 価 方 法：各学期末の筆記試験かレポート提出により成績を評価する。出席はそのための必須条件である。

テキスト名：特に使用しない。

ラテンアメリカ史	やぎ 柳 ぬま 沼 こういちろう 孝一郎	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

大航海時代以前、すなわち先コロンブス時代のアメリカ大陸古代文明の変遷について、以下の内容にそってビデオを観ながら解説する。

- 1) メソアメリカ地域：オルメカ文化、宗教都市国家テオティワカン、サポテカ・ミシュテカ文化、トルテカ王国、アステカ王国、マヤ文明。
- 2) 中央アンデス地域：プレ=インカ（チャビン文化、ナスカ文化、シカン文化、ティワナコ文化）、インカ文明。

＜後期＞

大航海時代以後に新大陸にはイベリア世界が確立されたが、以下の内容にそって解説を加えながらラテンアメリカ世界の歩みを概観する。

- 1) 新旧両世界の衝突、新大陸の征服、スペイン領アメリカの植民地支配機構、植民地経済、植民地社会の形成。
- 2) スペイン領アメリカの独立。
- 3) 新生ラテンアメリカ諸国の近代化への歩み、従属構造の確立過程。
- 4) 現代のラテンアメリカ：メキシコ革命、ナショナリズム、軍政時代、インディヘニスモ。

評価方法：前期、後期それぞれレポートを提出する。

テキスト名：参考文献リストを配付する。随時プリントを配付する。

日 西 関 係 史	やぎ 柳 ぬま 沼 こういちろう 孝一郎	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

大航海時代以降のスペインによる太平洋領土拡張政策の延長線上で展開されたスペイン帝国と日本の交渉変遷について以下の内容で解説する。

- 1) 南蛮人と南蛮貿易。
- 2) スペイン領フィリピンと豊臣秀吉。
- 3) イベリア両国（旧教国ポルトガル・スペイン）および新教国（イギリス・オランダ）と徳川家康幕府の関係。スペイン領ヌエバ、エスパーニヤと幕府の関係。
- 4) 支倉常長遣欧使節。

＜後期＞

19世紀末に日本とラテンアメリカ諸国の関係は新たな時代を迎えたが、以下の内容にそって20世紀における日本とラテンアメリカ諸国の関係を総合的に考察する。

- 1) 日墨修好通商条約、榎本武揚メキシコ殖民団、メキシコ革命動乱期における日墨関係。
- 2) 中南米移住史、ラテンアメリカにおける日系人社会（メキシコ、ペルー、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル）。
- 3) 日本と中南米諸国の政治経済関係、日系企業、経済協力関係。

評価方法：前期、後期それぞれレポートを提出する。

テキスト名：参考文献は適宜、指示する。プリントを配付する。

ラテンアメリカ政治史	こ 狐 ざ 崎 も 知 み 己	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

ラテンアメリカにおけるネーション形成を中心に講義する。

1. オリエンタリズムとポストコロニアル
2. 独立の先駆者と思想
3. ネーションをめぐる諸問題
4. 自由主義革命
5. 大西洋地域の国際関係
6. 民衆文化と政治

<後期>

ラテンアメリカにおける民主化と発展を中心に講義する。

1. ポピュリズムの政治経済学
2. 開発モデルと政治
3. 革命の比較：メキシコ、グアテマラ、ボリビア
4. 米国との関係
5. 権威主義体制と社会運動
6. 民主化の課題
7. ネーションとエスニシティ

評 価 方 法：論述試験と書評の総合評価。

テキスト名：第1回目の講義にて参考文献リストを配付し、解説する。

現 代 ス ペ イ ン の 諸 問 題	と 戸 か 門 か 一 ず 衛 え	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

南欧スペインで進行している政治・経済・社会面における、さまざまな「実験」を解明し、それが我々の生きる日本社会に何を問いかけているのか考えたい。

具体的には、①《政治》独裁体制から民主主義への移行、社会労働党政権の成立、今日のスペインが直面する問題（地方分権、テロリズムなど）、②《経済》経済構造の特徴、E C加盟とE Uに向けた調整など、③《社会》失業、女性の社会進出など、の現代問題を分析する。

<後期>

現代スペインの諸問題に関するスペイン語文献（英語版を用意するので他学科学生も履修可能）を読みながら、解説を加える。時にビデオも使用する。予習、諸テーマについての討論など、学生の積極的な対応が必要である。

試 験：前期・後期ともに筆記試験を行う。

テキスト名：教科書、参考文献は授業中に適宜、指示する。プリントは配付する。

ス ペ イ ン 美 術 史	セルヒオ ナバロ SERGIO NAVARRO	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

古代から20世紀に至るまでのイベリア半島（スペイン及びポルトガル）の美術史入門。各々の時代の代表的な絵画、彫刻、建築の特徴を時代背景と共に解説（スライド付）。ラテン・アメリカの美術史についても触れる予定。（用語は平易なスペイン語）

評価方法：レポート提出。

テキスト名：プリント使用

メ キ シ コ 特 殊 研 究	ソコローロ ミサワ SOCORRO MISAWA	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

この科目の主な目的は、メキシコの文化、歴史を概観することです。具体的には、メキシコの先コロンブス期、植民地時代、独立時代にわたる歴史の大きな流れを学び、又各時代の様々な面から代表的な美術、建築、宗教、思想、習慣等を選んで、参加者と共に考察したいと思います。

講義や会話は、スペイン語で行います。スペイン語を実際に使って、会話や作文の能力を向上したい学生を歓迎します。

<後期>

ゼミナール形式で行います。学生はテーマを選び、研究の上発表してもらいます。テーマはメキシコの美術、音楽、文学、経済、社会、政治、習慣等々のいずれでも可能。

テキスト名：プリントを用意します。

スペイン・ラテンアメリカ思想演習

アンヘル ブラボー
ANGEL BRAVO

4 単 位
3 ～ 4 年
通 年

授業を二時間に分ける。一時間目はラテンアメリカ諸国とスペインの最も重要な思想系統について説明する。二時間目は、学生に授業の内容と関連した何らかのテーマに基づいたレポートを作成してもらい、その発表を行なう。

単位の認定には以下の条件を満たすことが要求される。

- A) 一つ、あるいはそれ以上のレポートの発表を行なうこと。
- B) 授業の80%以上に出席をすること。
- C) 学年末にレポートを提出すること。

あるいは

- A) 一つ、あるいはそれ以上のレポートの発表を行なうこと。
- B) 前期・後期末に試験を受ける。

テキスト名：プリント

La clase se dividirá en dos periodos. En el primero se explicarán los temas más importantes del pensamiento iberoamericano y español. En el segundo, los alumnos harán la exposición de un trabajo relacionado con el contenido de la clase.

CONDICIONES PARA APROBAR LA ASIGNATURA COMO SEMINARIO :

- A) Hacer la o las exposiciones que a cada alumno le corresponda.
- B) Tener como minimo el 80% de asistencia.
- C) Hacer un informe final.

OTRA MODALIDAD :

- A) Hacer la o las exposiciones que a cada alumno le corresponda.
- B) Al final de cada semestre un examen.

スペイン・ラテンアメリカ文化特殊研究	アンヘル ANGEL	ブラーボ BRAVO	4 単 位
			3 ～ 4 年
			通 年

授業を二時間に分ける。一時間目はスペインとラテンアメリカ諸国の文学、絵画、映画等の分野においての文化的概観を説明する。二時間目は、学生に授業の内容と関連した何らかのテーマに基づいたレポートを作成してもらい、その発表を行なう。

単位の認定には以下の条件を満たすことが要求される。

- A) 一つ、あるいはそれ以上のレポートの発表を行なうこと。
- B) 授業の80%以上に出席をすること。
- C) 学年末にレポートを提出すること。

あるいは

- A) 一つ、あるいはそれ以上のレポートの発表を行なうこと。
- B) 前期・後期末に試験を受ける。

テキスト名：プリント

Esta clase se compondrá de dos partes. En la primera se explicarán los temas principales de la culture española e iberoamericana en los campos de : literatura, pintura, cine, etc. En la segundo, los alumnos tendrán que hacer la exposición de un trabajo ralacionado con el contenido de la misma.

CONDICIONES PARA APROBAR LA ASIGNATURA COMO SEMINARIO :

- A) Hacer la o las exposiciones que a cada alumno le corresponda.
- B) Tener como mínimo el 80% de asistencia.
- C) Hacer un informe final.

OTRA MODALIDAD :

- A) Hacer la o las exposiciones que a cada alumno le corresponda.
- B) Al final de cada semestre un examen.

ス ペ イ ン 経 済 演 習	と 戸 か 門 か ず え い 衛	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

この授業は一般的な講義とは異なり、学生が主体的に参画するゼミナールである。ゼミ生による発表、教師による解説、研究小論文の提出の3要素から成る。

前期は「EU統合に直面するスペイン経済の諸断面」を、一般論としての地域総合の中に位置付けて分析するとともに、スペイン経済の構造的・機能的特徴を理解する。

＜後期＞

労働力の産業・地域分布、失業の実態、労働運動、労働組合、労働制度改革など、労働問題を通じてスペインがEU経済通貨統合に向けて、いかなる対応を図っているのか分析する。

評価方法：平常のゼミへの取り組み姿勢、研究発表、小論文などを総合的に評価して、単位認定を行う。

テキスト名：ゼミ開講時に指示するが、日本語プリントを多用する。

ラ テ ン ア メ リ カ 史 演 習	や ぎ む ま こ う い ち ろ う 柳 沼 孝 一 郎	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

ラテンアメリカ史演習となっているが、ラテンアメリカ世界をゼミ生各自のさまざまな関心や視点から研究する、いわゆるラテンアメリカ地域研究ゼミナールである。

＜前期＞

ラテンアメリカ世界全体の史の変遷について解説書・原書の〈読み〉を通して考察する。その過程でゼミ生は各自研究テーマを検討して研究テーマを決定する。

＜後期＞

ゼミ生全員が主体的に以下の手順で授業を進めていくことになる。

- 1) 研究テーマに関する文献リストの作成、文献収集（文献については適宜指導する）。
- 2) ゼミ生は各自のテーマについての研究計画を発表する。
- 3) 随時、各自の研究発表を質疑応答しながら行う。
- 4) 研究論文を仕上げる（ゼミ論指導は適宜行う）。

評価方法：平常の取り組み姿勢、研究発表、各自の研究論文などによって総合的に評価する。

テキスト名：前期の解説書・原書はプリントを配付する。

ス ペ イ ン 文 学 史	ほ ん だ せ い じ 本 田 誠 二	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

中世スペイン最古の叙事詩『わがシッドの歌』より黄金世紀を代表するセルバンテス、ロペ・デ・ベエガ、カルデロンに及ぶ約五世紀にわたるスペイン文学の精華をアンソロジーによって味わい、解説と注釈を加えていく。

本年度は黄金世紀の後半（バロック）の主要な作家・詩人・劇作家を精選し、スペインがその最も稔り豊かな作品を生み出した最盛期の文学を概観する。授業は一方的な講義ではなく、各自の研究発表と討論形式による。

＜後期＞

前期が主としてピカレスク小説、牧人小説を扱うのに対して、後期は神秘主義、国民演劇、セルバンテスを扱う予定である。授業形式は前期に同じ。

試験：前期・後期の二回実施する。

テキスト名：プリント配付

現代スペイン文学	き　た　のぶ　たか 喜　多　延　鷹	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

ミゲル・デリーベスの初期の作品（1950年作）“エル・カミーノ”（道）を読み、スペイン現代文学の一端に触れる。単に読める、というだけでなく、文学作品の翻訳を目指したい。読書会の雰囲気が進めたいので、「予習してきませんでした」という学生の参加は歓迎しない。めいめい訳を持ち寄り、どのように訳したら最上なのか討論しながら進めたい。

評 価 方 法：年一回筆記試験を（学年末に）行うが、大部分は普段の授業への参加態度により成績を決める。

テキスト名：テキストはプリントにて用意する。

現代ラテンアメリカ文学	くわ　な　かず　ひろ 桑　名　一　博	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

20世紀前半に至るまでのラテンアメリカ文学の歴史を概観した後、20世紀後半に輩出した小説家について詳述する。主として Jorge Luis BorgesとJuan Rulfo をとりあげ、前衛的な小説と時間、土俗性との関係について考える。

<後期>

García Márques、Julio Cortázar の短篇小説を講読しながら、現代小説と幻想という問題についてふれる。また、時間的に余裕があれば、Octavio Paz の詩と評論を取り上げたいと思っている。

評 価 方 法：前期・後期ともにレポート

テキスト名：プリント使用

ラテンアメリカ文学特殊研究	くわ　な　かず　ひろ 桑　名　一　博	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

Modernismo とはいかなる運動であったかを概観した後、この運動の先駆者たちと言われる José Martí、Asunción Silva、Julián del Casal などの作品を読む。

<後期>

Modernismo の中心人物である Rubén Darío の詩と散文を取りあげる。なお、時間的に余裕があれば、Leopoldo LugonesとHoracio Quiroga についてもふれる。

評 価 方 法：前期・後期ともにレポート

テキスト名：プリント使用

ス ペ イ ン 文 学 演 習	ほん だ せい じ 本 田 誠 二	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

スペイン黄金世紀文学（16世紀から17世紀）の研究を目的とする少人数制のゼミ科目である。受講者はあらかじめスペイン文学史を履修していることが望ましい。本年は去年にひき続き、黄金世紀に隆盛をみたスペイン牧歌小説のモデルとなったホルヘ・デ・モンテマヨールの『ディアナ』を中心として論じ、さらに〈ディアナもの〉といわれる続篇についても扱う予定である。授業は原文テキストの解釈と解説が中心となる。

＜後期＞

前期の授業の発展を目ざし、関連論文を読んで、牧歌文学一般に対する理解を深める。また同時に批判的な見方を養い、論文作成のための指導を行なう。

評 価 方 法：試験は行なわないが、ゼミ論文（400字20枚程度）の提出をもって単位を認定する。

テキスト名：プリント配付

5) 韓国語学科専門教育科目

韓国語総合講座Ⅰ	キム 金 ハミ の うえ グォン 權 ネ 羅 ドン 東 の 上 チェ 在 ソ 聖 ジュン 俊 みゆき 幸 スク 淑 スク 淑	6 単 位
		1 年
韓国語作文Ⅰ		2 単 位
		1 年
韓国語会話Ⅰ		通 年
		4 単 位
		1 年
		通 年

※ 1 年生で平成 6 年度以前に入学した学生は、「韓国語基礎Ⅰ」、「韓国語基礎Ⅱ」を履修して、上記の 3 科目を履修したものとみなす。

＜韓国語基礎Ⅰ＞

5 月中旬まで韓国語の文字と発音の基礎を集中的に学ぶ。その後、1) 文法を中心に学ぶ授業を週 2 回、2) 作文を中心に学ぶ授業を週 1 回、3) 会話を中心に学ぶ授業を週 3 回、という構成で行なっていく。
なお、会話と作文の授業は、韓国語の母語話者が担当し、個々の音、語、文の各レベルでの聴取力・発話力が体得できるように徹底的に練習する。

＜韓国語基礎Ⅱ＞

韓国語基礎Ⅰの 5 月中旬以降の内容を継続する。ただし、文法の授業においては、入門書を 11 月中旬に終え、その後『韓国語初級読本』によるやさしい文章の読解を行う予定である。

評価方法：履修内容について随時試験を行なうほかに、約 850 語の単語テストも実施する。さらに平常時の出席状況を考慮して総合評価する。

テキスト名：『朝鮮語の入門』白水社、『朝鮮語を学ぼう』三修社、『韓国語入門』金東俊著、
『基礎朝鮮語－文法と作文－』白帝社、『基礎朝鮮語－会話編－』白帝社、
『コスモス朝和辞典』白水社、『韓国語初級読本』神田外語大学韓国語学科編

韓 国 語 総 合 講 座 Ⅱ	キム 金 はま グ オン 権 ナ 羅 の うえ ドン 東 チェ 在 ソン 聖 ジュン 俊 みゆき 幸 スク 淑 スク 淑	6 単 位
韓 国 語 作 文 Ⅱ		2 年
韓 国 語 会 話 Ⅱ		2 単 位
		2 年
		4 単 位
		2 年
		通 年

※ 2 年生で平成 6 年度以前に入学した学生は、「韓国語基礎Ⅲ」、「韓国語基礎Ⅳ」を履修して、上記の 3 科目を履修したものとみなす。

＜韓国語基礎Ⅲ＞

1) 講読の授業を週 3 回、2) 作文の授業を週 1 回、3) 会話の授業を週 2 回という構成で行なっていく。講読の授業は、①文法事項を中心に学ぶもの、②時事的・文化的な内容に関するもの、③論文調の文章を学ぶものに分れる。作文の授業では、様々な分析的形式、用言語尾、などに焦点を当てつつ、発話の場面が設定された会話体の作文練習を行なう。会話の授業では、基本的な文法事項を用いた会話が自由にできるような能力を養う。

＜韓国語基礎Ⅳ＞

韓国語基礎Ⅲの内容を高度化させながら行なっていく。

評 価 方 法：履修内容について随時試験を行なうほかに、約2000語の単語テストも実施する。さらに平常時の出席状況を考慮して総合評価する。

テキスト名：『スタンダードハングル講座①』会話編 大修館書店、『基礎朝鮮語一会話編一』白帝社、
『韓国語初級読本』神田外語大学韓国語学科編

韓国語総合講座Ⅲ	しお 塩 かん 菅	だ 田 の 野	きょう 今日 ひろ 裕	こ 子 おみ 臣	2 単 位
					3 年
					通 年

韓国のテレビドラマのビデオテープを使い、聞き取る練習をしながら、さまざまな場面での生きた表現を学んでいく。

試 験：平常時間内に実施する。

韓国語作文Ⅲ	クォン 権	チェ 在	スク 淑	2 単 位
				3 年
				通 年

韓国語と日本語の類似点・相違点に着目しつつ、①課題文の韓国語訳、②与えられたテーマによる自由作文、の2つの訓練を積み重ねることにより、韓国語の〈書く〉力を養う。併せて口頭での作文練習も徹底して行なう。

評 価 方 法：定期試験（年2回）、日常的な提出物及び授業への参加度によって評価する。

テキスト名：プリント

韓国語総合講座Ⅳ	しお 塩 かん 菅	だ 田 の 野	きょう 今日 ひろ 裕	こ 子 おみ 臣	2 単 位
					4 年
					通 年

現代韓国語における会話体特有の表現を学ぶ。韓国語のテレビドラマのシナリオをビデオテープを見ながら読み進んでいく。

試 験：履修内容について定期試験を行なう。

韓 国 語 作 文 Ⅳ	クオン 権	チュ 在	スク 淑	2 単 位
				4 年
				通 年

韓国語と日本語の類似点・相違点に着目しつつ、作文の訓練を通じて韓国語の高度な表現力を養う。①課題文の韓国語訳、②与えられたテーマによる自由作文、の2つを授業の主たる柱とする。併せて口頭での作文練習も徹底して行なう。

評 価 方 法：年2回の定期試験及び日常的な提出物によって評価する。

テキスト名：プリント

韓 国 語 学 概 論	キム 金	ドン 東	ジュン 俊	4 単 位
				2 ～ 4 年
				通 年

<前期>

現代韓国語の音声学の基礎、音韻、語彙、文法の一部について概要を解説し、現代韓国語の基礎知識を習得させる。文法は授業時間の都合上、形態素、単語、品詞までを前期に、残りは後期に講述する。
授業形態は主として講義形式をとるが、ときには演習形式をもとる予定である。
講義用語は日本語・韓国語を半々混用する。

<後期>

前期に引き続いて、文法（屈折と文法範疇、構成、文章の接続と内包等）、意味論、敬語法、文字論（正書法を重点的に）の概要を解説し、前期の講義と合わせて、韓国語の基礎知識を総体的に理解させる。
授業形態は前期と同様。

評 価 方 法：平常時の成績と期末試験の成績とを合算して評価する。

テキスト名：『韓国語学概説（国語学概説）』李翊斐著 学研社（韓国）発行

韓 国 語 音 声 学	キム 金	ドン 東	ジュン 俊	4 単 位
				2 ～ 4 年
				通 年

<前期>

日本語の音声と比較しながら韓国語の音声全般についてその特徴を講述し、かつ実践的方法によって韓国語の音声を正確に聴取・発声できるように授業を進める。
日本語と韓国語の構造は類似しているが、発音体系は全く異なるので、将来韓国語の教師になりたい人は勿論、日本語の教師になりたい人も是非履修するように勧める。

<後期>

授業内容と形態は前期とはほぼ同様であるが、演習をより多くとり入れる。

評 価 方 法：平常時の成績と期末試験の成績とを合算して評価する。

テキスト名：プリント

韓 国 語 文 法 論	はまのうえ 浜之上	みゆき 幸	4 単 位
			2 ～ 4 年
			通 年

<前期>

本講義において最も重要な問題は、現代韓国語における形態論的な範疇をいかに体系的に理解するかということである。その中でも特に重要と思われる、①用言終止形のパラダイム、②体言の格語尾の用法を取り上げることにする。

なお、解説の過程で、関連する一般言語学的な概念についても言及するので、言語学に関心のない学生にとっては退屈な授業になるであろう。

<後期>

後期授業においては、夏期休業中に行なったレポートの発表を行なう。

その後、名詞と動詞の語彙＝文法的クラス分類について論ずることにする。つまり、名詞については、1) 格語尾・接尾辞など文法的な諸要素のつきかた、2) 名数詞のつきかた、動詞については、1) 単語結合の型、2) 接続形・連体形、3) アスペクト形式、などの文法現象と、語彙的な意味によった分類を行なう。

評 価 方 法：前期は試験を行なう。後期はレポートにより評価する。

テキスト名：『コスモス朝和辞典』白水社

韓 国 語 学 演 習	キム 金	ドン 東	ジュン 俊	4 単 位
				3 ～ 4 年
				通 年

主として、韓国で放映、放送されたテレビの録画やラジオの録音を利用して聴取力の向上と、これによる同時通訳を試み、さらに進んで韓国語によるスピーチ能力を向上させるための演習を行う。

このような実践的授業を通して各自興味のある問題についてレポートを書かせる。

試 験：平常時の成績とレポートで評価する。

テキスト名：プリントなど。

日 韓 対 照 言 語 研 究 I	キム 金	ドン 東	ジュン 俊	2 単 位
				2 ～ 4 年
				前 期

現代日本語と韓国語の音韻、語彙、文法（特に助詞と語尾活用）等いろいろなレベルで対照研究し、それぞれの異同を考察する。

授業形態は講義形式と演習形式を混用する。

評 価 方 法：平常時の成績とレポートで評価する。

テキスト名：プリント

日 韓 対 照 言 語 研 究 Ⅱ	キム 金	ドン 東	ジュン 俊	2 単 位
				2 ～ 4 年
				後 期

「日韓対照言語研究Ⅰ」に引き続き、文法（特に時制とアスペクト）、敬語法、文末表現について対照研究し、それぞれの異同を考究、確認する。

授業形態は「日韓対照言語研究Ⅰ」と同様であるが、演習形式をより多くとる予定である。

評 価 方 法：平常時の成績とレポートで評価する。

テキスト名：プリント

韓 国 語 社 会 言 語 学 Ⅰ	はま の うえ 浜之上	みゆき 幸	2 単 位
			3 ～ 4 年
			前 期

本講義は、社会的文脈に置かれた言語状態を取り扱う立場、つまり社会言語学的な観点にたって、現代韓国語を分析しようとするものである。具体的には、社会階層、性別、年齢、親族関係、南北朝鮮の違いといった社会的な諸関係が、語彙（代名詞・呼称など）や文法（待遇法・尊待法など）にどのように反映されるかについて書かれた文献を読み進んでいく。

試 験：試験を行なう。

テキスト名：プリント

韓 国 語 社 会 言 語 学 Ⅱ	はま の うえ 浜之上	みゆき 幸	2 単 位
			3 ～ 4 年
			後 期

「韓国語社会言語学Ⅰ」の講義において明らかになった問題点をもとに、夏期休業中に韓国において実際に行なった言語調査の結果を授業中に発表する。それが不可能なものは、『コスモス朝和辞典』の該当項目を調査したものを発表することにする。

テーマとしては、「韓国語社会言語学Ⅰ」でのものに加えて、専門語・隠語・外来語・流行語・方言・在日韓国人の言語、などの調査も考えられるであろう。

評 価 方 法：レポートにより評価する。

テキスト名：プリント

韓 国 史 概 論	はま 濱 なか 中 のぼる 昇	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

韓国史（近代以前）に関する基礎的な知識の習得を主な目的として、およそ次のテーマで講義する。

1. 古朝鮮 2. 高句麗 3. 百済 4. 新羅の台頭と加羅諸国 5. 新羅の統一と発展 6. 高麗の成立 7. 高麗郡県制と民衆支配 8. 高麗支配体制の動揺 9. モンゴルの支配と高麗の滅亡 10. 朝鮮王朝の成立 11. 士禍・党争の時代 12. 英・正時代 13. 世道政治

<後期>

韓国近現代史に関する基礎的な知識の習得を主な目的として、およそ次のテーマで講義する。

1. 大院君政権 2. 閔氏政権の成立と開国 3. 壬午軍乱 4. 甲申政変 5. 東学と甲午農民戦争 6. 日清戦争と甲午改革 7. 初期義兵と独立協会運動 8. 日露戦争と乙巳保護条約 9. 植民地支配と民族運動 10. 民族分断と朝鮮戦争 11. 分断下の朝鮮・韓国

試 験：期末試験を行なう。

テキスト名：朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史（新版）』三省堂

日 朝 関 係 史	はま 濱 なか 中 のぼる 昇	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

古代の日韓関係史に関する基礎的な知識の習得と学術上の問題点の把握を目的として、およそ次のテーマで講義する。1. 七支刀銘文 2. 広開土王碑文 3. 『宋書』倭国伝 4. 日本古代国家の形成と日韓関係

<後期>

中世の日韓関係史に関する基礎的な知識の習得と学術上の問題点の把握を目的として、およそ次のテーマで講義する。1. 中世日本の韓国観 2. 14世紀後半の倭寇 3. 15・16世紀の日韓関係と対馬 4. 壬辰・丁酉倭乱 5. 柳川始末 6. 華夷秩序と朝鮮王朝

試 験：期末試験を行なう。

テキスト名：プリントを使用する。

韓 国 近 代 史	チョウ 趙 ケイ 景 タツ 達	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

近代における日本との関係史について考える。その際、日本と朝鮮の近代思想の質的違いにも考察を加え、なぜ朝鮮と日本の運命は全く逆なものになったのかという問題に答えていきたい。授業はゼミ形式で行いたいと思うので、積極的な発言を期待する。

<後期>

前期に引き続き、日本との関係史について考えるが、植民地を中心として討論を進めたい。

評 価 方 法：レポートの結果で評価する。

テキスト名：『近現代史のなかの日本と朝鮮』東京書籍 1991年 2,800円

韓 国 史 特 講	はま なか のぼる 濱 中 昇	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

正倉院所蔵のいわゆる新羅村落文書に関する内外の研究を批判的に紹介することを通して、統一新羅時代の村落制度・家族制度を考察する。

<後期>

高麗の家族制度・村落制度・地方行政制度に関する内外の研究を批判的に紹介することを通して、高麗の歴史的位置を考察する。

試 験：期末試験を行なう。

テキスト名：プリントを使用する。

韓 国 の 政 治 経 済	いそ ざき のり よ 磯 崎 典 世	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

政治体制の変動と経済成長の問題を相互に関連させながら捉えるという視角から、韓国の政治・経済に関する講義を行う。その際、歴代政権の特徴、その下での開発政策の展開と結果、経済成長に伴う社会の変化と政治体制への影響などを中心に、1945年以降の政治経済の展開を、国際関係などの背景をふまえて総合的に把握することを試みる。

<後期>

前期に引き続き、80年代末までの韓国の政治・経済を扱う。

評 価 方 法：レポートと論述試験。

韓 国 文 化 概 論	と さ まさ き 土 佐 昌 樹	4 単 位
		1 ～ 4 年
		通 年

<前期>

韓国文化の諸相について文化人類学的な視点から講義する。映像資料なども用いながら、個々のテーマについてできるだけ具体的な理解が得られるようにする。また同時に、東アジア文化圏やグローバルゼーションとの関連を視野にいれ、韓国文化に対する多元的な理解を追求する。

<後期>

内容面では、前期の継続となる。宗教やナショナリズムなどのより高度なテーマを扱い、韓国文化に対する深い認識を目指す。

評 価 方 法：レポートと論述試験。

韓 国 文 化 演 習	と さ ま さ き 土 佐 昌 樹	4 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

韓国文化のなかから特定のテーマを取り上げ、それに対する深い専門知識と多角的な分析視角を身につけることを目指す。授業はセミナー形式で行ない、まず該当テーマについてのテキスト（日本語および韓国語）の読解を中心に行ない、次の段階として学生が準備した個別的な発表をもとに進めることとする。授業では、参加者各人が活発に議論を戦わせることが何よりも期待されている。

試 験：レポート

韓 国 文 化 特 定 研 究	と さ ま さ き 土 佐 昌 樹	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

日本と韓国の文化について比較的な視点から論じたテキストを毎週一冊の割合で取り上げ、その内容と方法を批判、分析する。授業は学生による発表と討議を中心に進めることにする。

試 験：レポート

韓 国 言 語 文 化 概 論	ア ン ウ シ ッ 安 宇 植	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

受講者のレベルを見ながら、韓国現代文学作品のさまざまな文体を読み、かつ翻訳するトレーニングをしたい。

<後期>

前期と同じ。

試 験：レポートと翻訳。

テキスト名：プリント

韓 国 文 学 史	アン ウ シク 植	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

<前期>

新小説に代表される近代前夜の文学から、日本の植民地下の1945年8月15日までの近代文学の流れと、文学者たちの動向を見ていきたい。

<後期>

1945年8月15日以後のイデオロギーの対立による文学分野の南北分裂と、その後の南北両地域の文学の変遷などを、韓国現代文学の流れを軸に見ていきたい。

試 験：レポート

テキスト名：プリント

原 書 講 読	フオン 権 チェ スク 在 淑	4 単 位
		2 ～ 4 年
		通 年

韓国語の小説・随筆・詩など、様々な文体のテキストを厳密に〈読む〉ことを通して、韓国語の広さと深さを味わいたい。

試 験：随時試験を行なう。レポートを課すこともありうる。

テキスト名：プリント

3. 教職科目

教 育 原 理 A ・ B	ぬま の いち お 沼 野 一 男	2 単 位
		2 年
		前 期

教職を志すものの基礎的能力の習得を目標として、現代の学校教育に関する諸問題を考察する。具体的には、教育と学習、学校教育と生涯学習、教育の方法、職業としての教師という問題を取り上げる。詳しい授業スケジュールは最初の時間に配付する。

なお、教育に対する興味・関心の喚起と学習方法の習得を重視して、テキストによる自学と教室での質疑応答によって授業を行うので、それに耐えられる意欲のある学生の受講を希望する。

評 価 方 法：期末試験は行わない。評価には質問票、レポートなどの提出物および授業への参加度を考慮する。

テキスト名：沼野一男他『教育の原理』学文社

沼野一男『情報化社会と教師の仕事』国土社

教 育 原 理 C ・ D	あずま とし のり 東 敏 徳	2 単 位
		2 年
		前期・後期

教育ほど人の一生の中で大事なことは数少ない。そうであるならば、教育に携わる教師という仕事もはかり知れない大事さを持つ仕事である。本講義では教師を志す際に必要な知識や技能の習得を目標としている。しかしたんに知識を増やすだけでは不十分である。私たちは現代の学校教育の中で生じている様々な問題の解決に有用な知識を持たなくてはならない。そのためには、現象面での知識を拡充するとともに、その知識の理論的整理が必要となる。授業においては教育に関する具体的問題について互いに意見を交換し、それぞれの主張の正当性を確認していくことを通じてこれらを学ぶ。

評 価 方 法：評価は授業中のレポート、テスト、および平常の授業の出欠席の状況などを勘案して行う。

テキスト名：教室で指定する。

教 育 心 理 学 A ・ B	た はら しゅん じ 田 原 俊 司	2 単 位
		2～3 年
		前期・後期

本講義は、1) 生徒の諸問題（非行、校内暴力、「いじめ」、不登校、高校中退、薬物乱用など）の現状と特徴、2) 諸問題を引き起こすに際して生徒に生じる心理的メカニズム、3) 生徒の諸問題に対する取り組みの基本的視点、4) 具体的指導方法・対策の検討を通じて、生徒の精神発達のメカニズム・発達段階を理解することを目指している。

評 価 方 法：レポート試験を実施する。

テキスト名：『いじめ相談室ーベテラン教師からのメッセージ』田原俊司（編著）1991、八千代出版

教 育 行 政 学	おか ばやし たかし 岡 林 隆	2 単 位
		2 ～ 4 年
		前 期

現代の社会は、法律がもとになって動いている。一見関係がないように思われる教育でも、その背景には、法律、行政の制度があって毎日の教育活動が行われている。これらについて基本的な知識を身につけて初めて良き教育者となることが出来る。そこに教育行政や教育法規を学ぶ必要性が出てくる。

講義では、学校教育に必要な基礎的な法律、制度の仕組みを中心に、具体的な問題にも触れ、教育行政についての体系的な知識の修得を目指すことにする。

第一回目の講義において、最終回までの講義スケジュールを示す予定。

評 価 方 法：期末試験として、予め出題する小論文問題と択一・穴埋め問題の計 2 題を出題する。

テキスト名：霜鳥秋則著『テキスト教育行政入門』第一法規出版
 菱村幸彦著『やさしい教育法規の読み方』教育開発研究所
 『教育関係法令集』（第一法規、学陽書房、ぎょうせい等から出版されているので、そのうちどれでもよい。）
 必要に応じてプリントを配付する。

教 育 社 会 学	あら い てる お 荒 井 昭 雄	2 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

教育社会学の基礎理論を学び、現代教育の諸問題を教育社会学的視点から分析し、教育の社会的使命と役割について考えさせたい。

講義内容としては、教育社会学とは・学校教育の発達と拡大・学歴社会・問われている学校教育・教師たちの現在・現代家族と子どもの教育・現代社会の中の青少年・教育改革の方向－生涯学習論を中心に－、を考えている。

講義と課題研究、発表、討議を併用する。

評 価 方 法：中間テスト、期末テスト、課題レポートの評点、及び出席率も考慮して評定を行う。

テキスト名：新堀通也・加野芳正著『教育社会学』玉川大学出版部

教 育 工 学	ぬま の いち お 沼 野 一 男	2 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

現代の科学と技術の進歩は、さまざまな新しい教育の方法とそれに利用される多様な教育メディアを生み出している。この授業では教授工学の理論を紹介するとともに、それに基づく授業設計の理論、授業の展開、教育メディア、教育におけるコンピュータの利用、教育の評価等を取り上げる。

詳しい授業スケジュールは最初の時間に配付するが、授業はテキストによる自学と教室における V T R の視聴および質疑応答を重視するので、意欲のある学生の受講を希望する。

評 価 方 法：期末試験は行わない。評価は質問票、レポートなどの提出物および授業への参加度による。

テキスト名：沼野一男他『教育の方法・技術』学文社

教 材 開 発 論	ぬま の いち お 沼 野 一 男	2 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

詳しい授業スケジュールは最初の時間に配付するが、この授業では授業設計の目的、意義、技術について学ぶ。また、具体的な授業を想定して授業目標の明確化、目標行動の論理分析、コースアウトラインの決定、教授フローチャートの作成等の演習を行う。

演習は2～4名のグループで行うが、希望するグループはC A I のコースウェアのスク립ト（台本）の作成に挑戦することもできるので、実践的な興味のある学生の受講を希望する。

評 価 方 法：期末試験は行わない。評価は質問票、レポート、グループ演習の結果、および授業への参加度による。

テキスト名：沼野一男他『教育の方法・技術』学文社
沼野一男『情報化社会と教師の仕事』国土社

コンピュータの教育利用 A・B	た はら しゅん じ 田 原 俊 司	2 単 位
		2 ～ 4 年
		前期・後期

本講義は、コンピューターのプログラム言語の一つであるC言語の基本的習得が到達目標である。自分の作ったプログラムをパソコン上で動かすことができるようになることを目指す。さらに、C言語を用いて、推測したり予測したりするための統計的方法について検討し、データを解析することを目的とする。講義内容として、確率モデル、確率分布、標本分布、統計的推論、検定と推定の実際などの統計が中心となる。

試 験：プログラムの作成による試験を実施する。

テキスト名：『100万人のC言語』（上・下）高作義明 技術評論社 1990

英語科教育法 A・B・C・D・E	さ さ き てる お 佐々木 輝 雄	4 単 位
		3 年
		通 年

前期は我が国の英語科教育課程の歴史を追いながら英語教育の変遷を理解し、これからの英語教育の在り方を探る。後期は指導の背景の理論を大切にしながら、より実践的な学習指導を考える。そのため、中学校及び高等学校別に実際の教科書に基づいて学習指導案を作成し、模擬授業を中心に具体的に考える。前期、後期を通じて各種の理論に基づいて具体的な指導を体験的に理解し、英語教育の将来を展望する。

評 価 方 法：学習指導案などのレポートを主とし、模擬授業、出席なども考慮し、後期定期テストで総括的試験を行う。

テキスト名：『新旧学習指導要領の対比と考察』佐々木輝雄著
『中学校指導書一外国語編』平成元年7月 文部省
『高等学校学習指導要領解説一外国語編・英語編』平成元年12月 文部省
テキストの他にプリントを適宜使用する。

中国語科教育法	こ だ ま け い こ 児 玉 啓 子	4 単 位
		3 年
		通 年

<前期>

本講義では、高等学校の生徒に対する中国語科目の講義のあり方について模索し、実際に教職を希望する皆さんと、前期は教師として必要な言語学的な理論に重点を置き、後期は模擬授業等を通して、実際の教室運営を想定した講義を行います。学習内容は、以下の順序です。

1. 中国語教育の環境
(世界に於ける中国語教育、中国の地理・歴史・文化・教育制度・政治等)
2. 日本に於ける中国語教育の歴史と中国語教育法の変遷
3. 入門期の中国語テキストと言語学
4. 中国語学習のストラテジー (外国語習得理論とメソッド等)
5. 中国語教育の目標と課題
6. 中国語について
 - ① 発 音
 - ② 語 彙
 - ③ 文 法
 - ④ 文 型
7. 教材と教材研究 (日本に於ける現行テキストの問題点)

<後期>

8. 各種のテスト、評価及び測定
9. 「学習指導要領」と学習指導案
10. 学習指導案作成
11. 模擬演習

評 価 方 法：講義時にシラバスを配付するので、それに沿ってプレゼンテーションを行う。必要に応じて、レポート等の課題提出があり、指導案、口頭発表等を総合的に評価する。

テキスト名：プリントと参考資料のリストを講義時に配付します。

スペイン語科教育法	ほ ん だ せ い じ 本 田 誠 二	4 単 位
		3 年
		通 年

高等学校のスペイン語課程の授業を担当する能力を養うことを目的とする。スペイン語を教授する際に注意すべき比較言語学的側面を、発音、文法、語彙において論じ、スペイン語教育の方法を実践の中で体得していく。履修者は実際の初等教科書に準拠した学習指導案をもとに、模擬授業を行ない、批判と討論によってよりよい授業をつくる方法を探っていく。同時に外国語習得法に関する様々な見方を紹介して、外国語を学ぶことの意味と方法についての再考を試みる。

評 価 方 法：授業中の発表および討論、期末レポートによる。

韓国語科教育法	はまのうえ 浜之上	みゆき 幸	4 単 位
			3 年
			通 年

<前期>

本講義は、高等学校の韓国語授業を行なう際に必要となる能力を養うことを目的とするものである。前期は以下のことを行なう。

1) 日本に於ける韓国語教育の歴史と現状、2) 「朝鮮語の入門」の教師用マニュアルの概説、3) 韓国語教師が知っておくべき言語学的知識。

<後期>

後期は前期に引き続き、以下のことがらを行なう。

1) 日本における現行の韓国語入門教材の比較検討、2) 望ましい入門教材のあり方、3) 試験問題の作成法、4) 模擬授業による実際の教室運営。

評価方法：レポートを提出させる。

テキスト名：『朝鮮語の入門』白水社、プリント

道徳教育の研究 A・C	あづま 東	とし 敏	のり 徳	2 単 位
				2～3 年
				前期・後期

道徳は人間が「人間らしく」生きようになるとともに発生してきた。そして、道徳は人々により思索され、吟味され、次の世代に引き継がれていく。なぜなら道徳教育は私たちがより善い社会を構成し、その中で一人ひとりがより善く生きていくためには不可欠であるからである。ではどのような道徳教育がこのために必要なのか。

この問いに答えるために、授業では道徳教育に関わる具体的問題を取り上げる。そして、その問題についての討議の中で様々な立場の主張を提示し、その吟味を行うことによって、道徳教育の本質や、その実践を考える。

評価方法：評価は授業中のレポート、テスト、および平常の授業の出欠席の状況などを勘案して行う。

テキスト名：教室で指定する。

道徳教育の研究 B	あら 荒	い 井	てる 昭	お 雄	2 単 位
					2～3 年
					前 期

学校における道徳教育の現状は、必ずしも十分ではないと批判されている。子どもの健全な発達を阻害する深刻な教育状況の分析の上に立ち、理論のみでなく、長年の教育現場での実践の経験を踏まえて、学校における道徳教育をどう進めたらよいかを、国際社会に生きる日本人としての在り方、人間としての生き方の問題として捉え、学生諸君と共に追究していきたい。

テキストの内容を各人1テーマを分担して研究し、発表、質疑応答、更に補足講義で理解を深めさせる。

※中学校教育職員免許状取得希望者は必修。

評価方法：中間テスト、期末テスト、課題レポートの評点、及び出席率を勘案して評定する。

テキスト名：倉田侃司・山崎英則編著『新しい道徳教育－ひとりひとりの生き方を問う－』ミネルヴァ書房

特 別 活 動 論 A ・ B	あら 荒 い 井 てる 昭 お 雄	2 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

非行、いじめ、登校拒否等々、様々の深刻な問題をかかえる現在の学校において、「特別活動」は極めて重要な役割を果たす、教育課程の一領域となっている。それは特別活動では生徒が受身的立場ではなく、自身で計画を立て、活動を組織し実行するという、自主的・実践的態度の育成にねらいがあるからである。

本講義では、特別活動の各分野の指導の原理や方法を究明し、学校の活性化を図るために、特別活動の課題を明らかにしていきたい。

テキストの各項目を分担研究し、発表・討議を主体に、講義で不十分な点を補足する。

評 価 方 法：中間テスト、期末テスト、課題レポートの評点、及び出席率を勘案して評定を行う。

テキスト名：柴田 義松編著『特別活動―学校の活性化をめざす特別活動―』ぎょうせい

特 別 活 動 論 C ・ D	いし 石 おか 岡 ひさ 久 み 美	2 単 位
		2 ～ 4 年
		後 期

「特別活動」は、教育課程上「教科」と並んで重要な一領域を占めており、児童生徒の自主的・実践的な態度の育成を、そのねらいにしている。その分野は、ホームルーム・学級活動、生徒会活動、クラブ・部活動、学校行事等多岐にわたっているが、これらの指導の原理や課題を習得することが教員の資質の一つとして重要視されている。

そのため、本講座では講義と研究発表・討議等により「特別活動」の諸問題にアプローチする。

評 価 方 法：中間・期末テスト及び課題レポートの評点並びに出席状況を勘案して評定する。

テキスト名：柴田 義松編著『特別活動―学校の活性化をめざす特別活動―』ぎょうせい

生 徒 指 導 論 A ・ B	あら 荒 い 井 てる 昭 お 雄	2 単 位
		2 ～ 4 年
		前 期

学校教育は、インストラクションとガイダンスを車の両輪として運転されてこそ、その成果が期待できる。しかるに現実には受験体制に押され、とかくガイダンスが軽視されたり、あるいは、管理主義的な生徒指導に陥っている傾向もみられる。

生徒指導とは本来、生徒の可能性を引き出し、自己指導力を育成することにある。そのような意味において、生徒指導・進路指導・教育相談に関する基本的問題について、理論と実践の両面から究明し、教員になるための資質を育成する。

講義と課題研究、発表、討議を併用する。

評 価 方 法：中間テスト、期末テスト、課題レポートの評点、及び出席率を勘案して評定する。

テキスト名：仙崎 武編著『生徒指導―生き方と進路の探求―』ぎょうせい

生徒指導論 C・D	いしおか ひさみ 石岡久美	2 単位
		2～4 年
		前期

現在、我国の学校教育は、いじめ、登校拒否、非行等の深刻な問題に直面しており、より積極的な生徒指導による対応が求められている。生徒指導は、学校においては教科指導と並ぶ両輪の一つであって、児童生徒一人ひとりの自己指導能力を育てることが究極のねらいである。従って、生徒指導の原理や方法について理論と実践の両面から究明し、教員としての資質を習得することが必須であろう。

そのため、本講座では講義と研究発表・討議等により生徒指導（進路指導・教育相談を含む）の諸問題にアプローチする。

評価方法：中間・期末テスト及び課題レポートの評点並びに出席状況を勘案して評定する。

テキスト名：仙崎 武編著『生徒指導－生き方と進路の探求』ぎょうせい

教育実習 I	あらい たはら いしおか 荒井・田原・石岡	1 単位
		3 年
		後期

教育実習Ⅰは、学校の現場実習に臨むための準備をし、心構えを育成する事前指導である。指導には、本学の教職課程担当者が当たるほか、千葉県及び千葉市教育委員会、中学校・高等学校の校長・教頭・教諭の先生方をお招きし、大略以下のようなことについて講義と演習を行う。

教育実習の意義と目的、教員の服務と実習生の心得、中学校・高等学校の教育課程の理解、教材研究と学習指導、学級・ホームルームの運営と指導、中・高校生の生徒指導の実際、教員の一日と学級・ホームルームの事務処理等。

評価方法：3年次後期の土曜日の午後に、特別の時間を設定して実施。出席率及び実習日誌の整理で評定する。

教育実習 II	教職課程担当全教員	2 単位
		4 年

教育実習Ⅱは、中学校・高等学校で行う現場実習である。

評価方法：実習校の評定及び実習日誌の点検等を評価し、教職課程委員会が評定を行う。

4. 自由科目

特 別 英 語 演 習 A	ルイス フィリアンテ LUIS FULLANTE	2 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

<前期>

This is an integrated course of reading and writing. The primary objective of the reading component is to introduce students to basic academic reading/ vocabulary skills and survival lexicon. At this level, student will learn to recognize main idea, scan for information, guess meaning from context clues, scan a passage for specific detail and skim for general comprehension.

<後期>

The writing component will prepare students to develop skill primarily in basic academic writing like paragraph development, format and mechanics, sentence level including word order (i.e. noun, adjective placement, etc.) and sentence types (i.e. statement, questions, etc.).

評価方法：Grade will be based on attendance, participation and short written report.

テキスト名：Reading Materials Will Be Provided by Professor.

特 別 英 語 演 習 B	スーザン シュトラウス SUSAN STRAUSS	2 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

別紙参照

特 別 英 語 演 習 C	み た たか のり 三 田 高 敬	2 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

This is an integrated course of English as a second language to develop reading & writing skills. Reading skills development will be focused for the first semester and writing skills for the second semester.

<前期>

You will be requested to summarize a story orally every week. You are not allowed to read your prepared summary. You are also expected to explain the words and phrases in each story. Your active participation will be highly required.

<後期>

You will be requested to write essays on given subjects. Paragraph development and the use of references will be studied as part of the course.

評価方法：Grades for this course will be determined based on attendance, participation, homework, essays, and an exam.

テキスト名：To be announced.

特 別 英 語 演 習 D	デニース ダグラス ブラウン DENISE DOUGLAS—BROWN	2 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

＜前期＞

This is a course for integrated English as a second language. The focus of the course in the first semester will be placed on the development of listening comprehension skills. Students will practice listening comprehension using a textbook and a cassette tape.

＜後期＞

The focus of the second course in the second semester will be placed on the development of speaking abilities. Students will be encouraged to express themselves in English in a group work. A textbook will be assigned in order to develop speaking abilities.

評価方法：The grade for the course will be determined by class attendance and participation in exercises in each class meeting.

テキスト名：To be selected.

特 別 英 語 演 習 E	ジョセフ ウォーレン ポールシャック JOSEPH WARREN POULSHOCK	2 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

The aim of this course is to help students use and develop all of their communicative English skills through interaction with authentic content -based materials.

Through communication activities students will develop their language proficiency in the four major skills: listening, reading , speaking, and writing, as well as the following sub-skills: grammar/vocabulary, and pronunciation. Lastly, students will develop their own language learning strategies with the aim to better know how to more skillfully and strategically learn languages.

評価方法：Grading will be determined by the the following criteria.

1. Participation and attendance	25%
2. Quizzes	25%
3. Project or Journal	25%
4. Final-exam	25%

フ ラ ン ス 語 Ⅲ	ふじ た とも こ 藤 田 知 子	2 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

原則として、フランス語力を磨く語学面の勉強を続けながら、フランス文化をよりよく知るための授業をときどき混ぜて行います。履修者が4年生中心なので、予習なしでも、また、中断があっても、いつでもまた参加できる授業内容にするつもりです。

試 験：未定

テキスト名：未定

ド イ ツ 語 Ⅲ	し が な み ゆ う こ 志賀浪 優 子	2 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

短編小説、新聞、雑誌を読んだり、詩を暗記したり、ビデオやテープを使って会話の練習したりと、限られた時間でなるべく異なるドイツ語を体験して、ドイツ語の楽しさ（特にこれだけ初級文法で苦勞したのだから！）を味わうことにする。

評 価 方 法：レポート及び口頭発表。

テキスト名：必要に応じてプリントを配付する。

ス ペ イ ン 語 Ⅲ	ア ナ マ リ ア デ ミゲール ANA MARIA DE MIGUEL	2 単 位
		3 ～ 4 年
		通 年

El objetivo del curso es continuar en la labor de capacitación del estudiante para comunicarse con hispano-hablantes. Se incluyen aspectos gramaticales, nociofuncionales y discursivos, junto con ideas culturales. El material auditivo utilizado recogerá muestras reales de diálogos, y las grabaciones contienen voces auténticas con una variedad de acentos procedentes de España e Hispanoamérica. Se trabajarán las cuatro destrezas, con cierto realce de la interacción oral.

評 価 方 法：1. Asistencia, ejercicios, participación.

2. Examen semestral y examen final:escrito (40%), oral (60%)

テキスト名：MIQUEL, L. Y SANS,N. - Intercambio 2. Editorial Difusión. Madrid.

平成 8 年度 学生便覧
(平成 6 年度以前入学者用)

平成 8 年 4 月 1 日発行

編集・発行 神田外語大学 教務課

〒261 千葉市美浜区若葉1-4-1
電話番号 043-273-1233



神田外語大学

千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1